墨東大学でまなぶ

履修と卒業要件

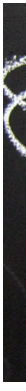
墨東大学は、まちを「教室」に見立てて、あたらしい学習環境をつくりだすための「しかけ」です。次ページの資料のように、学生たちは、一定の単位を取得しながら「卒業」を目指すことになります。今回の試みでは、「向島概論」と「卒業制作」を必修科目とし、あとは好きな科目を、好きな時に（好きなだけ）履修できるようにしました。卒業に必要な 124 単位のうち 84 単位を 2 つの必修科目で取得できるので、残りの 40 単位分を、じぶんの都合に合わせて履修します。

ところで、墨東エリアのさまざまな魅力は、必ずしもそこに暮らす人びとだけで共有されるものではありません。ぼくたちのように、外部からの訪問者を惹きつける力も大切です。こうした観点から、いわゆる「よそ者」と地域コミュニティとの関わりについて考えるとき、「リピーター」を増やすことがひとつの目標として提案されることが少なくありません。クーポンやポイントカードは、「リピーター」獲得のための代表的なアプローチとして挙げられるでしょう。

従来から、大学は、時間割やカリキュラムという仕組みによって、地域コミュニティにおける「リピーター」を生み出してきたと考えられます。今回のように、コミュニケーションためのの装置として〈大学〉をデザインする際、さまざまな道具やグッズは、活動履歴を記録する媒体にもなります。メンバーシップの証として発行する「学生証」は、スタンプカードのような機能を持たせて運用しました。〈大学〉での学修プロセスを「学生証」に記録することで進捗を記録し、さらに、所定の期間中に何度か地域に足をはこぶための動機づけにもつながりました。

墨東大学の学生は、一方的にまちでの体験を消費するだけではなく、「リピーター」として、複数回まちとの関わりを持ち、その成果をまちに還元するように求められます。具体的には「卒業制作」を義務づけ、成果をまちで公開しました。これは、学生たちの学習の成果であると同時に、ある一定期間にまちに足を運び、墨東エリアの人びとと関わりを持ったという、〈関係の現れ〉として理解することができます。この「しかけ」を活用することによって、人びとが成果を展示していく過程では、必然的に地域に暮らす人びととのコミュニケーションが発生します。

さらに考えておきたいのは、墨東大学を卒業したあとです。ひとたび関わりをもった墨東エリアは、定期的に通わなくなったとしても、親近感をいだく大切な場所になります。（加藤文俊）



【資料】墨東大学における科目履修と卒業要件

次の２条件をともに満たすと卒業になります。

1. 入学後「墨東大学」に１期以上在学すること。
2. 次の所定の単位を、それぞれ、すべて修得すること。

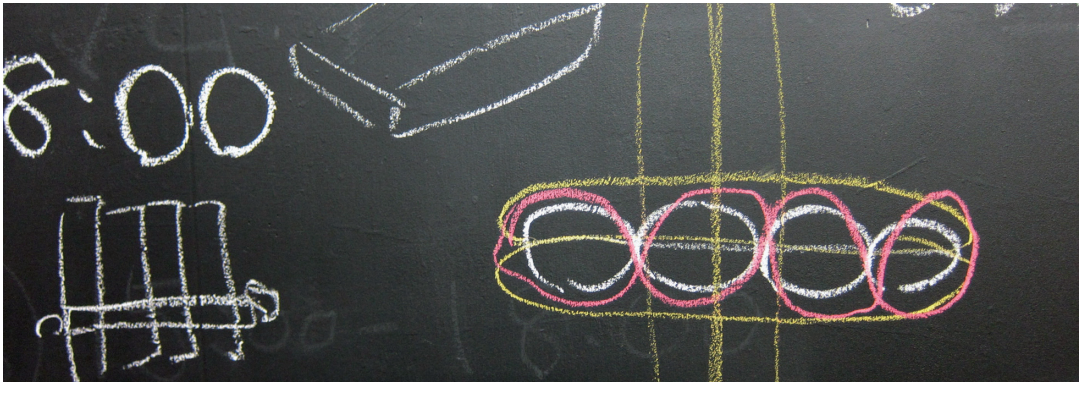
卒業に必要な条件	向島学部（向島学科）
A	合計 124 単位以上 ただし、次の単位は卒業に必要な 124 単位の中に含めることができません。 ・入学後に他大学などで履修および認定されて修得した単位すべて
B	必修科目で 84 単位以上
C	必修科目以外で 40 単位以上

必修科目　[ ] 内は単位数

・向島概論：「墨東大学」の舞台となる向島エリアについて学びます。[50]

・卒業制作：卒業要件として、全員が履修する。それぞれの関心に応じて、半年間の成果を形にしてまとめ、「卒業制作展」に出展することが義務づけられている。なお、卒業制作をすすめるにあたっては、講師陣のなかからひとり（もしくは複数名）をアドバイザーとして、密に連絡を取りながら仕上げるのがよい。[34]

・他の科目については、「講義録」を参照



卒業制作

第一期卒業制作
作品リスト

臼井 隆志
kikunoya chair
「ミニマムアーバニズムII」で生まれたベンチ。京島校舎のとなりにあるもつ焼き屋「きくのや」の店先に設置され、町の人の憩いの空間を生み出します。

飯田 達彦
京島お散歩ガイド
京島校舎の周辺を、約 30 分かけて歩きながら、感じたことをとにかく声に発して、IC レコーダーに録音しました。音声を聞きながら、同じルートをなぞって歩けば、自分とは異なる視点や感覚から、まちに潜む多様な側面を発見できるかもしれません。

水谷 晃毅
21 歳男子、はじめての編み物
編み棒を触るのも生まれて初めて。スーツ姿の男が、商店街の一角で背中を丸めて必死に毛糸と格闘している…なかなか面白い光景だったと思います。途中通りかかった編み物マスターのおばあちゃんから「編み目がキレイ」とまさかのお墨付きをいただいた、渾身の力作です。

神通 絵里花
つながる
寒い冬に、お喋りしながら編みもの。たまにはこういうのもいいよね。墨東大学でのから始まった、私の編みもの。その中には、新たな出逢いが詰まっている。編むとともに感じた、人と人とのつながり。

三枝 峻宏
墨東カンバッチ
〜ちょうちんシリーズ〜
京島校舎の周辺で見つけた、夜の墨東のまちにひろがる星たち一光り輝くちょうちんを題材として制作したカンバッチたちです。たくさん集めれば、自分だけの飲み屋街を作ることができます。シークレットは、飲み屋のおじさん達のキラキラとした笑顔。これもまた夜のまちでなければ見つけることのできないモノなのです。

仲尾 千枝
WA!
編み物初心者の私は、折り返しもせずひたすら編み続け…色んな毛糸を繋げてできた紐を輪っかにしました。実用性は全くありませんが、ご近所のおばちゃんと一緒に輪になって編み物した時間の成果です。

馬場 葉子
写真とスケッチの記録
「写真とスケッチの記録」は、生け花教室の基礎コースで記録し続けた写真とスケッチをまとめたものです。墨大の授業の中で、記録しつづけたものをどのようにアウトプットしたらよいかを考え、一冊の記録集としてまとめることにしました。
記録したものをまとめる作業を通して、写真とスケッチを並べてみるという、ふり返りをはじめて行うことにより、記録の取り方も考えさせられる一冊となっています。

丸本 智也
ドアノブ掛け
いとうさちさんの「編み編む編まれ編むとき編めば」の授業の際に制作。墨東に落ちていたビニールテープや毛糸を組み合わせて、京島校舎のトイレにかけられるような、ドアノブ掛けをつくりました。

大崎 敬志朗
(仮) 映像コンテンツ
「なかじの恋路」
なかじさんの恋路に触れる映像。3/3 に墨東大学京島校舎と東向島珈琲店にて撮影。当日は絶好のロケ日和で、学生のみなさんと会話を弾ませながら楽しく意欲的に撮影に参加させて頂きました。なかじさんのアクティングがナチュラルで必見です。

森部 綾子
墨東チラ見世
墨東エリアでなかぢの淡い恋の物語 (実話) を回想しながら展開していきます。なかぢの恋愛に迫るドキュメンタリータッチの作品です。どこか懐かしいような、せつないような、誰もが恋愛に対して抱いたことのある気持ちを思い出させてくれる青春ストーリー、なかぢの白熱した演技にこうご期待 !

渡部 拓郎
墨東怪異物語
墨東のまちには「怪異」の伝承が多く残されています。そうした怪異の姿と物語を、iPhone アプリケー

ションを用いて可視化したのが墨東怪異物語です。
このアプリを使用しながらまちを歩いてもらうことで、普段とは違ったまちの一面を見る事ができます。

大間知 卓
昼寝をするための徹夜
渡邉大晃の卒制概要と同じです。

徳山 博章
なかぢの恋路
墨東大学の職員、「なかぢ」こと中島さんの中高大学生の主に「恋愛」に関する想い出から構成される短編映像の「予告編」を制作しました。本編の展示はなく、あくまで予告編とポスターの展示となります。

鷹箸 優
なかぢの恋路
墨東大学の職員、「なかぢ」こと中島さんの中高大学生の主に「恋愛」に関する想い出から構成される短編映像の「予告編」を制作しました。本編の展示はなく、あくまで予告編とポスターの展示となります。

新飼 麻友
ひさしぶりの編みもの。
編みかたを思い出しつつ、始めました。墨東とは一見無関係ですが、あそこにいたから思いついた、いとうさんに教えていただいたからできた、そんな作品だと思っています。

石山 睦弓
muuvie 冊子
この小冊子は、映像作品「muuvie」に付属するジャケットである。冊子には、映像内に含まれる情報が視覚化されている。この冊子制作を通して、印刷物のデザインの難しさを学んだ。担任のかざるさんには頭が上がりません。

田中 絵里
my ノート made in 紙のバイキング
堂地堂さんの向島ノート展、「紙のバイキング」というイベントにて制作したオリジナルノートです。イタリアの紙から藁半紙まで、様々な種類の紙を贅沢に使わせて頂きました。色んな書き味が楽しめて、色んな人に書き込んで欲しくなるノートです。

相原 瑛里
編み物・携帯入れ
「編み物って、なんか、女の子らしい!」という単純な思いから始まった私の編み物。訳もわからず失敗した所を上手く活かしたり、道行く編み物ベテランのおばあちゃんに愛のダメ出しを受け、参考にしたりしてできた作品です。

瀬谷 昂宏
昼寝をするための徹夜，
墨東チラ見世
昼寝をする授業→徹夜時に制作した枕を展示致します。墨東チラ見世→墨東大学の職員、「なかぢ」こと中島さんの中高大学生の主に「恋愛」に関する想い出から構成される短編映像の「予告編」を制作しました。本編の展示はなく、あくまで予告編とポスターの展示となります。

南 美帆
ちいさな編綴実習
かざるさんの講座で卒業制作をするつもりなのですが、
今週は墨東へ行けなさそうなので、今回の卒業制作展で卒業をすることは難しそうです。

小林 みずほ
わたしのリトルプレス
墨東でみんなで机を囲んで出した「自分」と「相手」のために、リトルプレスを作ります。誰かに届けるということと自分に向き合う作業。

青木 日登美
キラキラキャラバッチ
京島キラキラ橘商店街で私が出会ったのは、個性豊かなキャラクターたち。
店の灯りでぼんやり燈る一本道を、のぼりや壁、屋根の上から見守っている彼らをみていると、おもわずほっこりした気持ちになります。ここでしか出会えない温かさが、そこにはありました。

原口 さとみ
プノンペンの引力
〜カンボジア、を綴じてみる〜
大学生になってから 3 度も訪れて、私という人間について語る時にかかせない要素になってしまったカンボジア。そこには明暗ある彩りと、遅くも早くもあるリズムがあります。私はそのリズムに乗りつつ残されつつ、気付けばそれらと「共存」というより「融合」する感覚を時に抱きます。一度、その「融合」してしまった部分を取り出して見つめてみ

卒業制作展

たい、見せたい。そんな思いから制作を試みました。

根岸 明子
PV
墨東大学のプロモーションビデオです。キラキラ商店街を舞台に、まちの人との交流を通して、墨東大学について皆様に知ってもらうため、体当たり撮影に挑みました。

渡邉 大晃
昼寝をするための徹夜
三宅航太郎さんの講義「昼寝をするための徹夜」の授業で、受講生4人（出席できたのは3人）がどのような徹夜を試みたのか、そのプロセスと画像をパネルで展示します。あわせて、その時に作成された枕も展示します。
※墨大生瀬谷昂宏と大間知卓との共同制作になります。瀬谷の概要が短すぎる場合は、上記の概要を使用して下さい。

鰐淵 久美
なかぢの恋路
墨東大学の職員、「なかぢ」こと中島さんの中高大学生の主に「恋愛」に関する想い出から構成される短編映像の「予告編」を制作しました。本編の展示はなく、あくまで予告編とポスターの展示となります。

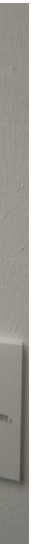
松浦 李恵
なかぢの恋路
墨東大学の職員、「なかぢ」こと中島さんの中高大学生の主に「恋愛」に関する想い出から構成される短編映像の「予告編」を制作しました。本編の展示はなく、あくまで予告編とポスターの展示となります。

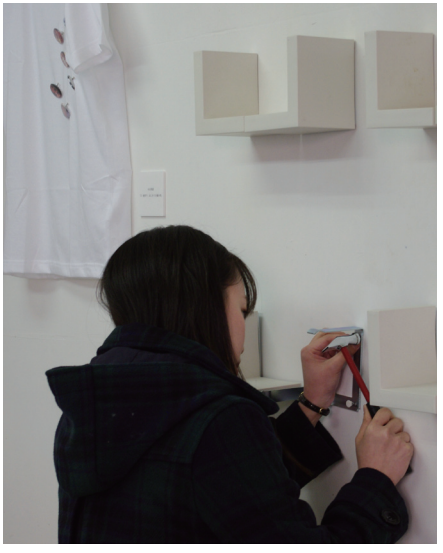
小林 信明
墨東メモリー
私が墨東で撮ったベストショットをポストカードに落し込み、墨東エリアを知らない方に雰囲気を伝えます。

岸 智子
考え中〜
す、すみません、まったく手つかず、思いつかず…。

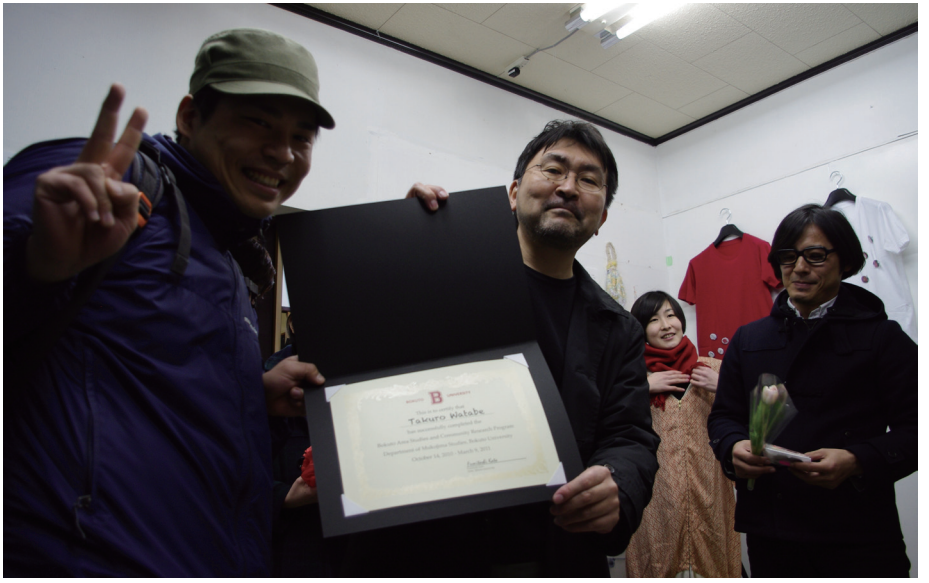
村井 洋子
なつかしい背中
この作品の主役は、向島で拾ったママチャリの子ども用座席。
変形してしまったこの座席は、いつしか使い古されて自転車から離れゴミとなった。
この座席を見るだけで母の後ろに乗っていた自分を思い出し、また母の後ろに乗る誰かを思ってあたたかい気持ちになる。

2011.3.8 ～ 11 墨東大学京島校舎にて





卒業式 2011.3.9 墨東大学 京島校舎にて



墨東大学は……
「まち」に教えてもら
をテーマとした学校
です。
どなたでも参加
できます
※飛び入り

ドキュメント
墨東大学

墨東大学 第1期生

南美帆　神通絵里花　馬場葉子　飯田達彦
崔祐美　横尾仁美　三枝峻宏　臼井隆志
原口さとみ　石山睦弓　小林みずほ　落合裕美
新飼麻友　川村恵理　香川文　田中絵里

相原瑛里　仲尾千枝　青木日登美　渡邉大晃
森部綾子　村井洋子　河部裕一　水谷晃毅
根岸明子　丸山亮　渡部拓郎　羽山敬
鷹箸優　村山諒　渡辺翔太　徳山博章

岸智子　瀬谷昂宏　大間知卓　髙橋康浩
丸本智也　伊藤さち　市川友美　石川初
渡邉千尋　細田誠二　高橋英樹　安田駿一
小林信明　大崎敬志朗　田中麻子　堀内梨沙

鈴木恭平　関根千紗子　玉置友季子　古川英幸
佐々木慎平　坂下泰代　綿貫直子　西脇一馬
栗林賢　齋藤卓也　森永晃史　石田龍太郎
大橋加誉　佐野智章　小池佐季

墨東大学 教職員

加藤文俊　石田喜美　木村健世　長岡健
中島和成　岡部大介　伊藤さち　市川真弓
荒川佳大　香川文　栗林賢　臼井隆志
村井洋子　仲尾千枝　市川友美　大橋加誉

墨東大学なつぶやき

墨東大学では、Twitter を中心としたソーシャルメディアを、学生の出席を把握したり、学生と教員のコミュニケーションの場として活用しました。#bokudai というハッシュタグと @bokuto_univ という大学の公式アカウントを中心に情報発信と活動の記録や感想などが共有されました。その記録は「墨東大学なつぶやき」として、以下のサイトにまとめられています。
http://togetter.com/li/59523

※採録にあたって、コメントのない RT は紙面の都合上、大幅に割愛しています。

墨東大学なつぶやき 誰でも編集 UP
教養・ビジネス 【編集】

http://bokudai.net/

いままで #bokudai というタグをつかっていたのに、まとめるの忘れていました。墨東大学の講座や実習は、すでにはじまっています。

「墨東大学（ぼくとうだいがく）」は、まちや地域について考えるための仕組みとして、2010年10月に実験的にオープンしました。学校教育法上で定められた正規の大学ではありませんが、「大学」という名前を冠しているとおり、いくつもの講座や実習が提供されます。まちづくりや地域活性をはじめ、さまざまなテーマを介して人と人が出会い、語り合う場所をつくる試みです。今年度いっぱいの期間限定の試みではありますが、できるかぎり単発でその場かぎりのイベントにならないよう、墨東エリアに何度か足をはこぶ（はこばざるをえない）仕組みをデザインしたいと考えています。また、墨東エリアをたんなるイベントのための「会場」として位置づけるのではなく、何らかのかたちで人びととの接点を持ち、（墨東大学というプロジェクトの）成果を まちに還すことも強く意識しています。

who_me 1 fav 309 view 2010 10/15

関連まとめ コメント

まとめられたつぶやき

メニューを開く

#bokudai「墨東大学」、、、墨東といえば、迷って•さまよって楽しい街。 そもそも、街って迷ってこそ発見できることも多いはず。 迷い、彷徨い、発見する講座をやろうっと。みんな一緒に墨東で迷子になろう。
takeyokimura
2010-07-15 23:03:02

@nakazzz @oohashikayo 26日って、企画の「プレゼン」もする感じですか？それとも事務局の方でばーっとこんな企画が届きましたよと説明する感じでしょうか。
（@who_me @takeyokimura）#bokudai
dai_okabe
2010-07-23 00:11:49

担当科目：童貞美学に笑った #bokudai
yamakake_gohan
2010-07-27 02:10:23

売れるエロ同人を描く人には童貞の方が多いらしいです。妄想力にかなり違いがでるようです。 #bokudai
evi3su
2010-07-27 02:14:02

ガハハは女性自体、D.T.はシチュエーション、そして女性はプロセスを重視しているように感じる。"@evi3su: 売れるエロ同人を描く人には童貞の方が多いらしいです。妄想力にかなり違いがでるようです。 #bokudai"
maruroot
2010-07-27 02:25:50

#bokudai これから、B大の打ち合わせ。
who_me
2010-10-08 17:27:49

B大の打合わせおわり。 リクエストを受け付けながらの「流し」方式授業、刺激的。 明日は墨東へ。 #bokudai
takeyokimura
2010-10-08 19:26:05

RT @takeyokimura: B大の打合わせおわり。 リクエストを受け付けながらの「流し」方式授業、刺激的。 明日は墨東へ。 #bokudai
who_me
2010-10-08 20:51:47

#bokudai ぼちぼち、はじまりますよ。 (@ アトレウス家) http://4sq.com/a7Hkfb
who_me
2010-10-14 16:03:05

#bokudai きょうの教室。みんな、たどり着いてください。 http://yfrog.com/5g32rvj
who_me

（左のタイムラインのつづき）

who_me #bokudai 墨東まち見世の緑のポスターが目じるし。二階です。 2010-10-14 16:06:39

kazaru ムーさんの iPhone4 に道案内を頼みます…気合いで辿り着きます… RT @who_me #bokudai ぼちぼち、はじまりますよ。 (@ アトレウス家) http://4sq.com/a7Hkfb 2010-10-14 16:15:12

mikadukihime いよいよ始まるんですね！楽しそう、いつかきっと参加します。RT @who_me #bokudai ぼちぼち、はじまりますよ。 (@ アトレウス家) http://4sq.com/a7Hkfb 2010-10-14 16:22:30

who_me #bokudai ワークショップおわり。 http://yfrog.com/ne1jllj 2010-10-14 18:27:11

who_me #bokudai 課外活動中。 (@ 上海菜館 w/ @kazaru) http://4sq.com/d7E2gX 2010-10-14 19:07:47

kazaru 小腹がすいたので何か入っていないものかとかばんの中をのぞいたら、じゃがいもがひとつ出てきた。ちょっとびっくりした。 #bokudai 2010-10-15 00:52:02

who_me #vanotica10f #bokudai きょうは向島で「キャンプ」（同時にそれはB大のプレオープン）。「お茶する?」ペアワークと、Thiagi の "Small Potatoes" を試す。あきこー欠。まるは早く回復してね。[10/14] 2010-10-15 07:58:52

who_me　昨日の "Small Potatoes" について少しまとめておく。出典は #1satsu で挙げるが、Thiagi の本から。すすめかたについては省略。30 分ほどのシンプルなワークショップだけど、ふり返りの論点はいろいろ。 #bokudai　2010-10-15 08:23:43

who_me　大切なのは、分析単位（Unit of analysis）の問題。「ポテト」というレベルで見るのか、「じゃがいも」なのか、それとも「マイポテト」まで接近するのか。集計的になれば、個性は消える。消さないと語ることができない…。 #bokudai　2010-10-15 08:32:26

who_me　逆に、個性的な「マイポテト」の〈顔〉を覚えようとするときには、「じゃがいも」であることや「ポテト」であることは、さほど気にならなくなる。ポイントは、どのレベルで対象と向き合うか。どうやってレベルを決める / レベルが決まるか。 #bokudai　2010-10-15 08:35:42

who_me　もうひとつは観察（Study/Observation）の力。どこにでもありそうな「じゃがいも」を手に取り、わずか数分のスタディーを経るだけで、それは愛しの「マイポテト」になる。たくさんの「じゃがいも」があっても峻別できる。 #bokudai　2010-10-15 08:40:08

who_me　じつは、最後の局面で @satomizm が、「これは〈私の〉ポテトではない」と（確信をもって）言うことができたのは、きちんと〈顔〉や〈姿〉を覚えていたから。「じゃがいも」なんだから、どれも同じでしょう？では済まなくなる。 #bokudai　2010-10-15 08:46:25

who_me　"Small Potatoes" は、聞いてはいたけどやるのは初。思ったより早くすすむ。記録を取るのが難しい。最後は洗って、蒸してみんなで食べて終わるようにアレンジしたかった。洗ったら / 蒸したら〈顔〉も変わって面白いはず。 #bokudai　2010-10-15 08:50:26

gabin　墨東大学なんぞ RT @bokuto_univ: #bokudai 10 月の開講スケジュールをまとめました。さらに追加されることもあります。ドタキャンは困りますが、ドタ参は可能なかぎり受け入れます。このページの左下にリストがあります → http://bit.ly/bgvS6p　2010-10-16 21:56:47

quinquepeta　#bokudai 墨大行ってみたいのだけど、平日昼間の授業が多いなぁ…。　2010-10-16 22:09:07

hair5mm　！RT @bokuto_univ: #bokudai バーチャルなところ（ネットワークのなか）に、リアルな大学を創ろうという試みはあった / あるけど、「墨東大学」の場合は、リアルなところ（墨東エリア）に、バーチャルな大学を創るという試みなのです。　2010-10-16 22:28:50

y0k0_M　墨大の開講スケジュールを読むなう。スケジュール見て確保しておかねばー http://goo.gl/0VsF #bokudai　2010-10-17 19:27:29

bokutomachimise　《ネットワークプロジェクト》墨東大学 RT @bokuto_univ #bokudai「入学について」をまとめました。暫定版ですが、これで動けそうです。（一部、修正されることもあると思いますが、まぁこんな感じで行きましょう。）http://bit.ly/b09OT6　2010-10-18 11:51:00

bokutomachimise　ネットワークプロジェクト》墨東大学 RT @bokuto_univ #bokudai 10 月 22 日（金）18:30 ごろ～「キャンプ論」（東向島珈琲店）です。定員は7～8名くらい。説明・参加表明はこちらから → http://bit.ly/diflVS　2010-10-18 11:52:10

higamuko101　ぜひ～。RT @bokutomachimise: 《ネットワークプロジェクト》墨東大学 RT @bokuto_univ #bokudai 10 月 22 日（金）18:30 ごろ～「キャンプ論」（東向島珈琲店）です。定員は7～8名くらい。説明・参加表明はこちらから →... 2010-10-18 11:55:21

bokutomachimise　《ネットワークプロジェクト》墨東大学 RT @bokuto_univ #bokudai 10 月の開講スケジュールまとめました。追加されることもあります。ドタキャンは困りますがドタ参は可能な限り受け入れます。このページ左下にリストあります→ http://bit.ly/bgvS6p　2010-10-18 11:55:38

jigajisan_net　#jigajisan #bokudai 第 1 回の「自画持参」は、最近ちょっと話題の「墨東大学」（@bokuto_univ）の講座として提供されます。　2010-10-18 12:30:35

who_me　RT @jigajisan_net: #jigajisan #bokudai 第1回の「自画持参」は、最近ちょっと話題の「墨東大学」（@bokuto_univ）の講座として提供されます。　2010-10-18 12:31:09

kazaru　RT @jigajisan_net: #jigajisan #bokudai 第1回の「自画持参」は、最近ちょっと話題の「墨東大学」（@bokuto_univ）の講座として提供されます。

2010-10-18 12:38:20

tomohy　お！？ RT @higamuko101: ぜひ～。RT @bokutomachimise:《ネットワークプロジェクト》墨東大学 RT @bokuto_univ #bokudai 10 月 22 日（金）18:30 ごろ～「キャンプ論」（東向島珈琲店）です。定員は7～8名くらい。　2010-10-18 14:44:49

bokutomachimise　RT @bokuto_univ #bokudai 11 月 10 日（水）15:00 ～「迷子学入門 I」（キラキラ橘商店街周辺）です。定員は 15 名。説明・参加表明はこちらから → http://bit.ly/c57LFV　2010-10-20 00:00:42

kazaru　（募集はじまったよ。）RT @bokuto_univ #bokudai 11 月 10 日（水）15:00 ～「迷子学入門 I」（キラキラ橘商店街周辺）です　2010-10-20 00:02:35

kotaromiyake　墨東大学にて教授を務めます。10 月末まで、「休講」です。かじこにどうぞ。 RT @bokuto_univ: #bokudai ～ 10 月 31 日（日）まで毎日。「休講」です。参加表明はこちらから → http://bit.ly/blHpTz …というより、くわしくは担当者　2010-10-20 00:06:32

kotaromiyake　RT @bokuto_univ: #bokudai ～ 2011 年 2 月 1 日（火）まで毎日。「おしょくじ（食べること）」です。10 単位。くわしくは担当者（@kotaromiyake）にたずねてください。　2010-10-20 00:06:51

inomichiko　学びに行かなくちゃ RT @bokutomachimise　RT @bokuto_univ #bokudai 11 月 10 日（水）15:00 ～「迷子学入門 I」（キラキラ橘商店街周辺）です。定員は 15 名。説明・参加表明はこちらから → http://bit.ly/c57LFV　2010-10-20 00:07:19

inomichiko　これも行かなくちゃ RT @kotaromiyake RT @bokuto_univ: #bokudai ～ 2011 年 2 月 1 日（火）まで毎日。「おしょくじ（食べること）」です。10 単位。くわしくは担当者（@kotaromiyake）にたずねてください。　2010-10-20 00:09:15

who_me　動きながらつくっていますが、まち見世と連係です。（徐々に、わかりやすい説明にします…。）RT @tiarart: 墨東大学ってまち見世と連携プロジェクトなんですか？？ RT @who_me RT @nabe_hiro #bokudai　2010-10-20 07:19:23

tiarart　プログラムとかすごく充実していて面白いですよね！すごいです！ RT @who_me: 動きながらつくっていますが、まち見世と連係です。（徐々に、わかりやすい説明にします…。）RT 墨東大学ってまち見世と連携ですか？？ RT @who_me @nabe_hiro #bokudai　2010-10-20 07:23:42

mizunohotori　RT @kotaromiyake: 墨東大学にて教授を務めます。10 月末まで、「休講」です。かじこにどうぞ。 RT @bokuto_univ: #bokudai ～ 10 月 31 日（日）まで毎日。「休講」です。参加表明はこちらから → http://bit.ly/blHpTz　2010-10-20 07:39:51

hashimon　墨東大学始動です！ RT @bokuto_univ #bokudai 10 月の開講スケジュールまとめました。追加されることもあります。ドタキャンは困りますがドタ参は可能な限り受け入れます。このページ左下にリストあります→ http://bit.ly/bgvS6p　2010-10-20 09:04:29

quinquepeta　行きたいなぁ。時間的には、なんとかなりそうなんだよなぁ…。RT @bokuto_univ: #bokudai 10 月 22 日(金）18:30 ごろ～「キャンプ論」（東向島珈琲店）です。定員は 7～8 名くらい。説明・参加表明はこちらから → http://bit.ly/difIVS　2010-10-21 18:18:42

mikadukihime　そうなんですね、レトロクッキングと合流しちゃいましょう！ 楽しみにしてます！ RT @bokuto_univ: #bokudai 10 月 22 日（金）18:30 ごろ～「キャンプ論」定員は 7～8 名くらい。（いまのところ、3 人くらいのちいさな会になりそう…。）　2010-10-21 22:49:08

kimish330　これ、どうやってつながっていくのか、楽しみ！ RT @ bokuto_univ #bokudai 10 月 30 日(土）14:00 ～ 16:00「ちいさな編綴実習：補講／於：ふるほん日和」詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/cH46jp　2010-10-21 22:56:17

who_me　#bokudai これから、墨東大学へ。遠いなぁ。　2010-10-22 15:27:47

kazaru　第一回は 18:00 ～ 20:00 になりました。詳細アップされています。 RT @bokuto_univ #bokudai 10 月 28 日（木）詳細は近日中にアップ予定「ちいさな編綴実習」です。説明・参加表明はこちらから → http://bit.ly/czcm2Q　2010-10-22 16:30:32

kazaru　そしてイキナリ（休講もせずに）補講。単発参加も歓迎です。 RT @bokuto_univ #bokudai 10 月 30 日（土）14:00 ～ 16:00「ちいさな編綴実習：補講／於：ふるほん日和」詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/cH46jp　2010-10-22 16:32:12

kazaru　（また）いつのまに！いいなぁ！ RT @bokuto_univ #bokudai 墨大カンバッチ。きょうの授業に出たひとに差し上げます。 http://yfrog.com/61vbqej　2010-10-22 16:33:34

mikadukihime　東向島珈琲店着いた。裏に公園あったんだ～。 #bokudai　2010-10-22 18:20:21

neonaon　単発もOKなんだー！ RT @kazaru そしてイキナリ(休講もせずに）補講。単発参加も歓迎です。RT @bokuto_univ #bokudai 10 月 30 日（土）14:00 ～ 16:00「ちいさな編綴実習:補講／於:ふるほん日和」

→ http://bit.ly/cH46jp　2010-10-22 19:55:41

kazaru　です！ RT @neonaon 単発もOKなんだー！ RT イキナリ（休講もせずに）補講。単発参加も歓迎。 RT @bokuto_univ #bokudai 10 月 30 日（土） 14:00 〜 16:00「ちいさな編綴実習:補講／於:ふるほん日和」 → http://bit.ly/cH46jp　2010-10-22 20:02:47

kazaru　初回実習材料の準備をはじめてみた。補講では地元の素材が手に入りそうだけど、そのまえの第1回はやっぱり入学式的ななにかを。新学期に教科書が机のうえにあるあのワクワクを。 #bokudai　2010-10-22 20:10:37

who_me　#bokudai 授業、無事に終わり！　2010-10-22 20:39:24

TakashiUSUI　「カリキュラム」と対置する、いいコンセプトを見つけたいです。 #bokudai　2010-10-22 20:41:55

bokuto_univ　#bokudai 2010 年 10 月 22 日（金）現在：在学生 23 名です。（墨東大学・入学について → http://bit.ly/b09OT6）　2010-10-22 22:40:15

bokuto_univ　#bokudai 本日開講の「キャンプ論」は無事に終了。参加者の皆さま、お疲れさまでした。参加の証に墨大カンバッチをプレゼントしました。 @TakeruNagaoka @TakashiUSUI @mikadukihime @who_me　2010-10-22 22:43:29

who_me　#bokudai きょうは、とても面白かった。4人で 90 分のおしゃべり。まだこれからだけど、アイデアはだいぶ整理された。顔を見ながら、というのはやはり贅沢だ。その場に居合わせるために、足を動かし、時間を供出する。これはとても大切なことだ…。　2010-10-22 23:20:33

who_me　#bokudai 講義や演習の概要をはじめ、諸々の情報はネットワーク上で公開。参加表明もオンラインの仕組みを活用。そして、集まりは緊密な距離で。ちょっと声が響く一角、階下から漂う料理のにおい、スケッチブックとマーカー。すべては身体で感じる。　2010-10-22 23:25:55

who_me　#bokudai つづき。〈カリキュラム〉と対比するいい言葉はないか…という件。『キャンプ論』では〈予定された参集〉と〈アドホックな参集〉という言い方をしている。でも、昨日の話だと、予定はゆるやかに決まっていて、内容が " 流し " 的ということ？　2010-10-23 06:44:30

who_me　#bokudai つまり〈リクエスト〉に応じるということかな。楽曲がプレイリストとしてあらかじめ提供されているか、それともその場の雰囲気で " シャッフル " なのか…という感じ？〈レパートリー〉は（おそらく）無限ではないから、選択と配列で勝負？。　2010-10-23 06:54:03

who_me　#bokudai もうひとつ。墨東大学の〈キャンパス〉はどこ？という問題。そもそも〈キャンパス〉と相補的な関係の場づくりとして〈キャンプ〉を語っているので、墨大は〈キャンプ〉的なんだけど、〈○○大学〉という言い方をしたために、ややこしい…。　2010-10-23 06:57:30

who_me　#bokudai その意味でも〈キャンパス〉あるいは〈キャンプ〉を成り立たせる要件をあらためて整理してみることが大切。今学期のグループワークの課題「ぐるり調査」は、そのための第一歩。「大学まち」を語るための "glossary" のようなもの。　2010-10-23 07:08:26

bokuto_univ　#bokudai 墨大グッズ：タンブラーできました。秋の夜長の勉学のお供に。 http://yfrog.com/mto1uhj　2010-10-24 10:54:14

bokuto_univ　#bokudai この墨大タンブラーをヒガムコに持って行くと、サービスしてもらえる…というようなところまで行けるとすばらしい（勝手に妄想）。少なくとも、タンブラーは会話のきっかけにはなる！ http://yfrog.com/mto1uhj　2010-10-24 11:00:47

bokuto_univ　#bokudai そう、墨大が目指すのは、（さりげなく）コミュニケーションを生み出すことなのです。だから、カンバッチをつけていれば「あ、墨大のひと？」とひと声。タンブラーを手にしていたら「きょうは、何？」ともうひと声。その積み重ね。　2010-10-24 11:03:09

bokuto_univ　#bokudai 墨大が確実に存在することの〈証〉として、さまざまなグッズをまちに散りばめます。地道に、ジワジワとやりましょう。会話の行方はわからないけど、会話の〈はじまり〉は（多少なりとも）つくることができるのではないかと考えています。　2010-10-24 11:12:22

tsurutsuki　カッコいい！ RT @dai_okabe: RT @bokuto_univ: #bokudai 墨大グッズ：タンブラーできました。秋の夜長の勉学のお供に。 http://yfrog.com/mto1uhj　2010-10-24 11:18:11

kaz_ss597　欲しい… RT @bokuto_univ #bokudai この墨大タンブラーをヒガムコに持って行くと、サービスしてもらえる…というようなところまで行けるとすばらしい（勝手に妄想）。少なくとも、タンブラーは会話のきっかけにはなる！ http://yfrog.com/mto1uhj　2010-10-24 11:38:33

bokuto_univ #bokudai ブログも書きます。bokudiary: 墨東大学・誕生秘話（どうでもいい話）http://t.co/yp95VR0 2010-10-24 17:42:29

bokuto_univ #bokudai 墨大グッズ：キーホルダーはどうでしょう?ドライブに出かけたい季節。 http://yfrog.com/728hlj 2010-10-24 19:58:49

bokuto_univ #bokudai Updated -- 10月28日(木) 18:00 〜20:00「ちいさな編綴実習」詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/czcm2Q 2010-10-24 21:36:34

bokuto_univ #bokudai Updated -- 10 月 29 日（金）18:30 〜20:00「大人の学び論 I」詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/d6bi6C 2010-10-24 21:37:56bokuto_univ #bokudai まだことば足らずですが…。bokudiary: 墨東大学について http://t.co/lpv0ETT 2010-10-25 07:11:09

skuri とりあえず確実に行けそうな日程で開講される墨東大学の迷子学入門II履修しました!あとは平日の授業とミーティングとの兼ね合いで行けるかどうか。#bokudai 2010-10-25 11:50:51

dai_okabe 墨東大学の拠点構築のために曳舟へ。「物件」を見せてもらいます。その後まち見世企画会議。 #bokudai 2010-10-25 18:10:48

kazaru .@mocomeshi ありがとう。墨東での住み開き、29日はいけないけど「住み開きシンポジウム 小さなメディアの編集とその考え方などの流通について」というのをリンク先で見つけてしまった。たぶん行く〜 #bokudai RT そしてこちら! http://bit.ly/deeFH9 2010-10-26 02:00:22

kazaru @bokuto_univ 一名間違えて No に入っている方が、Yes に動かせないと連絡あり。当日は受け入れますが、記録上対応が必要であればお願いします…。 RT #bokudai 10月28日(木) 18:00 〜20:00「ちいさな編綴実習」http://bit.ly/czcm2Q 2010-10-26 15:00:43

dai_okabe 11/10 の「迷子学入門 I」に参加する予定です．参加希望の方は，以下から参加表明をお願いします． http://twtvite.com/bokudai_101110/1 #bokudai 2010-10-26 23:09:48

pastamamire #bokudai 参加したいです（´▽`）/ 2010-10-26 23:14:57

bokuto_univ #bokudai 本日! 10月28日（木）18:30 〜20:00「ちいさな編綴実習」詳細・参加表明はこちらから（前に 18:00 〜とお知らせしたような気がしますが…）→ http://bit.ly/czcm2Q 2010-10-28 06:36:58

bokuto_univ #bokudai 明日。10 月 29 日（金）18:30 〜20:00「大人の学び論 I」詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/d6bi6C 2010-10-28 06:37:50

who_me @kazaru #bokudai【業務連絡】講義録をつくりますので、講義の様子を写した写真（2枚以上）、出席者リストを忘れずにお願いします。あとで、経過などを簡単に文章に書いていただくことになります（詳細は後日）。 2010-10-28 06:42:37

who_me @kazaru #bokudai【業務連絡】それから、出席者で (1) 学生証をもっている場合には、裏面に講座名・日付・担当者名・P/F（合否）を記入。 (2) 学生証をもっていない場合には（入学の意思を確認して）写真撮影をお願いします。 2010-10-28 06:45:04

tscafe わ、長岡先生か。行きたいけどよ用事が‥‥ RT @bokuto_univ: #bokudai 明日。10 月 29 日（金）18:30 〜20:00「大人の学び論 I」詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/d6bi6C 2010-10-28 06:45:43

mikadukihime 参加者ゼロなるか?ドキドキしますが、スミマセン、ワタクシ明日は参加できず…RT @bokuto_univ #bokudai 10 月 29 日（金）18:30 〜20:00「大人の学び論 I」詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/d6bi6C 2010-10-28 06:48:40

mikadukihime あ、学生証用の写真送らなくちゃ!スミマセン、明日やります!（なぜ今日でない?）RT @who_me @kazaru #bokudai【業務連絡】(2) 学生証をもっていない場合には（入学の意思を確認して）写真撮影をお願いします。 2010-10-28 06:50:04

who_me #bokudai「墨東大学」はリアルな仮想大学。6年前の「ネコミ大学」の試みは、(リアルな講義のなかの) オンラインの仮想大学。Link: http://tumblr.com/xrxng8ga6 2010-10-28 07:17:40

kazaru 了解しました。カメラカメラ… RT @who_me @kazaru #bokudai【業務連絡】講義録をつくりますので、講義の様子を写した写真（2枚以上）、出席者リストを忘れずにお願いします。あとで、経過などを簡単に文章に書いていただくことになります（詳細は後日）。 2010-10-28 09:00:16

kazaru こちらも了解です。RT @who_me @kazaru #bokudai【業務連絡】それから、出席者で (1) 学生証をもっている場合には、裏面に講座名・日付・担当者名・P/F（合否）を記入。 (2) 学生証をもっていない場合には（入学の意思を確認して）写真撮影をお願

いします。　2010-10-28 09:03:12

kazaru　18:30 頃までに集まってねの意です。RT @bokuto_univ #bokudai 本日！10 月 28 日（木）18:30 ～20:00「ちいさな編綴実習」詳細・参加表明はこちらから（前に 18:00 ～とお知らせしたような気がしますが…）→ http://bit.ly/czcm2Q　2010-10-28 09:16:09

kazaru　「ちいさな編綴実習」第1回、無事終了です。おいでくださったみなさん、そして @higamuko101 さん、ありがとうございました。また墨東でお目にかかりましょう！ #bokudai　2010-10-28 21:44:35

kazaru　#bokudai「ちいさな編綴実習」第1回出席: @lebeaujapon @Yahwee_ @hayamaaaaaa @kazaru お大事に→ @y0k0_M 第1回欠席：快復したら補講でね→ @masacco1 会場は @higamuko101 さん。　2010-10-28 21:51:08

kazaru　#bokudai【編綴】ひとつだけまだ迷いもあるとすれば、ある程度の部数をつくるか、一冊だけつくるか、を自由にしてみたところ。でも、やっぱりそこは、誰にどんなふうに届けたいかが決まらないと選べないから、決めてもらうしかないというのが判断だったけど。　2010-10-28 22:31:52

bokuto_univ　#bokudai 本日！10 月 29 日（金）18:30 ～20:00「大人の学び論 I」詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/d6bi6C　2010-10-29 07:36:04

who_me　@TakeruNagaoka #bokudai【業務連絡】講義録をつくりますので、講義の様子を写した写真（2枚以上）、出席者リストを忘れずにお願いします。あとで、経過などを簡単に文章に書いていただくことになります（詳細は後日）。　2010-10-29 07:37:56

who_me　@TakeruNagaoka #bokudai【業務連絡】それから、出席者で (1) 学生証をもっている場合には、裏面に講座名・日付・担当者名・P/F（合否）を記入。(2) 学生証をもっていない場合には（入学の意思を確認して）写真撮影をお願いします。　2010-10-29 07:38:44

who_me　#bokudai「墨東大学なつぶやき」です。 http://togetter.com/li/59523　2010-10-29 07:41:49

bokuto_univ　ごめんなさい。もう少しわかりやすく、ちゃんとやらなきゃ…と思いつつ。 RT @oohashikayo: ぼくだいの動きが追い切れない　2010-10-29 08:09:36

who_me　#LKiP #bokudai きょうは、@shuwachin さんと早稲田界隈を歩きます。で、そのあと余力があったら墨大の @TakeruNgaoka さんの講座へ。天気はだいじょうぶそうだな…。　2010-10-29 08:17:12

kazaru　#bokudai 10 月 30 日（土）14 時 ～ 16 時頃。雨でも屋内決行。集合場所は当日昼 @kazaru でつぶやきます。ドタ参 OK。「ちいさな編綴実習」補講 http://twtvite.com/bokudai_101030 @aohito @muuniimann @chiechiA　2010-10-29 14:00:06

kawabe73　@TakeruNagaoka 本日はありがとうございました！まさに「学びのサードプレイス」で少人数で「大人の学び」についてじっくりとお話をうかがう贅沢な時間でした。「流し」というコンセプトもおもしろいですね。 #bokudai　2010-10-29 22:39:42

engawa_02　墨東大学「大人の学び論 I」(2010/10/29) #bokudai http://dlvr.it/7kV3T　2010-10-29 23:54:15

kazaru　【業務連絡】本日の補講は、台風 14 号のため休講とします。これを読んで了解したら、お返事お願いします。 #bokudai 10 月 30 日（土）「ちいさな編綴実習」補講 http://j.mp/9R2Etk @aohito @muuniimann @chiechiA @masacco1　2010-10-30 08:08:12

bokuto_univ　#bokudai 本日の「ちいさな編綴実習」補講は、台風 14 号のため休講となりました。10 月 30 日（土）補講 http://j.mp/9R2Etk　2010-10-30 08:22:11

bokuto_univ　#bokudai 明日。11 月 3 日（祝・水）12:00 ～ 16:00「文化環境フィールドワーク」詳細・参加表明はこちらから（定員 7 名）→ http://bit.ly/djp41Y　2010-11-02 06:01:03

bokuto_univ　#bokudai 明後日。11 月 4 日（木）18:00 ごろ～「オープンキャンプ 2：墨大 PV プロジェクト」詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/cVkXaa　2010-11-02 06:02:40

bokuto_univ　#bokudai 2011 年 1 月開講予定の講座リストをアップしました（詳細については随時更新します）。 → http://bokudai.net/　2010-11-02 06:04:59

who_me　#bokudai @koki_mizutani @NegiAki @takeyokimura 明日、18:00 に曳舟駅は可能ですか?(少し早めにスタートできそうなので…。)　2010-11-03 22:35:21

bokuto_univ　#bokudai 本日の「オープンキャンプ 2：墨大 PV ワークショップ」で、ビデオをつくりました。機材は iPhone だけ。撮影して「東北」でご飯を

食べながら編集して、YouTube にアップしました。 http://bit.ly/dklTKW　2010-11-04 23:17:39

who_me　@koki_mizutani @NegiAki @takeyokimura きょうはお疲れさまでした。墨東大学のトップページにも PV を載せました！ http://bokudai.net/ #bokudai　2010-11-04 23:54:55

who_me　木村健世（2010）『墨東文庫 解説目録』：昨日、墨東大学の講義のときに、木村さんからいただいた。行き先が決まってから、ガイドブックを開くのではない。このちいさな文庫を手にすると、墨東に行きたくなるのだ…。 #bokudai #1satsu　2010-11-05 07:23:39

takeyokimura　@who_me @koki_mizutani @NegiAki 墨東大学 PV 制作おつかれさまでした。泥酔したおじさん達が繰り広げる酔いどれ劇場のすぐ隣でのビデオ編集はすごく刺激的。僕的にはあれはキャンプでした。pv 中でしゃがんで学生に話しかける男、怪しすぎる ... #bokudai　2010-11-05 11:10:42

NegiAki　@takeyokimura @who_me @koki_mizutani 昨日はありがとうございました。ついに youtube デビューです。モテる女は辛いなと初めて感じました。今度はオフィスでおじさん達を呼んで酒盛りしたいですね。周りになにも置かないで。 #bokudai　2010-11-05 11:48:02

bokuto_univ　#bokudai 墨東大学講義録（11 月 4 日：オープンキャンプ 2 墨大 PV プロジェクト）がアップされました。 → http://bit.ly/a4slgS　2010-11-06 10:52:09

bokuto_univ　#bokudai 墨東大学講義録(11月3日:文化環境フィールドワーク）がアップされました。 → http://bit.ly/d0Bm8h　2010-11-06 11:55:01

bokuto_univ　#bokudai 墨東大学ブログ（Bokudiary）「中島くんが、ナカジになるまち」をアップしました。 → http://bit.ly/9SlV75　2010-11-06 13:03:47

dai_okabe　「あ、ナカジだっ!」を通してみるまち。 RT @bokuto_univ: #bokudai 墨東大学ブログ（Bokudiary）「中島くんが、ナカジになるまち」をアップしました。 → http://bit.ly/9SlV75　2010-11-06 14:21:21

kimish330　アートプロジェクトで起こっていることを、いかに研究的に記述するかを考える上で興味深い RT @bokuto_univ: #bokudai 墨東大学ブログ（Bokudiary）「中島くんが、ナカジになるまち」をアップしました。 → http://bit.ly/9SlV75　2010-11-06 16:25:37

takeru_camp　#bokudai 墨東大学に行こう! http://bokudai.net/　2010-11-08 14:10:09

takeyokimura　#bokudai「迷子学入門 I」を受講のみなさんへ。明後日 11/10、予定通り 15：00 に墨田区京島 3-44、田丸稲荷神社に集合です。持ち物はとくになし、です。携帯電話くらい。とにかく外を彷徨い歩くので、暖かい格好で来てください。夕方は急に冷え込んだりもしますので。　2010-11-08 14:10:11

takeyokimura　#bokudai「迷子学入門 I」受講のみなさんへ 2。京島の裏路地をたくさん彷徨い歩いたあとは、墨大ハウス（勝手にそう呼んでます）でプレゼンテーション、語らい、を行ないます。質問等あれば、こちらまでDMおねがいします。それでは当日 ..... 一緒に彷徨いましょう ...　2010-11-08 14:16:42

natiru_　バイトェ ... 迷子入門に行きたかったな ...@T_cooky_ さんよ。RT #bokudai「迷子学入門 I」を受講のみなさんへ。明後日 11/10、予定通り 15：00 に墨田区京島 3-44、田丸稲荷神社に集合です。持ち物はとくになし、です。携帯電話くらい。　2010-11-08 14:27:38

takeyokimura　今回は「紙のサイコロ」ではなく、ちゃんとしたものを用意します。。小諸ではくしゃくしゃになってしまったので。 #bokudai　2010-11-08 14:27:46

kazarubooks　#vanotica10f #bokudai 実は『シビックプライド』のこのページは、前回の編綴実習のネタだったりします。たぶん小さい印刷物を一生懸命つくることと、こういう考え方は親和性が高い気がしているので。だからまちあるき本は基本なんだろうなぁ… リトルプレス。　2010-11-08 17:43:34

kazarubooks　@TakashiUSUI 忘れる前に。B 大、もし参加可能性があれば、エントリーしておいてください。 http://twtvite.com/bokudai_101114 #bokudai　2010-11-08 17:57:32

bokuto_univ　#bokudai（遅くなりました）墨東大学講義録(10月22日:キャンプ論）がアップされました。 → http://bit.ly/dBMVLq　2010-11-09 08:58:07

takeyokimura　@yoko_bb こんばんは。明日は、筆記用具など、こちらですべて用意するので、とくに手ぶらで大丈夫です。あとはリアルに迷子になる可能性もあるので、携帯電話があれば大丈夫です。 #bokudai　2010-11-09 21:44:46

bokuto_univ　#bokudai 本日(11 月 10 日)です。「迷子学入門 I（木村）」詳細・参加希望はここから。 → http://bit.ly/c57LFV　2010-11-10 07:43:46

takeyokimura　墨東到着。今日は「迷子学入門」の授業です。一緒に迷いましょう。 彷徨いましょう。#bokudai　2010-11-10 13:01:25

san_sujimanism　まりもちん うらろじはいり つうがくろ #bokudai　2010-11-10 16:08:32

dai_okabe　迷子学 ふった途端に 三分まち #bokudai　2010-11-10 16:13:01

san_sujimanism　うらろじは こどもがいるよ つうがくろ #bokudai　2010-11-10 16:23:40

dai_okabe　サイコロ、3 でないかなと思ったら、でた。 #bokudai http://plixi.com/p/56044422　2010-11-10 16:29:31

takeyokimura　迷い人達の帰還場所、準備中。みんな帰ってこれるか、、#bokudai http://yfrog.com/gi7d2kj　2010-11-10 16:37:11

dai_okabe　サイコロ 3 でたでー。 #bokudai http://plixi.com/p/56045405　2010-11-10 16:39:43

takeyokimura　ようやく二人目遭遇。あまりにも誰にも会えないので、自分が迷子になった気分。#bokudai あ、いま墨東大学、迷子学の授業中です。　2010-11-10 16:47:37

dai_okabe　やたらサイコロ 3 でるな。 #bokudai http://plixi.com/p/56046197　2010-11-10 16:48:00

takeyokimura　みんな続々と帰ってきます #bokudai http://yfrog.com/5uij8kj　2010-11-10 17:05:43

takeyokimura　迷い人を発見。鯛焼き。 #bokudai http://yfrog.com/ngtuguj　2010-11-10 17:06:13

dai_okabe　すみません、ガチで迷いました。先に移動していてください。 #bokudai　2010-11-10 17:09:02

takeyokimura　@dai_okabe 了解です。リアル迷子うれしいです。 #bokudai　2010-11-10 17:10:58

takeyokimura　迷いの記録が続々と #bokudai http://yfrog.com/2t427hcj　2010-11-10 17:27:16

takeyokimura　人の行為が街をうめつくします。#bokudai　2010-11-10 17:37:16

takeyokimura　墨東大学、迷子学入門 I。無事終了しました。参加してくれた墨大生の皆さんおつかれさまでした。サイコロの目に従って街を彷徨う、単純にそれだけなんですが、沢山のレスポンスを得られて物凄く楽かったです。googlemap にログを残せるらしいので完成したら御披露目します。 #bokudai　2010-11-10 19:49:46

bokuto_univ　#bokudai 明日(11 月 14 日)です。「ちいさな編綴実習(香川)」詳細・参加希望はこちらから。 → http://bit.ly/bAlcXL　2010-11-13 07:48:52

bokuto_univ　#bokudai イキナリ告知。明日（11 月 14 日)、本学の教員・木村さんによる「まち見世さんぽ」は、墨大の単位認定の対象です。（単位数は応談）→ http://bit.ly/98sSqG　2010-11-13 07:52:26

who_me　#bokudai あ、修正しておきました。名称は、「京島校舎」って感じ…でしょうか。 RT @takeyokimura: @woochoi「ミニマムアーバニズム」20 日、21 日ともに 16:00 スタート 18:00 終了です。　2010-11-13 12:49:04

bokuto_univ　#bokudai 墨東大学では、講座・実習の提案も大歓迎です。 RT @mixxxta: でも、鉄道講座と迷子が合わされば、小さな子から大人までカバーできてしまうのではないか…？　2010-11-15 12:49:00

bokuto_univ　#bokudai 墨大ボールペンですよ。 http://yfrog.com/jve15rj　2010-11-15 14:37:25

mOri2aYa　欲しい !!!!!!!! RT @bokuto_univ #bokudai 墨大ボールペンですよ。 http://yfrog.com/jve15rj　2010-11-15 14:54:26

kazaru　#vanotica10f アンカーポイント！アンカーになるような文章。（おそらく、墨東大学だ とシラバス。）「つねに戻れるような場所」#bokudai　2010-11-15 18:07:58

bokuto_univ　#bokudai 12 月 20 日（土）は、「童貞美学 I」です。すでに登録している方には、別途、石田先生からのメッセージを転送しましたのでご確認ください。詳細・参加表明は → http://bit.ly/90h6oB　2010-11-16 08:03:51

bokuto_univ　#bokudai 12 月 20 日（土）～21 日（日）は、「ミニマムアーバニズム I」です。詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/9AjlUJ　2010-11-16 08:05:43

bokuto_univ　#bokudai このあいだの日曜日（14 日)、墨大関係の図書を数冊（＋その他)、こすみ図書（@kosumitosyo）に届けました。すでに書架に並んでいるはず。今後も講義録など置かせていただくつもりです。　2010-11-16 08:15:28

who_me　RT @bokuto_univ: #bokudai このあいだの日曜日（14 日）、墨大関係の図書を数冊（＋その他）、こすみ図書（ @kosumitosyo ）に届けました。すでに書架に並んでいるはず。今後も講義録など置かせていただくつもりです。　2010-11-16 08:16:30

kimish330　RT @bokuto_univ: #bokudai 12 月 20 日（土）は、「童貞美学 I」です。すでに登録している方には、別途、石田先生からのメッセージを転送しましたのでご確認ください。詳細・参加表明は → http://bit.ly/90h6oB　2010-11-16 09:51:32

kimish330　@bokuto_univ #bokudai【受講を希望される方々へ】「童貞美学 I」の第 1 回講義を今後受講希望される方は、受講のために必要な映画鑑賞料が 1,000 円となる可能性があります。これまでにお申し込みいただいた方は 800 円です。　2010-11-16 09:53:54

kosumitosyo　おお、ぜひ墨大の生協的・図書館的・研究室的存在になりたいです！ @bokuto_univ #bokudai このあいだの日曜日（14 日）、墨大関係の図書を数冊（＋その他）、こすみ図書に届けました。すでに書架に並んでいるはず。今後も講義録など置かせていただくつもりです。　2010-11-16 23:46:15

bokuto_univ　#bokudai【緊急開講決定】2010 年 11 月 19 日（金）11:00 ～「みんなで昼寝をする。（三宅）」 9単位です。履修条件：18 日の晩から寝ないで来ること。詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/8Yz0En　2010-11-17 10:30:40

tokyoicchi　出たい… RT @bokuto_univ #bokudai【緊急開講決定】2010 年 11 月 19 日（金）11:00 ～「みんなで昼寝をする。（三宅）」 9単位です。履修条件：18 日の晩から寝ないで来ること。詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/8Yz0En　2010-11-17 10:38:10

hideeeeeya　オ モ ロ い w RT @bokuto_univ: #bokudai【緊急開講決定】2010 年 11 月 19 日（金）11:00 ～「みんなで昼寝をする。（三宅）」 9単位です。履修条件：18 日の晩から寝ないで来ること。詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/8Yz0En　2010-11-17 11:18:16

bokuto_univ　#bokudai #mainichigatanoshiize【新規開講科目】2010 年 12 月 3 日（金）19:00 ～ 京島校舎「毎日が楽しいぜ！」詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/99EV1J　2010-11-17 14:25:31

who_me　#bokudai #mainichigatanoshiize 墨東大学の講義・実習として認められましたので、あらためて参加登録をお願いします。お手数をおかけして、すみません。 → http://bit.ly/99EV1J　2010-11-17 14:32:10

osamy　絵に全く自信がない参加すべきかどうか。RT @bokuto_univ: #bokudai #mainichigatanoshiize 2010 年 12 月 3 日（金）19:00 ～ 京島校舎「毎日が楽しいぜ！」詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/99EV1J　2010-11-17 14:38:18

bokuto_univ　#bokudai 墨大では、授業（体育をふくむ）の提案も受けつけています。10 単位以上取ったら、先生になれます。 RT @mOri2aYa: 墨大に体育科目があったら…。アルティを。　2010-11-17 14:38:37

kimish330　毎日が楽しすぎるので参加！ RT @bokuto_univ #bokudai #mainichigatanoshiize【 新規開講科目】2010 年 12 月 3 日（金）19:00 ～ 京島校舎「毎日が楽しいぜ！」詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/99EV1J　2010-11-17 20:38:33

inomichiko　楽しそう！ RT @kimish330 毎日が楽しすぎるので参加！ RT @bokuto_univ #bokudai #mainichigatanoshiize【新規開講科目】2010 年 12 月 3 日(金) 19:00 ～ 京島校舎「毎日が楽しいぜ！」詳細・参加表明はこちらから → ht　2010-11-17 20:47:44

mOri2aYa　既に１０単位とった私は先生になれるということか‼　ディスクに慣れ親しむ＋試合する＋炊き出しという授業構成で開講なるか?!　RT @bokuto_univ #bokudai 墨大では、授業（体育をふくむ）の提案も受けつけています。10 単位以上取ったら、先生になれます。　2010-11-17 23:05:38

bokuto_univ　#bokudai 明日（11 月 19 日）は「みんなで昼寝をする。（三宅）」が開講されます。徹夜明けでの参加が条件ですので、きょうは昼寝をして、まずは楽しい徹夜を。詳細・参加表明はここから。→ http://bit.ly/8Yz0En　2010-11-18 07:50:16

mosya_mosha　行きたいゲソ RT @bokuto_univ: #bokudai【緊急開講決定】2010 年 11 月 19 日（金）11:00 ～「みんなで昼寝をする。（三宅）」 9単位です。履修条件：18 日の晩から寝ないで来ること。詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/8Yz0En　2010-11-18 10:02:33

bokuto_univ　#bokudai 封筒もできた。 http://yfrog.com/5c2b1cj　2010-11-18 16:04:16

kotaromiyake　そうそう、昼寝から起きたら授業は終わってます。起き次第解散です。 #bokudai

2010-11-19 01:04:09

nabe_hiro　ということは起きないと(ry RT @kotaromiyake: そうそう、昼寝から起きたら授業は終わってます。起き次第解散です。 #bokudai　2010-11-19 01:10:07

bokuto_univ　#bokudai【墨東大学ぷち情報】(11月18日現在) 学生数：33名　首席（取得単位数が多いという意味で）：@TakashiUSUI 次席：@nabe_hiro（一瞬の隙をつかれて寝てしまい「みんなで昼寝…」を履修できず。）　2010-11-19 10:30:57

bokuto_univ　#bokudai すばらしい。RT @yamakake_gohan: 墨大の授業。ひるねするだけです。おやすみー http://twitpic.com/3825n1　2010-11-19 12:17:02

bokuto_univ　#bokudai 先生は徹夜せずに来た…という噂。 RT @kotaromiyake: 昼寝日和 http://plixi.com/p/57748247　2010-11-19 12:18:06

who_me　#bokudai お疲れさまでした！ほんと、いい感じの昼寝日和でしたね…。 RT @kotaromiyake: 先生は先に授業終わります。 http://plixi.com/p/57757171　2010-11-19 12:25:40

kotaromiyake　はい、先生なので。でも昼寝はしました！ RT @who_me: RT @bokuto_univ: #bokudai 先生は徹夜せずに来た…という噂。 RT @kotaromiyake: 昼寝日和 http://bit.ly/cbmH5S　2010-11-19 12:41:59

bokuto_univ　#bokudai 11月10日（水）に開講された「迷子学入門 I（木村）」の講義録をアップしました。（記事の投稿日は、講座の開講日になっています。）bokudiary　→ http://bit.ly/aLflH6　2010-11-19 17:19:30

takeyokimura　#bokudai 今日は墨東大学でミニマムアーバニズムの講義 @ 京島校舎。たのしみ！それと墨東文庫の第二刷を補充。　2010-11-20 10:47:09

takeyokimura　#bokudai ミニマムアーバニズム一日目、無事終了。商店街の店主さんにどんな椅子が欲しいかインタビュー。北條さんの的確すぎるアドバイスもあり @woochoi の作る椅子のデザインもまとまりつつあります。明日は制作！　2010-11-20 20:02:33

bokuto_univ　#bokudai 墨東大学ブログ（Bokudiary）「毎日が楽しいぜ！」をアップしました。→ http://bit.ly/b34MoV　2010-11-21 01:02:24

who_me　#bokudai ミニマムアーバニズム 実習ちう。 http://moi.st/b1963　2010-11-21 18:17:00

takeyokimura　#bokudai ミニマムアーバニズム二日目無事終了。 @woochoi おつかれさまでした。 95パーセント完成。来週、商店街のとある店主さんに納品します。ドキドキ。 http://yfrog.com/edey2gj　2010-11-21 20:01:20

bokuto_univ　#bokudai 11月20日(土)～21日(日)にかけて開講された「ミニマムアーバニズム」の様子を見てきました。京島校舎から、TwitCastingで中継した映像です（やや難あり）。 → http://bit.ly/9OtlL2　2010-11-21 21:24:25

who_me　RT @bokuto_univ: #bokudai 11月20日（土）～21日（日）にかけて開講された「ミニマムアーバニズム」の様子を見てきました。京島校舎から、TwitCastingで中継した映像です（やや難あり）。 → http://bit.ly/9OtlL2　2010-11-21 21:30:17

takeyokimura　あこがれのグッズをゲット。これで勉強します。 #bokudai http://yfrog.com/n4804uj　2010-11-21 21:51:57

bokuto_univ　#bokudai 11月20日（土）に開講された「童貞美学 I」の講義録をアップしました。受講者の皆さんからのレポートも楽しみです。 → http://bit.ly/aylVyf　2010-11-22 17:08:25

who_me　RT @bokuto_univ: #bokudai 11月20日（土）に開講された「童貞美学 I」の講義録をアップしました。受講者の皆さんからのレポートも楽しみです。 → http://bit.ly/aylVyf　2010-11-22 17:08:42

who_me　#bokudai 墨大のナカジが、ギロッポンに来た！ http://yfrog.com/g4n7rmj　2010-11-22 17:44:24

bokuto_univ　#bokudai #orf2010 本日（23日）は六本木の ORF 会場が「教室」です。「地域メディア」としての大学　セッション参加で墨東大学の単位になります（課題レポートあり）。詳細・参加表明は → http://bit.ly/hsUaQO　2010-11-23 08:35:18

bokuto_univ　#bokudai 26日(金)の【オープンキャンプ3：カンバッチワークショップ（加藤）】は、休講になる可能性大です…。ごめんなさい。補講（新規科目）として、28日（日）に【お引っ越し（実習）】をおこなうかもしれません。　2010-11-23 08:40:15

who_me　#bokudai ささやかながらも拠点ができると、かなりモチベーションが上がる。実態的な文脈をイメージしやすくなるから。でも、拠点を維持する

ことが目的になってしまわないように注意したい。墨大は「仮住まい」での実践を考えるためにある。 2010-11-23 08:47:20

who_me #bokudai #orf2010 だからこそ、池田研の家具（空間演出装置）を使わせてもらいたいと思う。可搬性が高く、組み替え可能な装置。TATAMate と twisTANA を、墨大の京島校舎に運び込もう。「仮住まい」が楽しくなるはず。 2010-11-23 08:50:57

who_me #bokudai 解散・閉室を前提に、京島校舎を整える。まだはじまったばかりだけど、いまの段階から墨大をどう終えるか（たたみ方）について考えておく必要がある。可能であれば、拠点は消えても墨大そのものが持続するような仕組みをつくる。 2010-11-23 08:54:39

kimish330 「童貞美学 I」では2名の新入学者をゲットしました！授業でつながっていっていろいろな人が受講者としてつながっていってる感じがおもしろい。#bokudai 2010-11-23 10:11:14

kimish330 昨晩ついに、初めての「童貞美学 I」の課題提出がありました。600 字以上というハードな課題にもかかわらずこの早さ！墨大生は1味ちがいます！ #bokudai 2010-11-23 10:12:24

bokuto_univ #bokudai 11 月 19 日（金）に開講された「みんなで昼寝をする。（三宅）」の講義録をアップしました。 → http://bit.ly/fhPC6N 2010-11-24 14:12:24

koki_mizutani @who_me 今週日曜日の墨大『お引っ越し』というのは、講義なのでしょうか？（もし講義ではなくても、人手が必要でしたら、お手伝いします！）#bokudai 2010-11-24 23:53:15

bokuto_univ #bokudai 11 月 27 日（金）の【オープンキャンプ 3：カンバッヂワークショップ】は、都合により「代講」となります。 参加表明はこちらから → http://bit.ly/fH0493 2010-11-25 07:04:59

bokuto_univ #bokudai さっき、まちがえました。26 日（金）です。【オープンキャンプ 3：缶バッチワークショップ I】は、都合により「代講」です。18:30 に京島校舎に集合。参加表明はこちらから → http://bit.ly/fH0493 2010-11-25 13:24:17

bokuto_univ #bokudai 本日。11 月 26 日（金）は【オープンキャンプ 3：缶バッチワークショップ I】です。（都合により代講）受講者は 18:30 に京島校舎に集合してください。参加表明はこちらから → http://bit.ly/fH0493 2010-11-26 09:31:20

bokuto_univ #bokudai 11 月 23 日（祝・火）に開講された特設科目（オフキャンパス）【「地域メディア」としての大学】の課題（レポート）が発表されました。皆さん、忘れずに提出しましょう。 → http://bit.ly/hgsTPX 2010-11-26 10:21:45

bokuto_univ #bokudai 墨東大学ブログ（Bokudiary）に課題がアップされています。 http://bit.ly/ex1YiT 2010-11-26 10:24:01

bokuto_univ #bokudai【教務関連のお知らせ】12 月 23 日（祝・木）に開講予定の「童貞美学 I」は、師走（文字どおり）のため、開講日が変更になります。担当の石田先生から連絡があるはずですが、年明けで日程調整とのことです。連絡を待ってください。 2010-11-26 12:53:08

who_me RT @bokuto_univ: #bokudai【教務関連のお知らせ】12 月 23 日（祝・木）に開講予定の「童貞美学 I」は、師走（文字どおり）のため、開講日が変更になります。担当の石田先生から連絡があるはずですが、年明けで日程調整とのことです。連絡を待ってください。 2010-11-26 12:53:53

takeyokimura #bokudai 今日は先週のミニマムアーバニズムの授業で作った椅子の引き渡し日（28 日は引き渡し先のお店がおやすみで今日にずらしました）やっぱり緊張します。。 2010-11-26 16:27:13

aohito これから墨東大学。一度帰ると間に合わないので、スーツでいきます #bokudai 2010-11-26 17:19:39

takeyokimura #bokudai ミニマムアーバニズム 無事、山田薬局さんに納品。とりあえずよろこんで頂けました。これからどれだけつかっていただけるか、が重要なポイントです @woochoi おつかれさまでした！ http://yfrog.com/0pd6y0j 2010-11-26 18:48:08

aohito 缶バッチ WS おわりました！ #bokudai 2010-11-26 21:32:57

bokuto_univ #bokudai 11 月 26 日（金）に開講された【オープンキャンプ 3：カンバッチワークショップ I】の講義録がアップされました。受講生の皆さんからの報告もお待ちしています（早く送ってね）。 → http://bit.ly/hSv16P 2010-11-27 08:08:03

bokuto_univ はい、またやりますので、こんどはぜひ！ RT @sea_zz_ca: @bokuto_univ 日程的に無理だったから、もう一回ぜひやって欲しい。カンバッチ、なんでこんなに好きなのか。いとしのカンバッチ。 2010-11-27 08:21:01

bokuto_univ @sea_zz_ca はい、承知しました。つぎは土日でやりましょう。sea_zz_ca さんは、墨東

にお住まいなのですか？　2010-11-27 08:36:46

bokuto_univ　@sea_zz_ca し、しぶやとか…？まぁそれはともかく、カンバッチ愛を感じましたので、こんど墨東でお目にかかりましょう。　2010-11-27 08:57:28

bokuto_univ　#bokudai 緊急開講！明日の日曜日（11月28日）、特設科目【お引っ越し】が開講されることになりました。詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/hQarpQ　2010-11-27 09:21:10

bokuto_univ　@sea_zz_ca 惜しい。バンダイっす。墨東大学には、あの機械が3〜4台ございます。　2010-11-27 09:34:08

bokuto_univ　@pokkekke 明日は湘南台から参加…ですか？ですよね？当然そうですよね？#bokudai　2010-11-27 11:59:10

pokkekke　@bokuto_univ はい、明日は湘南台からの参加でお願いします！あの家具運びでしょうか？そうであれば、学校からの参加でも大丈夫です。#bokudai　2010-11-27 12:11:26

bokuto_univ　#bokudai 10月29日（金）に開講された【大人の学び論Ⅰ（長岡）】の講義録がアップされました。 → http://bit.ly/i6BwEO　2010-11-27 21:24:51

bokuto_univ　@pokkekke では、11:20ごろに大学ということでお願いします。　2010-11-27 21:26:53

who_me　#bokudai 木曜日、ひさびさに会った @t_ogwr さんと一杯飲みながら話していたら、いろいろ整理された。墨東大学は「リピーター」をつくるための仕組みだということ。卒業するためには、少なくとも4回、墨東エリアに足をはこぶ必要がある。　2010-11-28 00:49:49

who_me　#bokudai 4回足をはこぶ。（神奈川からだと）4回は〈隅田川の向こう〉に行く必要がある。川は、エッジとなって心理的なバリアになっていることが多い。もちろん交通費もかかるけど、墨大生になると、その心理的な境界を越えることが求められる…。　2010-11-28 00:54:06

who_me　#bokudai 一度くらいなら、スカイツリー見物がてらに隅田川を渡ることもあるはず。でも少なくとも4回。2回は達成できそう。6回だと挫折しそう。3回 / 5回というパターンもあるけど、まぁ適当なあんばいで4回に設定して実験することにした。　2010-11-28 00:56:34

who_me　#bokudai 3か月ほどの間に4回川を渡ると、もう〈よそ事〉ではいられなくなる。地理も少し覚える。店も見つかる。もちろん、いちいち川を渡って訪れる「よそ者」にすぎないが、3回目・4回目になると、まちへの愛着が少しばかり生まれてくる。　2010-11-28 00:59:55

who_me　#bokudai 大学というメタファーをまちに載せると、大学生たちは、期待された役割に応えるべく、4回エッジを越える。大学を成り立たせているさまざまなルールに動かされつつ「リピーター」になる。そして、それが〈関与者〉としてのマインドを育む。　2010-11-28 07:35:00

takeyokimura　多摩川越え。今日は墨東大学の「お引越し」湘南台にある家具を墨東に運びます。小田急線て何度乗っても緊張。 #bokudai　2010-11-28 10:18:11

homam903　今日は墨東大学 @bokuto_univ: #bokudai へ。特設科目【お引っ越し】に参加しました。商店街でお総菜を調達して、みんなで食べながら話して。良い時間でした。　2010-11-28 20:51:51

nakazzz　#bokudai 急ですが、今から墨東大学・京島校舎を開放します！お時間ある方お立ち寄り下さーい。　2010-11-29 11:23:59

nakazzz　一時間ほど京島・向島のまちに出かけるため、一旦閉めます。その間に来校した方はメッセージをいただければ、早急に対応します。よろしくお願いします。 #bokudai　2010-11-29 14:54:04

nakazzz　墨東大学・京島校舎のシャッター降ろします。来てくださった方、ありがとうございました。#bokudai　2010-11-29 21:05:27

bokuto_univ　#bokudai 10月28日（木）に開講された【ちいさな編綴実習 第1回】の講義録をアップしました。 → http://bit.ly/h2bvgg　2010-11-30 08:06:06

bokuto_univ　#bokudai 残席わずか。12月2日(木)は京島校舎で【自画持参 第0.9回】が開講されます。詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/exbupx　2010-11-30 08:09:09

bokuto_univ　#bokudai 墨東大学ブログ（Bokudiary）に「墨東カンバッチP はじまります（予告）」がアップされました。 → http://bit.ly/f28KGt　2010-11-30 11:59:41

bokuto_univ　#bokudai【授業日程変更】12月8日(水)に予定されていた【文化環境フィールドワーク(岡部)】は、12月15日（水）に開講されることになりました。（内容も一部変更されています。）詳細・参加

表明は → http://bit.ly/h4zoWo　2010-11-30 13:36:17

bokuto_univ　#bokudai【新規開講】12 月 8 日（水）15:00 ～【墨東ストーリープロジェクト（荒川・市川・岡部）が開講されることになりました。詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/hF70BT　2010-11-30 13:40:29

bokuto_univ　#bokudai【新規開講】12 月 16 日（木）16:00 ～【フィールドワークあるある大会（仮）（臼井・仲尾・村井）】が開講されることになりました。詳細は調整中です。 → http://bit.ly/eU0IpW　2010-11-30 13:48:32

bokuto_univ　#bokudai 12 月 2 日（木）【自画持参ワークショップ 0.9（自画持参研究室）】は、満席となりました。皆さん、暖かい格好でお越しください。 → http://bit.ly/exbupx　2010-11-30 13:50:54

kazaru　そういえば 11 月のとある夕暮れに。マイポテトは、マイポテトチップになった。 #bokudai http://twitpic.com/3bjgwk　2010-11-30 16:37:36

bokuto_univ　#bokudai【新規開講】12 月 4 日（土）12:30 ～【みどり荘再生シリーズ (1) 大掃除（大橋）】が開講されることになりました。詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/haNM6m　2010-11-30 23:52:10

bokuto_univ　#bokudai【新規開講】12 月 18 日（土）12:30 ～【みどり荘再生シリーズ (1) 大掃除（大橋）】が開講されることになりました。詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/gXbmh8　2010-11-30 23:53:34

bokuto_univ　#bokudai【新規開講】12 月 30 日（土）12:30 ～【みどり荘再生シリーズ (1) 大掃除（大橋）】が開講されることになりました。詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/hAcK30　2010-11-30 23:54:56

bokuto_univ　#bokudai いろいろ、開講科目が充実してきました。来年 1 月にも、面白そうな講義・実習の新規開講が予定されています。たとえば、1 月 15 日（土）【感覚交換散歩実習 I（栗林）】・1 月 29 日（土）【感覚交換散歩実習 II（栗林）】詳細は近日中に。　2010-12-01 00:10:58

bokuto_univ　#bokudai 12 月 2 日（木）【自画持参ワークショップ 0.9（自画持参研究室）】空きが出たみたい。あと一席。詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/exbupx　2010-12-01 01:40:43

bokuto_univ　#bokudai 12 月 2 日（木）【自画持参ワークショップ 0.9（自画持参研究室）】一席空いていましたが満席に。天気予報は曇のち雨。どうなる!? 京島校舎…。 → http://bit.ly/exbupx　2010-12-01 09:29:32

bokuto_univ　#bokudai 遅くなりましたが、墨東大学・京島校舎への道案内です。 → http://bit.ly/gGnK80　2010-12-03 09:32:10

bokuto_univ　#bokudai 本日（12 月 3 日）は【毎日が楽しいぜ！（市川）】が開講されます。詳細・参加表明はこちらから。いまのところ、残り 3 席。 → http://bit.ly/99EV1J　2010-12-03 09:35:04

bokutomachimise　《墨東大学》教員・学生募集中！！　墨東エリアに架空の大学ができました。http://bokudai.net/ RT @bokuto_univ #bokudai 墨東大学・京島校舎への道案内です。 → http://bit.ly/gGnK80　2010-12-03 11:27:19

kimish330　仕事が多すぎて悲しい気分になってしまったので脱落しました（号泣）RT @bokuto_univ #bokudai 本日（12 月 3 日）は【毎日が楽しいぜ！（市川）】が開講されます。詳細・参加表明はこちらから。いまのところ、残り 3 席。 → http://bit.ly/99EV1J　2010-12-03 14:42:47

who_me　#mainichigatanoshiize #bokudai 皆さま、お疲れさまでした。期待どおり、楽しい時間でした。引き続き、墨東大学もよろしくお願いします。　2010-12-04 00:54:03

who_me　#bokudai そして、墨東大学はハーバードやウィスコンシン大学と、同じ土俵で語られたのであった。（もちろん、あいだにははっきりと線が引かれているが、同じ模造紙だ！）http://yfrog.com/5kios0j　2010-12-04 07:01:15

oh_kcr　墨大で授業に参加するには、職員・教員・学生と様々関わり方ができるけどまずは人を集めないと授業が成り立たない。どうやって墨大の存在を知らせるかを考えるのが僕に与えられたはじめの課題 #bokudai　2010-12-04 08:25:10

oh_kcr　墨大の授業作りに関するヒントを親父から頂いた。改めて父親の存在は大きいのだと思い知らされた #bokudai　2010-12-04 10:26:58

hutusala　「墨東とわたし」 自画持参 0.9 回に行ってきた！ - 日々是酒酒落落 http://bit.ly/dMzeWo #bokudai #jigajisan　2010-12-04 14:23:27

oohashikayo　今日のみどり荘大掃除は思いの外進みました。残る作業は若干、力仕事…18 日と 30 日は果たしてどうなるか…！？ #bokudai　2010-12-05 02:12:17

kimish330　@bokudai「墨東大学」で集中合宿8＝集中授業）するとかどうですかかね？「２泊３日で卒業制作までの単位取得できます」みたいな。… 宿泊施設を考えなければいけませんが。RT @sirokuma67 墨東大学入学したいんですけどね、問題は時間と金と距離よ　#bokudai　2010-12-05 11:08:21

oh_kcr　もし墨大で授業を提案するなら「色」をコンセプトにフィールドワークできるような内容で企画できたらと思う #bokudai　2010-12-05 11:51:33

bokuto_univ　#bokudai 明日、12月7日（火）18:30～【大人の学び論II（長岡）】詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/h5hym1　2010-12-06 12:41:16

mikadukihime　仕事早っ。もう自画持参のみんなの語りがUPされてる！自分の声は何度聴いても聴き慣れん。 http://jigajisan.net/101202/02.html #bokudai #jigajisan　2010-12-07 01:15:03

kazaru　大原健一郎・野口尚子・橋詰宗（2010）『印刷・加工DIYブック』グラフィック社：著者さんたちと印刷工場見学に。DIYで1500部仕上げたとか「一手間」にこだわるとか。勇気をもらった。墨大講義の副読本のひとつ。[12/4] #bokudai #1satsu　2010-12-07 02:30:12

bokuto_univ　#bokudai 琉球ニライ大学というのもあるのか…。 http://www.niraidai.net/　2010-12-07 10:00:09

quinquepeta　RT @bokuto_univ: #bokudai　琉球ニライ大学というのもあるのか…。 http://www.niraidai.net/　2010-12-07 10:01:11

who_me　あ、見つかった。 RT @mikadukihime: 仕事早っ。もう自画持参のみんなの語りがUPされてる！自分の声は何度聴いても聴き慣れん。 http://jigajisan.net/101202/02.html #bokudai #jigajisan　2010-12-07 23:53:29

bokuto_univ　#bokudai 本日、12月8日（水）15:00～【墨東ストーリープロジェクト（荒川・市川・岡部）】が開講されます。詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/ejKGGr　2010-12-08 07:01:35

bokuto_univ　#bokudai 講義録（12月4日）【みどり荘再生シリーズ (1) 大掃除】がアップされました。開かずの間とか、冷蔵庫とか、ぎゃーっ。18日行こうと思ってたけど、マジこぇ～。 http://bit.ly/hJ6COT　2010-12-09 16:52:15

who_me　#bokudai リノベーションは、いいよね。大切なことだし、楽しい。でも、大掃除をしなきゃいけないんだよね、あたりまえだけど。JCWCの皆さんは、ぜひ18日に参加しましょう。一人じゃ怖すぎ。 http://bit.ly/hJ6COT　2010-12-09 16:58:14

bokuto_univ　#bokudai【連絡】11月23日（祝・火）に開講された【「地域メディア」としての大学】の課題レポート・期限内の提出：m1000010mi, m1000001mm, m1000006hy, m1000003yb, m1000007ts　2010-12-10 07:20:21

bokuto_univ　#bokudai【連絡（つづき）】期限内にレポートを提出した人は、学生証に「P (Pass)」を記入するので、担当者に申し出てください。　2010-12-10 07:22:01

bokuto_univ　#bokudai 12月11日（土）15:00～【迷子学入門II（木村）】が開講されます。詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/dwEMz1　2010-12-10 07:29:43

bokuto_univ　#bokudai 12月14日（火）【まち歩き実習：墨大ぐるり調べI（加藤）】のスタート時間が、15:30～に変更されました。急な変更でごめんなさい。→ http://bit.ly/glra5e　2010-12-10 07:35:53

bokuto_univ　#bokudai 12月17日（金）は、【オープンキャンプ4：墨東ポッドウォークI（加藤）】が開講されます。詳細（随時更新）・参加表明はこちらから → http://bit.ly/gdJ6O7　2010-12-10 07:45:23

bokuto_univ　#bokudai【お知らせ】ウェブ/広報/渉外担当（学長）出張のため、12月10日（金）～12日（日）深夜まで、ウェブ/講義録更新・その他情報配信はストップします。密かに好評のボールペンの配布もナシです。（月曜日に復帰予定。）　2010-12-10 07:49:46

homam903　面白そうな講座がたくさんの墨東大学、誰でも参加できますよ～。RT @bokuto_univ: #bokudai 12月11日（土）15:00～【迷子学入門II（木村）】が開講されます。詳細・参加表明はこちらから → http://bit.ly/dwEMz1　2010-12-10 08:58:20

takeyokimura　#bokudai あしたは迷子学。晴れますように！　2010-12-11 00:15:59

takeyokimura　#bokudai 迷子学入門II 終了。今回はぼくも迷いました足が棒。　2010-12-11 19:01:51

nakazzz　迷子学入門IIお疲れさまでした！迷子にな

れなくて悔しかったです。。そろそろ本日も京島校舎のシャッターを下ろしたいと思います。 #bokudai 2010-12-11 21:03:23

kimish330 今度の授業は「董卓美学」で。#bokudai RT @omosan RT @kubo_3260: 今手書き文字で童貞って書こうとして童卓って書いた。童貞も書けなくなってしまったのかとすごくショックだ。あ、童卓と董卓似てる。 2010-12-12 19:39:08

oh_kcr twtvite で [yes] 押したんですが [waiting for list] の表示になってしまいました。明日の墨大授業は締切でしょうか #bokudai 2010-12-13 18:37:35

homam903 わあ! たのしみです! RT @bokuto_univ: #bokudai 近日中に「ナカジの業務日誌（仮）」が公開されます。ご期待ください。 2010-12-14 09:04:35

oh_kcr 今日は墨大で 2 年生、SFC の方とフィールドワークを行いましたがゼミを超えて散策できたので何だか新鮮でした! 明日も墨大へ!! #bokudai 2010-12-16 00:30:15

kimish330 @TakashiUSUI センセー、すみません。仕事が休めないので、今日の講義は欠席します。#bokudai 2010-12-16 09:33:29

oh_kcr きょうも墨東は寒かった。SFC の学生さんはやっぱりフットワークが軽くて行動力ある人ばかりで凄かったです #bokudai 2010-12-16 22:39:57

oh_kcr 年が明けた頃には私が墨大主席となるでしょう #bokudai 2010-12-17 11:06:38

oh_kcr 今日の FW はキラキラ商店街を端から端まで 15 分かけて商店街の様子を語りながら歩くという内容でした。(PodWalk で合っているのかな？) 立ち止まらない、来た道を戻らないというルールを作って街歩きをするのはなかなか難しかったです #bokudai 2010-12-17 23:32:03

bokuto_univ #bokudai 12 月 17 日（金）に開講された【オープンキャンプ 4：墨東ポッドウォーク 1】の講義録（暫定版）が公開されました。→ http://bit.ly/fM7O17 2010-12-18 09:44:17

bokuto_univ #bokudai 11 月 20・21・26 日、三日間にわたって開講された【ミニマムアーバニズム I（木村）】の講義録をアップしました。なんと、1 対 1 のワークショップです。贅沢だ!→ http://bit.ly/gQf5tb 2010-12-18 10:03:33

oh_kcr リノベーションやって来ました! 水槽の中の金魚を見つけた時や、冷蔵庫のドアを明ける瞬間はぞっとしました #bokudai 2010-12-18 18:23:15

oh_kcr @kira2tachibana レス、フォローしていただきありがとうございます! 墨東大学の HP に先日の歩いた様子を音声に残して、コンテンツとして挙げて頂いたので良かったら聴いてみて下さい #bokudai 2010-12-18 18:28:52

bokuto_univ #bokudai 12 月 15 日（水）に開講された【文化環境フィールドワーク (2)（岡部）】の講義録がアップされました。 → http://bit.ly/fQeUnh 2010-12-18 22:53:29

kazaru #bokudai 明日はこのイベントもあります。墨大の前に… RT @achirabe（略）版印刷体験ワークショップ急遽開催! 12/21 日 (火)12 時～ 17 時、東向島珈琲店 (@higamuko101)（略）詳細はこちら→ http://bit.ly/9GxQPL 2010-12-20 19:07:15

kazaru #bokudai @yuccoo5 @yoko_bb @HIROMI_1120 @kimish330 @Yahwee_ @satomizm @lebeaujapon @muuniimann 明日の会場ですが、要調整につき、お昼ごろカガワがつぶやきます。（続） 2010-12-20 23:12:36

kazaru #bokudai 読んで欲しいひと、書きたい内容（タイトル、テキスト）、使いたい素材、構成、デリバリーの方法など、進捗に差があると思いますが、1回目・2回目をふまえて、具体的な「なにか」を一つは持ちよってください（続） 2010-12-20 23:15:50

kazaru #bokudai さっきつぶやいたヒガムコのイベントはこちら。講義の前にぜひ。楽しいと思います‥（というか、明日の会場候補です…） http://bit.ly/fO2dHJ 2010-12-20 23:17:31

kazaru #bokudai あ、ナカジ @nakazzz とみなみちゃん @mii0509 もね。 来られそうだったらエントリーをぜひ→ http://twtvite.com/bokudai_101221 あと @hayamaaaaaa も…？遅れてもだいじょうぶだよ。 2010-12-20 23:20:40

kazaru 松戸市役所総務部広報課（1970）『市民手帳　まつど』:墨東大学 #bokudai で大掃除中に発見。当該物件は、墨田の前に、松戸にお住まいの方のお宅だった模様。戸定館にフランス式庭園があることになっている…？市長は松本清さん。［12/18］ #1satsu

※ここまでで、第一期の墨東大学なつぶやきはほぼ66%です。…卒業までの軌跡はウェブサイトで。

2010年11月6日土曜日

中島くんが、ナカジになるまち

中島くん、いやナカジ、いきなり名前を出してごめんなさい。でも、もうみんな知っているから許してください。先日、bockt（リサーチユニット）のメンバーである岡部さん、木村さんと墨東大学についていろいろ話していたときのこと。とても大切な話題だったので、少し整理しておきたいと思います。冒頭の中島くんは、「墨東まち見世2010」の事務局メンバーとして、そして墨大のスタッフとしても活躍中です。

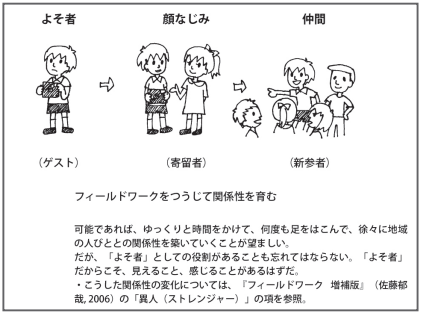
アートイベントにかぎらず、初めての場所で、見知らぬ人と出会い、そこで関係性を築いていくのは容易ではありません。どれだけ細心の注意をはらっても、人びとの日常生活に「おじゃま」することになるからです。もちろん、アートという活動（そして作品）をつうじて、まちに関わる試みには意味・意義があると思います。でも、その基本にあるのがコミュニケーションであるという点を忘れてはならないのです。

「よそ者」という立場でまちに入り、その中で成員性（メンバーシップ）を獲得していくという過程は、まさしくフィールドワークの基本です。『キャンプ論』のなかでも、そういう説明をしている箇所があります（下図は第5章より）。つまり、まずは「お客さん」としてまちを歩く。やがて「顔なじみ」になり、ラッキーなら「仲間（新参者）」になれる。おそらくは、アートでも、フィールド調査でも、人やまちを対象に活動するのであれば、この道筋はきちんと理解しておく必要があります。それも、アタマだけで理解するのではなく、身体で。

予期せぬ場面でお叱りを受けることは茶飯事。もちろん、暖かく迎え入れられる場面も。とにかく、まちも人も複雑な日常のなかで成り立っているので、そう簡単にはわからない。そういうつもりで、まちを歩き、たくさん刺激を受けることが大切です。

さて「よそ者」は、関係性を築いていくなかで、じぶんの立ち位置をどうやって確認することができるのか。ひとつのわかりやすいサインは「呼び名」です。当然、名前を覚えてもらう / 覚えるということ（＝つまり、顔と名前が一致すること）は必須なのですが、あるタイミングで「呼び名」が変わることがあります。「呼び名」は、〈関係性の現われ〉です。ぼくたちが誰かに声をかける / 声をかけられるという場面では、何か用件があって呼ぶという側面はもちろんのこと、その「呼び方」は、関係性の表明でもあります。

岡部さんの話によると、どうやら〈中島くん〉は〈ナカジ〉になったようです。ぼくも、それにつられて、自然と〈ナカジ〉と呼ぶようになりました。〈中島くん〉にとって、〈ナカジ〉になったことは、きっと嬉しいハプニングだったと想像できます。それは、気まぐれで皆さんがそう呼ぶようになったのではなく、〈中島くん〉が何度も足をはこび、事務局の仕事に真面目に向き合っていた結果なのだと思います。逆に、〈ナカジ〉になったということは、責任を負うことにもなります。ヘタはできなくなります。いずれにせよ、ちょっとした「呼び名」を見るだけで、ぼくたちの関係性を推し量ることはできるように思います。



さて、ここで興味ぶかいのは、〈中島くん〉はどこに行っても、〈ナカジ〉になれるかどうか…という問題です。個人のキャラクターはもちろん、能力や姿勢は問われます。でも、もういっぽうで、まち自体が〈中島くん〉を〈ナカジ〉にしたという側面もあるので、おそらく〈ナカジ〉になれない / なりにくいまちがあってもおかしくはありません。半年で〈ナカジ〉になれるまちと、何年経っても〈中島くん〉のままのまちもあるはずです。

そう考えると、「数か月（じつはそれ以上の時間？）で〈中島くん〉が〈ナカジ〉になれるまち」というのは、まち自体の価値を示す指標になるのかもしれません。厳しい目を持ち、そして同時に優しい。ひとたび受け入れたら、絶大なる信頼と期待でお互いを呼び合う。ナカジが、いわばもの差しになるのです。たとえば、（実現可能かどうかはわかりませんが）ナカジをいろいろなまちに送って、どのくらいの時間で〈ナカジ〉になれるかを確かめれば、それでまちや地域コミュニティのもつ潜在的な「力（capacity）」についての理解や評価ができるのではないか…。そんなことを考えさせられました。

じつは、墨東大学のプロジェクトも、〈大学〉という仕組みや語り口を活用しながら、まちや地域コミュニティを理解することを目指しています。縁あって、墨東エリアでスタートしていますが、可能であれば、いろいろなまちで〈○○大学〉を試してみたときに、まちの理解に役立つのではないかと考えたのです。

たとえば、下記のようなリストをつくることができます。チェックリストのようなものですが、それは、観察者の目線でまちや人に触れながら、逐次書き加えていくリストです。時間は短くても、直感的でも、ぼくたちの「よそ者」なりの感じ方で、まずはこのリストをつくってみることからはじめたいと思います。それは、墨東大学というプロジェクトのひとつの成果になります。

- （まるでアメリカ旅行に行ったときみたいに）すれ違いざまに知らないひとに「こんにちは / こんばんは（アメリカだと、Hi!）」と声をかけられるまち
- iPhone の充電をしたいとき立ち寄れるカフェ（珈琲店）があるまち
- お総菜がキラキラしているまち
- お総菜を買うと暖めてくれるまち
- お総菜を買うと食べやすいように切り分けてお箸をくれるまち
- ベンチがあってしばし休憩できるまち
- ちいさな飲み屋に常連が集うまち
- ちいさな飲み屋で酔った客どうしがちょっとした怒鳴り合いをするまち
- ちいさな飲み屋のちょっとしたいざこざを仲裁するひとがいるまち

もちろん、ちょっと窮屈に感じたり、？と思ったりすることも出てくると思います。いずれにせよ、墨東に出かけたときには五感を開放して、リストのアイテムを増やすことを考えてみましょう。〈中島くん〉は〈ナカジ〉になりましたが、墨東大学はまだまだです。〈中島くん〉のレベルにも達していません。いろいろ、課題があることは承知の上で、すすめていきたいと思います。まずは〈墨東大学〉の存在を知ってもらうことからです。

（加藤文俊）

なかぢの〈墨東大学〉大学日誌

商店街に位置した京島校舎での活動は、まちの中で活動する「大切さ」や「難しさ」を教えてくれました。そのため、自身が経験したこの出来事を多くの人に知ってもらいたいと感じました。また、この日誌を通して、私がまちの人と、「どのように接してきたのか」という変化を表した成長記録でもあります。

※日記中の表記は一部の改行等をのぞいて、ウェブサイトの「bokudiary」に連載されたオリジナルの文章をそのまま掲載しています。

11 月 29 日（月）

10 時 30 分　レンタサイクルで借りていた自転車を返却しにアトレウス家へ行く為、シャッターを開けて外に出た。

向かいで果物屋を経営されているお母さんが『おはよう。昨日は泊まったの？今日は日差しが強くて、気持ちいいね。』と声をかけてくれた。朝、家族に声をかけられた時はいい加減に返事をしてしまうのだが、気持ちよく返答をした。

11 時 30 分　自転車の撤去も終わり、シャッターを開けて、京島校舎を開放した。

いつもお世話になっている山田薬局の F さんや、さがみ庵のご主人が通りがかりに挨拶をしてくれた。平日の商店街ということもあり、人通りはあるものの、横目でチラ見する程度だった。気になった人は向かい側の果物屋さんのお母さんに聞くだけで終わってしまう状況だった。

まち見世でお世話になった方々に挨拶回りをするため、14 時 40 分～ 16 時頃シャッターを閉めた。

戻ってシャッターを開けるとすぐ、お隣の「きくのや」のご主人と常連さんが見に来てくれた。近くにあるガチャガチャに食い付いて、会話をした。

『来いよ！』と常連さんに誘われ、岡部先生の講義（加藤先生の代講）で学生が作成

したカンバッチを持って、お店でたくさんの方に見て頂いた。かなりの高評でさっそく服につけようともしてくれた。（最終的には戻してもらった。。）

常連さんに焼き鳥やいなり寿司、サンドイッチなどごちそうしてもらった。そこでは墨東大学の話に加え、自分の実家や大学など少しお話をした。どんどんお客さんも増え、京島校舎に戻った。

その後、F さんが来てくれて、『もっとこうしたらここのスペースの使い方がよくなるから！』などのお話をして頂いた。詳しい内容ですが、28 日のお引っ越し（加藤先生の講義）で搬入した畳を見て、『大きすぎて、地域の人が座るには抵抗がある。座ってもらえる一工夫がほしい』とのことです。他には、『外から見て、何をやっているのかがよくわからない。大学らしく講義名を書いた時間割など見てわかることを増やして欲しい。ネット上だけに情報をアップするだけ終わらせるのではなく、地域の人とフェイス to フェイスで接してもらいたい。』などです。

20 時 30 分　ようやく小学生が足を止めて、ガチャガチャを見た。

しかし中身が空だと気付き、すぐに帰ってしまった。自分も早くカンバッチ作って、そのカンバッチを手にした人がどんな反応するか見てみたくなった。

斜め向かい側にある「白い鯛やき あん吉」の方がシャッターを下ろして帰る時、「白い鯛やき あん吉」の向かい側にある「きくのや」のご主人に『お疲れさまでしたー！』との挨拶をして帰っていった。

お互いが言い合える関係を構築していきたいと切に願った。

21 時　シャッターを下ろした。

合計で 6 人の方が今日は立ち寄ってくれた。

12 月 3 日（土）

12 時　京島校舎オープン

若いカップルが通りがかりに、

男『ここなんだか知ってる？休憩所。』と知っているかのように言っていた。おやすみ処「橘館」と勘違いしているのか、それとも認知されているのか疑問を覚えた。

前の果物屋さんと隣の揚げ物屋さんが様子を見に来た。『畳があると温かく見えていいわね』など、墨東大学の説明をする時に迷子学入門のことを例に出すと、『私たちだってね、路地が多くて、未だに迷子になっちゃうわよ』と返してくれた。地元の人にやってもらっても面白いかもと思った。

ボールペンのお礼にと果物屋のお母さんからバナナを『みんなで食べてね！』と、たくさん頂いた。

14:30　早稲田大学の学生が来校した。向島・京島のまちをフィールドしている研究室だ

とのこと。今日、まちづくり・まちの取り組みの調査ということで、キラキラ橘商店で撮影をしていた。早稲田の学生ということもあって、墨大のチラシを手に取った瞬間、『慶応の学生ですか?』と聞かれた。『都市大です。』と答えるとちょっと笑われている気がした。『また伺います!』と言って去った。

15:00~17:00　出掛ける。

17:30　お使い帰りの子どもがガチャガチャを見て、『まだできない?』と言った。意外とココにガチャガチャがあることが浸透してるのかなと驚いた。

17:50　前回も来てくれた方が、今日も来てくれた。『どう?盛り上がってる?入学式はやったの?』など声をかけてくれた。通りがかりではあるものの、立ち寄ってくれるのがうれしかった。

18:20　ボールペンのお礼にとお隣の天ぷら屋の方に、エビの天ぷらを頂きました。

18:30　酔っぱらったお隣のお客さんが『何をやってるの?』と覗きに来た。『教員は何を教えるの?学生は何を学ぶの?』と聞かれた。教員に関しては、講義の事例を紹介したり、このまちに関すること、興味のあることなどを話したりしたが、学生は…との問いが答えられなかった。向島学とは言えずに、何でも学びますと、答えてしまった。

『毎日が楽しいぜ!(市川)』に続く…

合計 7 人の方が立ち寄ってくれた。

12 月 2 日(木)

16 時　京島校舎着

キラキラ橘商店街に近づくに連れ、まだなじめない感が高ぶってきた。

テンション落ち気味だった。京島校舎の前に到着すると、自転車が 2 台駐輪されていた。やはり、まだシャッターが下ろされた状態のままでしか認知されていないのだなと感じた瞬間だった。シャッターを開けると、それに気付いた女性が『悪いね。邪魔でしょう。』と少し怒った様子で自転車を移動させた。

通りがかりにおばあちゃんがやってきた。すごいノリノリで墨東大学の話を聞いてくれた。その場で講義の提案までしてくれた。『墨田区観光協会のような墨東ガイドツアーとかしようかしら』と。笑って帰った。また来てくれるといいなぁ。

続いてお巡りさんが見に来た。墨東大学の説明をした。去年のまち見世の時のことを覚えてくれていた。『音出さないよね。やっぱここは下町だからさ…。60 歳の定年過ぎて勤務させてもらっているイイ所だよ、ここは。以前いきなり大きい音を出されて迷惑したよ。事前に一言言っておいてもらえれば別だけど…。』と音出しに関する注意を受けました。なので音を使う講義がある際には気をつけて下さい。

お巡りさんが京島校舎の前を掃除してくれた。もちろんそれはここの京島校舎の前に

限った事だけではないと思うが…。

巡回でもあると思うが、周辺のお店を尋ねてはお話をしていたり、モノを頂いていたりと、普段他のまちで見る交番のお巡りさんとは違っていて、頼もしく、ここのまちに欠かせない存在であるのだと感じた。

『自画持参（自画持参研究室）』に続く…。

合計 2 人の方が立ち寄ってくれた。

12 月 6 日（月）京島校舎オープン

京島校舎のシャッターを内側から開けようとすると、すでに商店街のお店のシャッターが開けられているであろうという時間帯だった。

この状況は緊張する。シャッターを開けたら前に果物屋さんのおかあさんがいて、開けた瞬間に何かしら話さなくてはいけないのではないか、という使命感にかられる。話しするのが嫌いなわけでもないし、果物屋さんのおかあさんが嫌いなわけでもない。むしろよくしていただいていて、感謝しているぐらいだ。

商店街のお店がシャッターを開ける時間帯に、遅れて「開ける」という行為が仲間はずれなことをしている気がして、申し訳ないと考えてしまう。

なので、内側から鍵だけを開けておいて、裏から回り、今やってきました感を出して、平然とシャッターを開けよう考えた。しかし裏から回ろうとすると、お隣のもつ焼き屋さんのモノが置いてあり、道が封鎖されていた。

そこで勢いでシャッターを開けることにした。開けると、果物屋さんのおかあさんがいなくて、安心した。でもやはりシャッターを開けたことだし、挨拶あるのみ！と思い、おかあさんが出てくるのを待った。

おかあさんは『おはようございます』と、いつもと変わりなく挨拶を交わしてくれた。自分にとってそれが何よりうれしかった。そして、自分がいないときの情報を話してくれた。『土曜日、男性の人がシャッターを開けたね。お知り合いの人?』と。木村さんのことだとわかった。

14:00　お巡りさんのお茶目な一面が見られた。

しかしその状況を文章で説明するのは難しい。この商店街にとって欠かせない存在であることは間違いない。

14:20　2 人の女性が京島校舎の前を通りがかった。

片方の女性が『ここ何屋さん?』と話しかけると、もう片方の女性が『しー』と返答していた。何か悪いことでもしたのかとすごく不安になった。一人でシャッターを開けていたくないと切に願う瞬間だ。

14:30　『ただいまー』と、女性が幼稚園か保育園帰りの子どもの手を引き、お店の人

に挨拶をしながら、商店街を歩いている。京島校舎にいる自分はその対象として、見られてはいなかった。いつもシャッターが開けているのが当たり前になれば、その対象として見てもらえるのだろうか…。

16:00　シャッターを下ろしていると、前回も来てくれたおばあちゃんが声をかけてくれた。『今日はもう大学終わりかい?』と。一言だけだったが、うれしかった。

今度は畳に座ってもらいたいなぁ。

2010 年 12 月 8 日（水）墨大チラシ

12 月 8 日【墨東ストーリープロジェクト（荒川・市川・岡部）】の講義だった。

振り返りをする前に、おやすみ処「橘館」の前にある鳥正にお惣菜を買いに、都市大の 3 年生、C・Sさんと行った。2000 円という上限で 15、6 人が満足できるにはどうしたらいいか、2 人で悩んでいた。すると、店内からそこのおかあさんが出てきたのでこのことを相談すると、「そういうことは、どんどん相談してくれないと。下町のいいところなんだからさ。」と言って、60 円の焼き鳥を 50 円に、220 円、320 円のお惣菜を 200 円にまけてくれた。唐揚げもあるだけ袋に包んでくれた。

最後に、墨大を説明すると、壁に貼られてるメニューに並べて、墨大のチラシを貼ってくれた。やったねー♪

職員としての仕事、一歩目?です。

どんどん増やしていきたいなー!!

12 月 10 日（土）

木村健世さんの「迷子学入門II」が終わり、京島校舎が一気に寒くなったし、寂しくなった。シャッターを下ろそうか、迷っていた。しかし、果物屋さんやたいやき屋さんも開いているのに、開けておかないわけがないだろう、と自分に言い聞かせた。

19:30　おじさんがふらりと立ち寄る。すぐさま畳に座った。「毎日が楽しいぜ!」の絵を見て、『誰が描いたんだよ?小学生か?』と、おじさんが話しかけてきた。申し訳ないことに、話していただいた内容の 7 割は聞き取ることができなかった。時々聞き返したりするがそれでも聞き取れなかった。それでもコミュニケーションが成立させているかのように相づちを打っていた。

『なんのために（実際の）大学行ってるんだい?行った所で就職なんてないだろうに…』と。確かに自分は就職や進学が決まったわけでもないので、苦笑いしながら答えていた。

『ここの(キラキラ橘）商店街はイイ所だよ。亀戸の商店街なんて恐くてダメだよ。』など、30 分近く、話をした。

（おじさんと話をしている最中の出来事）

ティトスの子まちに来ていた女の子とそのおかあさん京島校舎の前を通りがかった。女の子が『あっ、メガネ！』とこっちを指差した。おかあさんが笑っていた。まさか京島の空き地以外で声をかけてもらえるともらえるとは思わなかった。

Y・K さんが京島校舎の前を通りがかった。『また来るね！』と言って、去っていった。

20:00　おばさんが 2 人来校した。通りがかりに興味をもち、京島校舎の中に入ってきてくれたみたいだったので、『「墨東大学」という企画をやってます』、と説明すると、『大学病院もつくってくれればいいのにね！』と笑っていた。

生まれも育ちも墨田区という一人のおばさんが『私はこの区から出たことないんだけど、外の人から見て、ここどう思います？』と話しかけてきた。渋谷や新宿など東東京を引き合いに出しながら、『ご近所と仲良く、助け合いながら生活をしていくことが大切です』のような回答をした。すると、『だったらもっとここに貢献できることしないと。商店街の会合には出たの？若い人の意見を取り入れて、一緒にやっていかないとね』と言われた。確かにまだ告知が至らない部分もあるが、自分たちだけで楽しんでいる部分はもちろん前々からわかっていることだしな…と、自分に言い聞かせながら聞いていた。

『ちなみにここ（京島校舎）の前の人が通る人数数えたことある？』と問いかけられた。そう言われてみると数えたことはなかった。『今度時間帯決めて数えてみなさいよ。これで 100 人ぐらいしか通らなかったら（商店街の会合で）言わなきゃダメよ。もっと人が来るにはどうしたらいいかって。明日（12 月 11 日）朝市があるんだから色々なお店に行って、お客さんに『どこから来たんですか？』ってインタビューしてきたらいいわよ。それをまとめて商店街の会合で話したらいいのよ』と。話を聞いているだけで、このおばさんからはキラキラ橘商店街が好きなのだなという想いがかなり伝わってきた。『ちなみに、イトーヨーカドーは行かれたんですか？』と聞くと、『言ったわよ。ダメね～笑。でも、ここの商店街好きだから買い物してるわよ！』と返してくれた。

帰り際に、『この畳に動くの？危ないわね～』と言った。もう自分は慣れているから、感じなくなったけど、知らない人が座ると確かに危ないかもしれない。

慣れてしまうと、色々見えなくなってしまうことが多い。

20:30　M・I さんがやってきた。「おしょくじ」に関することを聞かれた。『墨大の講義ばおしょくじ」ってあるけど、どっち（向島 or 京島）のかな？』と。『もしここ（京島校舎）に置いてもいいなら、Bunkan から（京島おしょくじ）持ってくるけど、どうする？』と聞かれた。京島校舎のシャッターが毎日開けていられるならいいけど、そういう状態にできていないしな…と反省した。『ここ（京島校舎）のシャッターが開く日に、Bunkan から運べばいいのかな…』と言われたので、『もしそういうことになればやりますよ！』と返事をした。後日、加藤先生？にご連絡するようなことを言っていた。

合計 5 人の方が来校してくれた。

12 月 11 日（日）

今日、人は京島校舎の前を通りがかるものの、なかなか中に入ってくる人はいなかった。横目でちらりと見るだけや、立ち止まって雨風でふにゃふにゃになったままのチラシを立ち止まって見るだけだった。

休日ということもあって、このまちに観光や遊びにきた人が多かったのかなと感じた。

16:30 おじさんが「毎日が楽しいぜ！」の絵を指して、『すごいな！』と言った。『特にこれがすごい！』と左から 3 番目の絵を指した。『オレの心を揺さぶった。これどういう意味かわかるか？』と聞いてきた。「毎日が楽しいぜ！」の絵を描いた当初は、『問題作だな、こりゃ…』なんてことを参加者の方に言われていたのに比べ、テンションが高まってきた。うれしくなってつい、『これ自分の絵なんです』と答えると、『お前才能あるよ！』と返してくれた。最初は幼稚な絵を描いているから小馬鹿にされているのかと思ったけど、『これわかるやつにしかわからないよ。ピカソや、岡本太郎の絵と一緒だよ。』とまで言われ、さらにうれしくなった。『これから一杯飲むけど、飲むか？』と声をかけてくれた。

グルメシティに行って、烏龍茶、焼酎、おまんじゅう？を買ってきてくれた。そのおじさんは『忙しいから帰るわ』と言い、さっそうと姿を消した。

16:50 「京島発見！ Photo コンテスト」の登録をしに出掛けた。

そこの（京島校舎斜め向かいにある「白い鯛やき あん吉」）お兄さんは『おっ！学生。コミュニケーションだもんな。やるよな！』と声をかけられた。もちろんです、と返事をすると、『ぬるくなっちゃったけど、これやるよ！』と缶コーヒーをポケットに入れてくれた。この温かさにうれしくかった。

参加費の 1000 円を払うのに 5000 円を出すと、『お釣りいらないんじゃない？』と。こういうやりとりを求めていた自分がいて、さらにうれしかった。もちろん、お釣りの 4000 円は頂きました。。

17:00 を過ぎ、受付をしていた方々が、京島校舎の前を通りがかった。『おっ、兄ちゃん。さっきはありがとな！』と声をかけてくれた。この商店街の中で一番若くして、経営している人ではないだろうか…。力強い味方に仲良くしていただけた。

17:40 ただ、このままたいやき屋さんのお兄さんに忘れられてしまうのもイヤなので、たいやきを買いに行った。まだ覚えてくれていた。お兄さんが『さっきはどうも！』と。『そんなぁ、500 円得させてもらってるんですから』と返した。『そこ寒いよね。大丈夫？』と心配してくれた。以前買いに行った時には、聞かれなかった一言だった。

購入したたいやきと、入れたてのコーヒーをサービスで届けてくれた。なんとそのコーヒーにも変化が…。以前はブラックだったのが、クリープ？ミルク？入りだった。温かかったし、めっちゃおいしかった。体も心も温まりました。ありがとうございます、と心から言いたいです。

1 人の方が来校してくれた。

12 月 23 日（木・祝）

夕方、卒論のインタビューのため、少し京島校舎に立ち寄ってシャッターを開けた。

久しぶりなので、シャッターを開けるのに緊張していた。

以前（12 月 2 日、〈墨東大学〉大学日誌、参照）に書いた気持ちまでいかないにしても、文章では伝えられない緊迫した気持ちがあった。

いつものごとく、片側のシャッターを 2/3 ほど開けて、果物屋さんの方を向き、目が合った所で一礼して、中に入るつもりが、シャッターを頭にぶつけた。それを果物屋のおかあさんとおとうさんが見ていて、『大丈夫？』と声をかけて、心配してくれた。ちょっと痛かったけど、心の中で『今日はいける！』と確信した。（自分のことを受け入れてもらえた気がした。まだ商店街の中で時々しかいない自分は、その日その日でこの空間（キラキラ橘商店）に存在していても良いのか、悪いのかの日々感じているのだ。）

ということもあり、果物屋のおかあさんには、毎回バナナの差し入れをいただくので、今日は自分から買い物に出掛けた。

果物屋さんの目の前に行くと、おかあさんが『（シャッターが）開いてないと、寂しいよ』と真っ先に声をかけてくれた。おかあさんの頭には、前まで空き店舗だった場所で、「学生が何かをやっている！」、という場であると認知されている気がして、うれしかった。毎日数時間でも開いていれば違うのだろうな…。それを言われなくなった方がうれしいけど、そしたら次はなんて言われるのかな…。それとも会話がなくなっちゃうのかな。。

バナナを買おうとすると、1 房 150 円のバナナが、残り 2 房だった。『みんなで食べるかい？だったら、2 房で 200 円にするよ！』と、おかあさんがまけてくれようとした。それならと思い、私は 2 房買った。この勢いに乗じて会話をした。

年内はいつまで営業しているのか、そして年始はいつからなのか聞いた。

すると、おかあさんの方から『どうして？何かあるの？』と聞いてきた。

『年初めにここ（京島校舎）のシャッター開けようと思うのですが、お店が開いてないなら寂しいですよね。』と私は返した。

それに対しておかあさんは、（記憶が飛んでしいあいまいだが）5 日までお休み？ 5 日から営業開始？かを、教えてくれた。

お店によっては、7 日までお休みらしい…。

他のお客さんが来たので、私はその場を去った。

数分後、お隣の方が京島校舎を覗きに来た。

いっきに 4 人も！『何事だ…？』と思い、閉められたままだったもう片側のシャッターを開けた。

『誰だ？この絵を描いたのは？』と、この前もお世話になった常連の方が声を出した。やはり「毎日が楽しいぜ！」の数々の絵は人を引きつける力があるらしい。『オレから見た

ら、全部ピカソの絵に見えるな！』と、今回は小馬鹿にされた気がした。

なので、今回は『学生や社会人方が描きました！』と、さらりと流した。

そして、いきなり『近くにいい人（女性）いないか?』と聞かれた。『えっ?』、と返した。話を聞くと、どうやら一人暮らしをしているらしく、近所の方に『自転車の置いてある場所が 3 日間同じだったら、警察呼んでもらうようにお願いしてあるんだよ』と話してくれた。

どんどん話を聞いていくうちに、『ここ（京島校舎）のペンキの塗り方下手だな。自分たちでやっちゃうからいけないんだよ』と話してくれたので、『職業はペンキ塗る方ですか?』と聞いた。どうやらその通りで、その道 40 年のベテランさんだということが判明した。

もう一人方が、『一杯飲むか?』と声をかけてくれた。すると隣に戻って、『内藤くんに一杯やってくれ』という声が聞こえた。

（「内藤くん」とはどうやら自分（中島和成）のこと意味しているようです。前回隣のお店に誘われた時、そこにいたお客さんに『えっと、墨田区が実家の…「内藤大助」に似てるな！』と言われた。回りにいた方々からも『そういえば！』、『本当だ！』などという意見が一致していた。）

その時のことまで覚えてくれていて、一瞬『えっ?』とは思ったが、なんだか妙にうれしかった。

しかもキンキンに冷えたビールを届けてくれた。冷えきった体ではあったが、格段に美味しくて、心温まるビールだった。

飲み終わると、『どうしよう…。やっぱお金払った方がいいよな』と思って、ビンを返しにいく時、お金を払おうとした。お店の方に『大丈夫みたいよ！』と言われてしまった。

京島校舎に戻って、さきほど買ったバナナを持っていこうと思い、すぐ隣のお店に行った。ペンキ塗りを職業にした方がドアの所にいたので、『さきほどのお礼で…、良かったらみなさんで食べて下さい！』とバナナを渡した。

意外とすぐに受け取ってくれた。警戒されて、『いいよ』と断れるのでないかと思っていたので、ちょっぴりうれしかった。すると、『気を使わなくていいよ。違う…。金使うんじゃねーよ！』と。

ほんの数十分の出来事であったが、すごく充実していた。

合計 6 人の方が来校してくれた。

12 月 25 日（金）

京島校舎に到着してシャッターを開けようとすると、

背後から『あらっ！』という果物屋さんのおかあさんの声が聞こえた。自分のことに気付いてリアクションしてくれたのかと思い、振り向くとお客さんに対しての反応であった。

うれしくなって振り返ってしまった反面、勘違いだと気付き恥ずかしくなってしまい、いつもする挨拶をせず、颯爽と中に入った。

買い物に行く途中に、I 夫妻が来校してくれた。

K・I さんは「毎日が楽しいぜ！」の絵を見るのは初めて？だったらしく、消去法から自分の絵を当ててくれた。ズバリ的中！やはり自分が参加した講義のものが回りにあるのは説明や反応しやすくとても良いなぁ〜。

今まで寒く寂しかった空間が一気に温まった。

18:20　以前（12 月 10 日）来校してくれたおじさん（なかなか話を聞き取ることができなくて対応に困ってしまった方）が、京島校舎が開いているのを見て、すぐさま校舎内に入ってきた。以前は向かい合わせに座ったのに対して、今回は隣に座った。

入ってきて早々、パソコンを指差して、『これ（パソコン）どうやって使うんだ？』と聞かれた。その場で文字の拡大縮小などを行って、おじさんが見えるまで調整した。

電車内でのペースメーカーによる事件（どうやらこのおじさんは電車に乗っている時、近くでケータイをいじっている人を見るとそれを叩くらしい）から、中国出身の知人が青山学院大学の学院生らしく、亜細亜大学・青山学院大学・大東文化大学など、おじさんが知っている大学の偏差値の順番を聞かれたり、最近の若者の不純さについて語ったり、民主党には票を入れるな（小沢はダメだ！）？など盛りだくさんの話を 50 分近くした。

隣に座っていることもあり、所々ボディータッチをされた。前回より距離が縮まったのかなとうれしかった。何より全部ではないにしろ、相手の言葉を聞き取れ、話すことができて良かった。

19:20　隣のお店から出てきたペンキの職人さんが京島校舎の前を通りがかった。

『お疲れ！この間（12 月 23 日、バナナの差し入れ）はどうもね』と声をかけてくれた。

『はい！』と、ボクは自然と笑顔になった。

合計 4 人の方が来校してくれた。

12 月 27 日（月）

18:20　買い物帰りに、まち見世のことを知っている男性の方が来校した。世田谷から結婚するために引っ越してきたらしい。『今年のまち見世、もうかってる？事務所はどこなの？押上？』と聞かれた。もうかっている？…に対して、どう反応すればよいか戸惑った。「儲かる」の言葉を耳にすると、金銭面のことかと思ってしまったので、質問を聞き返すと、墨東まち見世 2010 の来場者数のことであった。自分が感じた去年との比較を答えた。事務所に関して、なぜ押上がでてきたのかわからないが、百花園の近くであることを伝えると、すぐに理解してくれた。

やはり知っている方がいるのはとてもうれしい！こういう時は楽しくなって、ついつい会

話をしてしまうのです！！

墨東まち見世の次に墨東大学の話を持ちかけると、乗り気な様子で『何学ぶの?』と聞かれた。具体的例として、壁に貼ってあった「迷子学入門II」について話した。向島・京島での路地での体験をもちかけると、『路地に入ったら、鳩のまちにまで行っちゃったよ』と話してくれた。

18:30 「あっ、コロッケ売ってる！」という声が聞こえた。

異質な集団がやってきた。

声（歩いている者同士の声が行き交う。声の抑揚が感じられた。）や雰囲気（目的が明確ではなさそうで、ふらふら回りを見ながら歩いていた）、団体感などからしてよそ者だなと。自分もまだまだよそ者だが、少しだけ中の人から見た外の人に対する感じ方?というのを知った。

その中でも興味をもった女性が京島校舎に来校した。墨東大学のチラシを見て、まっさきに『これ SFC(慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス）がやってるんですか?』と聞かれた。確かに主催に慶応義塾大学と表記されているが、SFC まで言い当てた女性に驚いた。どうやら SFC の卒業生らしい。なので、加藤文俊研究室のことを話した。知らないと言われてしまった。しかし、理解度は早く、他にいたメンバー（興味をもっていたものの、京島校舎内までには入ろうとせず、一緒に歩いていた方々 4、5 名）に話していた。

合計 3 人の方が来校してくれた。

3 月 10 日（木）墨大日誌 - 卒業制作展 ver.-

12:45 シャッターを開け、町保(京島校舎前の果物屋）のお母さんと挨拶を交わしました。

京島校舎が開いたことに驚いていた。おかあさん曰く、『卒業式が行われたので、もう開かないかと思ってた』とのことでした。

13:00 墨大の卒業式制作展の少し前に、今日の店番をしてくれる都市大の学生が 2 人来てくれました。

部屋の中をのぞかれ、『本当に住んでるんですね！』との発言に同じと都市大生としての疎外感を感じました。一方で、墨大の住人として認知されていることをうれしく思いました。

少しすると、60 代男性が来校してくれました。

『何にも売るもんないのか？つまんねぇな』と言いつつも、「みんなで昼寝をする。」のパネルから始まり、終りは「ミニマムアーバニズム」で製作したベンチまで一周してくれました。

その後、町保と天よし（京島校舎向かって右隣の天ぷら屋）のおかあさんが 2 人揃っ

て来校してくれました。

天よしのおかあさんからは『ここに人を呼んでくれるわけじゃないの?』と質問された。自分としては主に授業がある時に来ていることが多かったので、京島校舎付近ならある程度人を呼び込めたのではないかと感じていたが、ここの人たちにとってみれば、それは全く微々たるものにもなっていなかったことがわかりました。

岡部先生も到着し、町保さんにシャーベットを買いに行きました。そこのやり取りで、創業 80 年だということを初めて知りました。そこのおかあさんがお嫁に来て 50 年経過したなど、おかあさんや町保さんの中身を知ることができた。他の人よりも足を運んでる回数も増え、面識も多いので今更聞きづらかったことが聞けて良かったです。

その次は、隣のあん吉（京島校舎向かって、斜め左下）さんにたい焼き、磯辺焼きを買いに行った。自分は京島校舎にの中にいてその場に行きませんでした。でも話の様子を聞いていると、先生や学生は『すいません、〜〜一つ下さい』とか言うことに対して、自分は毎回『こんばんは』『こんにちは』などの挨拶から入る違いがありました。もちろん向こうから挨拶してくれることもあるし、自分から挨拶することもある。ここにいる人ならではの差を感じました。

14:20　30、40 代の夫婦が来校してくれました。

多分興味はもってくれてはいましたが、卒業制作展の一覧を見て立ち止まり、帰っていってしまいました。

16:40　自分の中では名物おじさんの一人でもある方である Nicon のカメラをぶら下げたおじさんが来校してくれました。

第一声から『裏口入学認めませーん。ケータイを持っている人はここから先には入れませーん。』と京大ネタから始まった。ここが学校である（仮想的な場だが）ことが認知してくれてることはうれしかったのですが、隣で立ち止まって見てくれていた 2 人の女性がそれを聞いて、その場を立ち去ってしまいました。（そほど興味もなく、時間の都合上だと思いますが…）

今日自分から会話できたことは、元記者であることや 10 数年前からカメラをぶら下げ、まちを歩いていることなどでした。『墨田区は貧乏だからカメラなんて持つ人なんていなかったよ。それに比べて文京区は…』

（ここに来て話す人の多くは、墨田区は貧乏、学力水準がひくいなど良い点を言わないことが多い。それでも『このまちが好きだ』ということを耳にする。）

17:00　通りがかりの女性が 2 人。

一人の女性の発言に対して『なんなのここ?』と聞くと、もう一方の女性は『知らない』と即答していました。聞こえてないと思っているんだろうけど、普通にまる聞こえしていて、それを聞いた時のショックは大きかったです。

18:15　前々から立ち寄ってくれる 40 代男性の方が来校してくれました。

未だに自分の中でも謎な方で、いまいち把握できていません。お巡りさんや周囲の方に『ココ怪しいことやってる』とアピールしてるのかと思いきや、私のことを応援してくれ、「若い人に期待」と紙に書いてくれたこともありました。今日は、手で「大丈夫」「頑張れ」みたいな仕草をしてくれました。一方で、帰り際には周囲の人に京島校舎を指差して、何かジェスチャーをしていた。

18:50　通りがかりの 40 代女性が 1 人来校してくれた。

この女性が興味を持ってみてくれたもの、「編み編む編まれ編め編むとき編めば」の作品でした。昨日行われた加藤先生、木村さん、岡部先生のトークイベントでもあったように、地域住民（特に女性）の方々にとって、一番入り込みやすいものなのかもしれないと、改めて感じました。

20:30　シャッターを開けたまま今日の出来事を振り返っていると、町保のおかあさんが『今日、ゴミの日だよ！』と知らせてくれた。オープンな場にしておくことで、ささいであったが、コミュニケーションが生まれた。

20:40　会社帰りにふらっと立ち寄った社会人 30 代男性。

墨東まち見世が去年やってたことを知ってくれていた。墨大のチラシ手渡すと、『向島学科おもしろいっ』と言ってくれました。時間も遅かったので、『また来ます！』と言い、帰られました。

合計 10 人の方が来校してくれました。（内、時間外 1 人）

今日の振り返り　卒業制作展の案内を見ても、ここ（商店街に面してるスペース）がそれだとは気付いてもらえなかった。どうしても奥の部屋でやっていることだと考えてしまうみたいだった。また、看板を見て立ち止まる人は多かった。そこに、招き入れるための何かを書けたらいいなと思いました。

3 月 11 日（金）墨大日誌 - 卒業制作展 ver.-

13:00　5 分前に到着しました。すると、「あん吉」のおにいさんや「天よし」、「町保」のおかあさんがお店の外に出ていたので（本来、お店の中にいたらうつむいて挨拶もせず、通り過ぎてしまう所）、『おはようございます』と挨拶をしました。すると、『こんにちは』と大きな声で返してくれました。時間帯に関わらず、その日初めて会った時はいつも『おはようございます』なはずなのに、『こんにちは』だったのは意外でした。

シャッターを開けようとすると、そこにいたおかあさんたちが『「今日は開かないのかね？」って話してた所だよ』と話しかけてくれました。毎日開け続けることの重要性を感じるとともに、「自分がシャッターを開けているんだ！」という変な嬉しさがありました。

その数分後、3 回目の「編み編む編まれ編むとき編めば」の時にパンを差し入れしてくれたり、編み物の道具を自宅に取りに帰ってまで参加してくれたりしたおかあさんが、京

島校舎が開いてるのを見て立ち止まってくれました。正面にあった「編み編む編まれ編むとき編めば」の卒業制作を見て、『目についたから止まっちゃったよ！』と言ってくれました。いろんな方に初めて知ってもらうのも嬉しいことですが、私にとってば「同じ場を共有した」方が見に来てくれることはすごく嬉しく、ついつい話しかけたくなってしまいました。そこにいたご近所のおかあさん方に丸本さんの作った「ドア掛け（？）」を『男の人って、すごい想像力よね』と、絶賛してくれました。『12日にはミシンを使って、また作るみたいですよ』とお話しすると、『私、ミシンはダメなのよ』と断られてしまいました。

13:50　清水さんが山城さんの企画の通りがかりに立ち寄ってくれました。『来なきゃと思ってたんだけど、なかなか来れなくてね。また今度ゆっくり来ます』と言って、去っていかれました。

14:50　大地震が発生しました。あまりの揺れの大きさに思わず外に出てしまいました。しばらくして地震が止むと、『ガスを切った?』、『大丈夫だった?』とお互い心配していました。「あん吉」のお兄さんは周辺のお店を回って、『手伝えることがあったら言ってね』と歩き回っていました。

15:30　私の他に、店番に来てくれていた都市大の学生が3人いました。まだ揺れが収まらない状況だったので、京島校舎の外に出て、立ったままパソコンを操作していました。すると、グルメシティのお店の方などがその状況を見て、『震源地はどこですか?』、『震度は?』など最新情報を求めにやってきました。初めてここの商店街の方たちにとって、役に立つことができた瞬間だった気がします。

「天よし」のおかあさんが『食べておかないと力でないからね』と言って、バナナとちくわの天ぷらを差し入れしてくれました。

「町保」のおかあさんの所には、『裸足で逃げてるんじゃないかと心配して見に来たよ』と自転車で駆けつけている女性がおり、商店街通しの横のつながりであったり、人の温かさをまじまじと感じた瞬間でもありました。

京島校舎で過ごした数ヶ月間、多くの人々と出会いました。当初から持っていた下町に対する「イメージ」でしかなかった人情は、まちの中での活動や人々と触れ合うことで「確信」へと変わりました。周囲の人々の支え無しでは、一人で京島校舎に滞在することはできませんでした。特にお世話になって地域の人々には、心から『ありがとうございました』とお礼を述べさせて頂きたいと思います。

（中島和成）

イベント (1)
墨東まち見世 2010 ネットワークパーティー

2010.11.23（火・祝）
会場：現代美術製作所

2010 年 10 月 2 日に開催され、11 月 23 日まで続いた「墨東まち見世 2010」のイベントである「墨東まち見世 2010 ネットワークパーティ」に参加してきました。

第一部「活動報告＆展示」
時間：14:00-17:00
参加者・参加団体：おしょくじ営業所、北村伊知郎、木村健世、靴郎堂本店、平岡直子、他

第二部「パーティ」
時間：18:00-20:30
参加者・参加団体：EAT&ART TARO、オカザキ恭和、自転車部、中里和人＋東京造形大学大学院生、bockt、他

第一部は、「墨東まち見世 2010」のネットワークプロジェクト参加アーティストの方々による活動の展示とトークセッションです。bockt のメンバーである木村健世さんは、このネットワークプロジェクトにおいて『墨東文庫』という作品を展開してきました。『墨東文庫』とは、墨田区京島エリアに散りばめられた沢山の日常の物語を小説として見立て、文庫目録にまとめたプロジェクトです。（http://takeyokimura.net/bokuto.html より）

木村さんが『墨東文庫』の解説と、作品に込めた想いについて語った後に、木村さんと岡部とで、急遽「墨東」をテーマに「自画持参（http://jigajisan.net/）」を行いまいた。自画持参は、加藤文俊先生、長岡健先生によって展開されているワーショップで、墨東大学でも講義として実施されました。自画持参では、喋る内容がその場で決まり、話し手もその場で決まる、というスタイルのワークショップです。話し手になる可能性がある人は、木村さんや岡部に限らず、このイベントに参加された方々約 20 人の中からクジでその都度決まります。あらかじめ決まっている話し手が予定調和的に話す、という従来のワークショップを脱構築することが目的です... のはずなのに、なぜか 3 回行って 3 回とも話し手は木村さんに。クジ運が良いのか悪いのか判断が難しいですが、何か「持ってる」のは確かです。

続く第二部では、ネットワークプロジェクトに参加されていた EAT&ART TARO さんによる「レトロクッキング」が来場者に振る舞われたり、オカザキ恭和さんのダンスがあったり、中里和人と東京造形大学大学院生による幻燈会、映画「墨田区京島 3 丁目」が披露されたりと盛りだくさん。非常に贅沢な空間となりました。

その後、加藤先生によって墨東大学の趣旨や、これまでどのように進んできたかについて報告されました。「墨東まち見世 2010」のメイン期間は 11 月 23 日までとなりますが、墨東大学は 3 月末まで続くため、墨大がうまく「墨東まち見世 2010」を「引き継ぐ」形になればという想いがこめられた報告となりました。加藤先生によって作成された墨大ペンや、学生募集のチラシの配布がなされたことで、何人かの方々と「今後どのような講義を行っていったら面白いか」「自分だったらこんな講義をやるけれども」といった会話が自然と展開できました。墨大教員の三宅さんとも講義のリフレクションができましたし、参加されている方々が持っているポテンシャルや「ネタ」も非常に興味深く、現在の墨大の持っている枠の拡張可能性を感じました。

墨大は京島校舎という現実空間にも拠点を持っているわけですが、「墨東まち見世 2010」のような、墨東エリアをあたたかく包み込むような地域の活動の総体として存在していければという思いが強くなりました。「墨東まち見世」は、このネットワークパーティに集まっている方々の拠り所であり、空気のような存在。「墨東まち見世」にはかなわないにしても、少しでも墨東大学がそのような存在に近づければと思います。

（岡部大介）

イベント (2)
SFC Open Research Forum2010
特別講座 [地域メディアとしての大学]

2010.11.23（火・祝）15:30 ～ 17:00
場所：アカデミーヒルズ 40

この日は、「ORF2010（オープンリサーチフォーラム 2010）」の企画として、下記のメンバーによるパネルディスカッションがおこなわれました。ORF2010 については、下記のサイトを参照してください。http://orf.sfc.keio.ac.jp/

登壇者（敬称略）：
・相原 憲一（静岡大学大学院教授）
・馬渡 一浩
（一般社団法人 DSIA/ 早稲田大学大学院非常勤講師 / 文京学院大学非常勤講師）
・松家 仁之（総合政策学部特別招聘教授）
・加藤 文俊（環境情報学部教授）

そもそも、このセッションが企画されたのは、馬渡さんとのやりとりからでした。ぼくとしては、ちょうど墨東大学のプロジェクトが動きはじめていたので、『「地域メディア」としての大学』というテーマを提案して、つぎのような紹介文を書きました。なお、このセッションでどのような話があったかについては、下記のサイトに概要がまとめられています。 http://sfcclip.net/news2010112610

この 10 年間は、〈つながること〉が重要な課題であった。いまや、情報ネットワーク環境を前提として時間・空間が再編成され、私たちの〈つながりかた〉が問われるようになった。職場や家庭、さらには地域コミュニティといった文脈において、コミュニケーションや社会関係のあり方はどのように変容するのか。また、絶えず変化する環境に向き合うための、実行力を問い直すための仕組みづくりは可能であろうか。
本セッションでは、大学をひとつの「地域メディア」として位置づけ、登壇者たちのそれぞれの立場から、これからの大学の役割について考える。リアルな空間と仮想的な空間をつないだり、地域コミュニティとの連係を促進したりする、〈仲立ち〉としての大学の可能性に着目する。当日は、フロアとのコミュニケーションを重視したセッションを実現したい。

以下では、このセッションと墨東大学との関係について、簡単に記しておこうと思います。まず、企画とモデレーターを任された時点で、このセッションと墨東大学のプロジェクトとを結びつけたいという気持ちがありました。そこで、ゆるやかに「地域」「大学」といったキーワードで発想して、広い意味での「メディア」つまり〈仲立ち〉としてのはたらきについて考えることにしました。墨東大学は、まちや地域を知るための「しかけ」としてスタートさせていたので、登壇者の方が

ORF2010：前日（22 日）には、ナカジも来た。

たから、何かヒントが得られればいいと期待していました。

そこで、このセッションは、墨東大学の「特別講座」として設置しました。墨東エリアで開講されないという意味で特別なのですが、既存のイベント（別途企画されたイベント）内に組み込まれたパネルディスカッションを聴くことで、墨東大学の単位認定をおこなうという、特別なパターンなわけです。リアルな大学が主催するイベントを利用して、バーチャルな大学の単位認定を可能にする試みです。「借り暮らし」的な、あるいは「シェア」の発想というべきでしょうか…。（いっぽうでは、墨東大学の仕組みをつかって、ORFの来場者を増やした、と考えることもできます。新手の「動員策」だったなどとは言いません。）

ORF は入場無料ですが、他にも無料で提供されている学習プログラムがあるはずです。こうした既存の学習機会をうまくつなぎ合わせることができれば、墨東大学のような「しかけ」は、さらに柔軟に展開できるのではないかと思います。その可能性について、ぼんやりとではあるものの感触を得ることができました。

さて、肝心のセッションは、時間の管理が思うように行かず、モデレーターとしては心残りのセッションとなりましたが、いろいろ、勉強になるセッションでした。この日出席した学生たちには、以下のような課題を出し、受講者のうち5名からレポートが提出されました。

> あの日、司会をつとめた加藤は、セッションをふり返って、いくつかの点で激しく後悔しました。まず、セッションに参加した経験をふまえ、内容や場づくりについて、加藤が後悔した点を推察してください。その上で、どのような場面に、なぜ後悔したのか。そして、どのような即時即興的な判断が可能であったかについてまとめてください。その際、できるかぎりセッションの具体的な場面を例示しながら文章を書くこと。わかりやすい日本語で「文章」を綴ってください（1600 字程度）。

セッションが終わって間もなく、展示ブースの撤収を学生にお願いして、ぼくは墨東エリアに向かいました。この日は、「墨東まち見世 2010」のクロージングイベントとして「ネットワークパーティー」が開かれていたのです。

（加藤文俊）

イベント (3)
"Ba" Design Talk Live（バ・デザイン・トークライブ）

2011.02.25（金）
会場：慶應 MCC
主催：NPO 法人 Educe Technologies
共催：東京大学 大学総合教育研究センター　中原淳研究室

中原さんの新刊『ラーニングバー：知がめぐり、人がつながる場のデザイン』の UST トークライブ。イブニングダイアログ、墨東大学、ハナジョブワークショップ、慶應 MCC などの学習環境をそれぞれデザインしているパネリストとともに、中原さんが展開するラーニングバーを「小ネタ」に「これからの学び」を語る会。

参加者：中原淳、長岡健、冨澤律子、保谷範子、岡部大介
UST 中継：「NAKAHARA-LAB on UST」
http://www.ustream.tv/channel/nakaharalab

ラーニングバーとは何か。これは企画者の中原さんが行っている大人の学びのデザインの実践の 1 つです。ラーニングプロデューサとして、東京大学にて参加者 200 人上限で開催されています。従来型の講演だと、「聞く、聞く、聞く、帰る」という場のデザインが一般的だけれども、ラーニングバーでは参加者どうしが「 聞く、考える、対話する、気づく」というプロセスを経ることを非常に重要視しているのが特徴の 1 つです。(http://www.nakahara-lab.net/learningbar.html より)

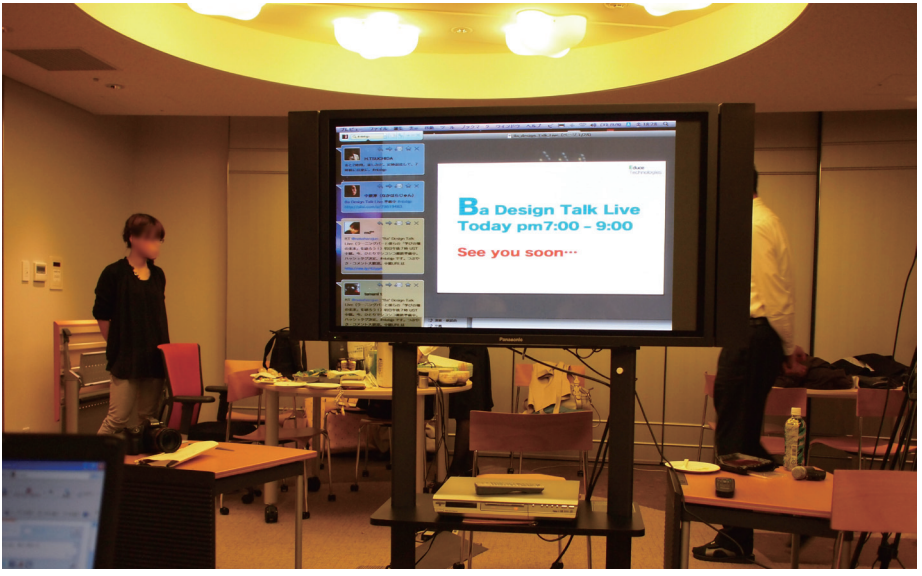
ラーニングバーも、墨東大学も、学びの場としてデザインされています。では、その学びの場は、どのような手続きで形成されているのでしょうか。対話する中で気づいたことは、「無意識を意識化するプロセス」をきちんと経ないうちは、「こういう手続きでやってる」という認識がないという点。墨東大学もまた「手探り」状態で行われているものです。それはそれで良くて、まずは自分がよかれと思ったことをやってみることの重要さ、そしてきちんとそのデザインを内省して意識化するプロセスの重要さを実感しました。そのための 1 つの手だてとして、「失敗談の共有」は有益だと思います。よりインフォーマルに、それこそどこかまちの喫茶店で珈琲でも飲みながら、墨大の教員どうしがリフレクションし合うような場づくりも構築してみたいです。

また、「脱予定調和」の話題にも触れました。それぞれの実践家が予定調和的な学びの場を再構成させようと試みているわけですが、そうなると必ず意識することになる「脱予定調和」という「予定調和」。「脱予定調

和ではいけないんだ!」といいつつも、人はなんとかその場で「脱予定調和的に」あわせてくれます。中原さんは、前日まで、相当な学びの場の作り込みを行っておいて、当日になるど どうでもいい。なるようになれ。」という感覚になるとのこと。この感覚は、墨東大学での講義のヒントにもなるような気がしました。

同時に、学びのプロセスを見る目をどのように涵養するのか、という指摘も重要です。墨東大学では、学生は教師になったりもします。または、墨大で学んだことを、墨大以外の「墨大的な場所」で試してもらえたらと思います。そうなると、学習者として学習の場で何が起こっているかを子細に観察し、その都度教える側がどのように振る舞っているかを獲得していく、暗黙知が重要となってくると思います。長岡先生の言葉で言えば、「あこがれの発達領域」。「こういう振る舞いがとれる人はかっこいい」という素朴な想いから、「こうなりたい」というアイデンティティ形成がなされるはずです。狙って達成されることではないものの、墨大の講師陣も、そのようなあこがれの対象になることがあれば、墨大という場を組織した意味があるかと思います。

（岡部大介）



墨東大学 第一期 卒業イベント トークセッション
「bockt が墨大について語る」

2011.3.09（水）
墨東大学京島校舎

墨東大学とは、いったい何だったのか。第一期卒業生を送り出した 3 月 9 日。
墨東大学という「試み」について、bockt のメンバーが放談しました。

加藤　10 月 14 日から墨東大学というのが動き出しまして、いろんなことがあったんですけど、今日 3 月 9 日に「卒業式」と称して、イベントをやりますので、その前にちょっとだけ、1 時間ぐらい話します。

「墨大って一体何だったの?」っていうことを、僕たち 3 人が言い出しっぺというか、「やりましょう!」って言って、わりとノリでここまできたみたいな感じなので、良い意味でも悪い意味でも、完成度に関しては、それぞれの想いがあると思うので、ざっくばらんに 3 人でちょっと話して、できればこの話の内容をやっぱり最後は形にして、みなさんに読んでもらえるようにしたい。

…ですから少し話をして、その後は、「なんちゃって大学」のわりにはちゃんとしたセレモニーが準備されているので。卒業証書の授与とかですね。もろもろが待っていますので、順番に。僕は大まかに 2 つ話をするといいかなと思って、1 つはそれぞれにとって「墨東大学ってなんだったんだろう?」みたいな話。もう一つはやっぱり「印象に残っている授業」みたい

な話を、2ラウンドっていうのかな。少しずつ話をして、あとは今日、来ていただいている方を呼んで、少しインタラクティブに、双方向的にやる感じで考えています。

岡部　（来ていただいている方との距離が）近いですけどね。

加藤　岡部さんから。

岡部　「印象に残る授業」先でもいいですか？

加藤　そうしましょうか！

岡部　助かります。

加藤　…ウォーミングアップする感じで。

岡部　助かります。具体的な方が…。

加藤　そうですね。はい。

岡部　僕は「印象的な授業」というと、自分がやった授業と、悔しいんですけど、アーティストさんがやった授業のそのギャップが激しすぎるのがすごい…半分悔しいし、半分うれしかったことです。具体的には木村さんと三宅さんの授業に関わらせていただいたんですが、もう授業じゃないんですよ、単純に。大学で授業やった後にこっちに来て授業やった者からみると、ひどいんです。結論もないし、何かを教えようとしてないっていうか。

一同　笑

岡部　あ、何かを教えようとしていないように見えるだけであって、もちろんそこにはあるわけですけど。さっき、ちょっと森さんとも話したんですけど、たとえば三宅さんの「昼寝の授業」です。そのアーティストが組んだ授業の方が、僕が組むんだ授業よりもはるかにみんな、かなり熱心に取り組むんですね。「昼寝をするために徹夜をする」授業の展示で、学生がアーティストをなんとか負かしてやろうとするんですね。アーティストのほうは「昼寝をするために徹夜をしてこい！」って言うだけなんです。授業に参加した一人が今日来てますけど、今、卒業式の花を裏で折ってますけど、横浜市の都筑区からここまで歩いて、夜通し歩いた。曲がり角のたんびに写真を撮りながら。それ(壁の展示）がその時の図です。普通の大学の授業、僕の授業では見せたことのないやる気を見せちゃう。かつ、愚直なまでにそのルールを守る。これも大学ではあり得ないとは思うんですけど。そこのパネルの下の学生は参加する予定だったんです、昼寝の授業に。それを途中で夜中ちょっと寝ちゃったんですね。そしたら、「寝てしまったので履修資格がありません」って言って放棄するんですよ。これも絶対に大学の授業ではありえないっていうか、そこまで愚直にルールを守るっていう、そういう仕掛けをできた授業っていうのは、完全に負けたなっていう気がして。それがこの半年間で一番強烈にインパクトが残っている授業でした。

木村　墨東大学には、たまたま大学の教員の方が2人いて、僕はただのアーティストなんですけども、普段大学でなんかできないような、大学の枠組みの中だとできないようなことを墨大ならできる、みたいなことがテーマとして1つあったと思いますけど、岡部さんもそれを実際に経験されて、強烈な思いをして、今後実際の大学教育にフィードバックできるような

展望みたいなことはあったりするんですか？

岡部　ぶちこわしたい欲求って出てきますよ、それは…。

一同　笑

岡部　…いや、追いつきたい欲求っていうか。実際、昼寝をする授業の後だっけな、前だっけな、覚えていないですが、三宅さんに授業やってもらったんです、大学で。「ひどい授業をやってみよう！」って…「記憶に残る授業をやりませんか？」っていうのを 2 人でスカイプで相談して。普通の授業なんです。大学の単位になる授業で、一回だけ三宅航太郎プレゼンツの授業をやって、内容は「三宅さんと一分お話ししよう！」というものなんですね。普通の講義室と別室をちょっと借りました。ちっちゃい別室を。その別室に、あらかじめ前の時間に挙手制で「やるよ！」「やってもいいよ！」って言ってくれている学生 60 人を用意しておいて、その 60 人に…一分刻みだったよね？

渡部　そうです。

岡部　一分間その別室に行ってもらって、三宅さんと話す。それを 60 回繰り返す。その後に、学生はみんなある大っきい教室に集まってもらって、三宅さんが現れて、今までのその 60 個の話を聞いた振り返りをやるんですね。ただすごかったのが、来てた人は三宅さんじゃないんです。

木村　ははっ！偽物…。

岡部　そこの別室にいた人は別人で。僕も、それは誰か知らない人で。

加藤　すげっ！

岡部　来た時に挨拶もしてないんです。うちの瀬谷っていう学生だけが、その人をアテンドしたんですね。それで、僕も挨拶も何もせずに、一体学生は誰と話しているのかも知らずに、その人がふらりと現れて。で、僕はその前の授業で「三宅さんってこういう取り組みをやってる面白い人なんですよ！すごいアーティストなんですよ！」みたいなことは言ってある。みんな三宅さんが来てるよ…と。大きいほうの教室でしばらくフィードバックをした後に、「すいません」と。「僕、三宅航太郎じゃないんです」って。

一同　笑

岡部　飲み屋で会ったって言ってたっけ。

渡部　そうです！

岡部　飲み屋で三宅航太郎さんに会って、「来ない？」って言われて、来ました！…って。それで学生からは「わぁーわぁー」という声が上がったり、「へぇー！」みたいな感じになって。三宅さんが最後に伝えたかったのは、「でもみなさんが私に、三宅航太郎に伝えたかった内容の 1 分間っていうのは、僕が三宅航太郎じゃなくてもなんか変わるんでしょうか？」っていうことを伝えて、「帰ります！」って言って…。

加藤　なるほど。

岡部　…っていう授業をやってもらったのはインパクト残ってますか？

徳山　…はい！

岡部　すみません（笑）「情報エコロジー」だったんですけど。

木村　はぁ。

加藤　そういえば、テストで「私の顔写真はどれでしょう?」みたいな問題を出した人がいたんですよ、僕の学部の頃に。それはみんなどうせ出席してないから、要するに出てたかどうかを確かめるために、その「本人の顔がわかるかどうか」っていうのをテストしたっていう人がいます。それを思い出しましたね。

一同　笑

岡部　同レベルですね。

加藤　むしろ、それのレベルを言っていて。別に顔は知らなくてもいい。もうちょっとスマートな言い方をすると、顔を知らなくても何かのコミュニケーションを取るっていうことが目的であるならば、別にそれは三宅さんじゃなくてもいいし、しゃべってる本人が三宅さんだって思ってればそれはそれで良かったみたいな話ですよね。それは面白いですね!

岡部　一応、学生は一週間「こういう実践をしてる三宅さんという人に、一分間、何を話そう」っていうのを、ちょっとは考えてきてくれているんですよ。その 19 歳、20 歳ぐらいの子たちの考えた内容を、あれはぶちこわしたのかな…。

岡部・木村　笑

加藤　「ぶちこわす」というかもうなにか、あっけらかんと飛び越えられてしまう感じありますよね。要するにアーティスト…やっぱり僕らはかなり普段の仕事に縛られているっていうか。なんだろう、墨大は「自由だぜ!」って言いながら、全然自由になりきれないっていうか。予想以上に考えがすごい狭くなってるし、「大胆で面白いことしようぜ!」って言いながら大胆じゃないみたいな。逆にそれを思い知って凹むみたいな感じはすごく、ありましたね。

…だから、これだって、岡部さんがこういうパネルを学生に作らせて持ってくることじたいも実はすごい大学的じゃないですか? 展示的じゃないですか? たぶん。…そんなことを考えましたね。

木村さんは印象に残ってる授業ってなんかありますか?

木村　…

加藤　パスとか言わないでくださいね。

木村　僕は、実は他の人の授業ってほとんど出れてなくって。すなわち、自分でやった授業しか印象に残ってないんですけども、2 つ授業をやりました。2 つを 2 回ずつ、全部で 4 回やったんですけども、1 つは「ミニマムアーバニズム」っていう授業をやらせて頂いて、それどんな授業だったかっていうと、僕自身もすごい端で見てて、あるいは手伝ったりしてすごい楽しかったんですけども、どんな授業だったか、まさに僕と岡部さんが座ってるこれが成果品なんですけども、これは臼井くんの卒制になってますけど。「最小限の都市計画みたいなもの」をこの場所でできないかなっていう風に考えたんですね。っていうのは、墨東大学って、せっかく墨東でやるっていうのはまずありますし、墨東でしかできない、このまちに僕らがくっついてなんかできる。せっかくそういう機会なんで、このまちに何か小さいことで寄与する、っていうことはできないかなと思って考えた授業なんです。「街角にベンチを作って、置きませんか?」っていう授業だったんです

ね。

（いま座っている）これは隣のもつ焼き屋さんに納品したベンチなんですけど、今まだ寒いんであんまり使われてないんですけど、もうちょっと春とか夏になるとこれは軒先に置かれておじさんたちがこれに座って、飲むようなベンチなんです。まずその方法としては、僕たちが隣のもつ焼き屋さんにインタビュー行くんですね。常連さんたちがたくさんみんな飲んだくれて酔っぱらってるシチュエーションに僕らが飛び込んで行くわけですよ。常連さんに「どんな椅子が欲しいですかね？」みたいなことを聞くわけです。それでインタビューして、だから要は、クライアントとデザイナーみたいな関係ではあるんです。そこでおじさんたちが「こんなのがいい！」「あんなのがいい！」とか言ってくれて、僕らがそれをメモって、あるいは、場合によっては場所の寸法とか測ったりとかしてリサーチして、こっちに帰ってきて、DIY なんですけど、「ガンガン作る」っていうのをやったんです。

これはすごい印象に残ってて、その作る過程で常連さんの一人が木材を提供してくれたんですよ。「どうせ作るならうちにいい木がいっぱい余ってるから、ちょっとみんなおれんち来い！」みたいな感じで、連れてってくれたんですよ、近所なんですけど。そこに、ぞろぞろ僕らがくっついてって、そのおじさんが家の裏からどんどんどんどん木材を運び出して来てくれて、「ありがとうございます！」って言って。材料は、他に用意してあったんですけど、それは使わずにもらった材料で作ったのがこれなんです。そういう途中のハプニングとかも、「おれが木あげるからさ、良いの作れよ！」みたいなのは、やっぱり墨東っぽいっていうか、そういう空気を僕らは本当にすごい身近に生で体験できたシーンだったので、すごいうれしくって印象に残っている所ですね。

最後にこれ納品しに行くんです、完成してから、お隣に。例によって、常連さんたちができあがっている状態ですよ。みんなが飲んでる所に「出来ました！」って行って、持っていって納品式みたいなことをするんですけど、それもかなり印象に残っていて…。みなさん職人さんなんですよ。常連さんって、ペンキ屋さんがいたり、あとは大工さんがいたり、あとは板金屋さんがいたり。ものづくりのプロフェッショナルな人たちが酔っぱらって、そこに持っていくと、ものすごいダメ出しをされました。

…結構これ、キレイにできてますよね？ 僕らもやったときは達成感があって、「すごいお洒落なのできたね！」みたいな感じでいたんですけども…。相当ビスの打ち方のこととか言われて。こういう突起物なんかも「お尻が刺さったらどうするんだ」とか、あとはこの辺の縛り方なんかの色々指導も受けたりして、人によってはもう「お前らもうこんなのもう一回最初からやり直せ」みたいなことを言う人もいて（笑）、ストレートにやっぱりレスポンスをこう「カッ」って返してくれるっていうのも本当に印象に残っていて。楽しくて印象に残っていることでした。多分このまちでしかできないテーマで、この授業は考えてみたんですけど、そういう意味では色々言ってもらったり、何かを貰ったり、すごい印象的な出来事が多かったので、まあまあうまくいったかなって、自画自賛なんですけど思っていまして。すごい良かった。

良かったというか、楽しかったですね。

やっぱり授業では「僕が教える」とか、「学生さんが集まって教わる」っていう関係があるんですけど、また一つそこに「まちの人」っていうファクターが入ることでだいぶ教育っていうんですか、そういう様相がだいぶ変わってきて、僕なんかもう段々やってるうちに単なるコーディネーターみたいな立場になってきたり、色々立場が変化してくるっていう変化の過程みたいなのもすごい印象に残っていますね。

加藤　追加で言っておくと、もう一つ同じ授業で椅子を作って、それは薬屋さんに。

木村　そうです！山田屋薬局さんに納品してきました。

加藤　それもカウンターの、要するに奥行き数十センチっていうところで立ち仕事をしている時にちょっと休むっていう、あれは本当にカスタムメイドですよね。

木村　今日は残念ながら展示はできてないんですが、まずお店が狭いっていうのも、間口が狭いっていうのも、ちょっと墨東ならではなのかなっていう気がしてて、そういう狭い薬局の中で仕事をしてるんですけど、カウンターがあって、壁が、この隙間かな。30 センチぐらいしかないんですよね。ここでいつも普段は立って仕事をしてるんだけど、少し半座りできるくらいの椅子が欲しいっていう、その時は難しい注文を受けまして、山田薬局さんの社長さんの体をかなり測らして頂いて、作りました。

加藤　僕はそれを見ていて、墨東大学を「やりましょうよ！」って言った時に、漠然と考えていたことが、その授業で「なるほど！」って、形になって見えてきたんです。その一つは、作った人が「永久保証しなくちゃいけない」っていうのかな。つまり、作りっぱなしで「椅子来ました！」って言って、自分から切り離すんじゃなくて、そういう体まで測って作った椅子だから…なんだろう、「壊

れちゃった」って言って直してくれる人は誰かって言ったら、やっぱり、最初にコンタクトをとるのは作った人なんですよね。その感じはすごくわかりやすくて僕は「なるほど!」って思ったんですよね。

もちろん直そうと思えば誰か直せる人はいるんだけど、でもウミって、今来てないんですけど、4年生の女の子が作って、やっぱり彼女は「直せ!」って言われたら直しに来ますよ。

木村　そうです。蒲田から飛んでこなきゃいけないですよ!

加藤　来ざるをえないし、気になりますよね。究極のカスタマイズ商品みたいなのができた場合に、納品するんだけど、逆にすごい背負う物が良い意味でも悪い意味でも大きい。それが見えたのがすごい面白かったですよね。

木村　墨東大学のもう一つのコンセプトの一つとして、「昼間人口」を増やすみたいなのがあったりして。やっぱり墨大の学生がまちの人と関わりを持って、その関係がなんらかの形でずっと続いていくみたいなのがうっすらビジョンとしてあったので、「永久保証」っていうのは授業の中で義務づけた感じですよね。

加藤　僕はですね、自分の授業じゃないですけど、今日は来てくれるって言ってまだ到着してないんですけど、伊藤さちさんの編み物の授業ですね。結果として、卒業制作にたくさん編み物が展示されることになったんですけど、彼女とも実は僕、もともと知り合いじゃなくて、ある人を介して紹介してもらったんですけど、3回ワークショップをやってくれました。元々普段は編み物とか古着を再生するっていうようなワークショップをやっていて、僕はそれに一回参加して、「なるほど!」と思ったのは、いとも簡単に道行く人を巻き込んだというところです。理屈では、地元の人と一緒になって「やりましょう!」とか、「そういうことができるコンテンツを考えましょう」って言っていながら、冒頭に言ったように僕とか岡部さんは、一番大学の教員的な発想から脱却しきれないところがあった。あと、あまりにもぶっ飛んだ企画だと誰もついていけない。だけど、編み物っていうのが、ねらっていたかどうかわからないけど、この場所がら、あるいは、やる作業としてものすごくハマったっていう感じを目撃して。

僕は一回目しか参加してないんですけど、とにかく毛糸の玉をここにいっぱい出して、全然みんな会話してるわけじゃないんですよ。みんな自分の世界に入り込んで黙々と編み物をしてるだけなんだけど、それが道行く人から目に入るともう何人かの人は、「へたくそねー」っていうような声がけっていうか、「こうやるのよ!」って言って全部教えてくれる。あとはね、家に帰ってから、自分の道具を持って帰ってきた人とかいたんですよ。

木村　まちの人が?

加藤　そうそう。だから、やっぱり「編み物」っていう一つのアクティビティが、見事にハマった感じがすごく印象に残ってます。結果から言うと、そういうものをたくさん用意できなかったっていうか、実際10月から今までやって半年弱、半年もないんですけども、イメージとしてはそういうものをたくさん並べてやりたかったんだけれど、もろもろを実践に移すときには色々な予期せぬ

こととか、思い通りにいかないことっていうのがあったわけで、伊藤さんにやっていただいた3回は全部、結構いい感じで動いたので、それは僕すごく嬉しいことでした。

岡部　今の話聞いてやっとわかったのが、僕は大学にありそうな保証された学生っていうか、なんとなく自分でイメージがつく学生と自分の間を取り持つ媒介物は用意できるんですよ、多分。多分それは給料もらってるのでそれはできる自信があるんですけど、まちの人と自分や学生を媒介するものっていうものを提供するっていうことがいかに難しく、でも楽しそうなことかっていう重要なことだっていう、そこの感覚の差っていうのはすごい今、やっと今、わかりました。

加藤　だから、やってみてわかる部分っていうのはすごくたくさんありますよね。「他に何があるのかな?」とか、そういうことをすごい考えますけどね、編み物の他に。

木村　伊藤さんの授業は、その話聞いたときは僕もすごく悔しくって、すっごいナチュラルじゃないですか?やっぱり編み物には、おばあちゃんも興味を示すとか。単純に手を動かすっていう作業で、誰かが夢中になって何人かが夢中になって何かをやってるって所にやっぱりみんな野次馬根性半分で、覗きたがるみたいな心理の動きっていうのがあると思うんですよね。そういうのがあの授業に、全てぴったりハマってるんですよね。すごい良い回答出ちゃったな…っていう感じですよね。

岡部　多分説明しなくていいんでしょうね。「これ何やってるの?」っていう時に。僕の授業って説明しちゃうんですよ、400字ぐらいで。もう聞いてくれないんですよ。もしかしたら400字じゃきりがないぐらいで、ここで私が立って、のぞいてくれた人に説明しちゃってて。もうその時点でアウトですよね。伊藤さんの授業は言葉もいらずに、もう一、二歩入ってくるっていう。

加藤　だから、一目でわかるみたいなのはすごい重要ですよね。その意味では、すごく課題が残ったというか、やや不完全燃焼的なところはありますけどね。

岡部　要するに、大学のシラバスみたいなものって、必要なのか?

加藤　うん。

岡部　シラバス的な説明をしてるんですよ。この授業は「こういうことをやろうと思っていて」みたいなことを、わざわざまちの人とか声かけてくれた人とか、お隣の藤井さんに説明したりする。すごいシラバス的ですよね?

加藤　だから、「墨東大学なんですよ!」っていう言い方自体も、もしかしたらもっと考えなきゃいけないかもしれないですね。

岡部　イケテナイかもしれないですよね、もしかしたら?

加藤　なにかをやってて、これ実は「墨大」っていうのがあって、っていう話の流れなんですよ、きっとね。いろんなこと考えましたよね。

　…これはどうやってまとめていきましょうか?まとめ方については考えていなかったんですけど。

岡部　時間的にはまだ大丈夫ですか?

加藤　まだ大丈夫ですね。

岡部　みなさんにふりますか？

加藤　どなたかから意見もらってもいいですね。

岡部　あとやっぱり、一つの目的として、学生と教員をなんとかしたかった。こう、スローガンとしては「非対称的な関係ではないものにする」っていうコンセプトも相談した時に出てきたはずなんです。

加藤　はい。

岡部　それがいかに、例えばこれ聞きたいのはうっすんとかなんだけども、学生が「授業企画します！」っていうことはどの程度達成されていたのかというか、ワクワクするものだったのか、この場じゃないとできなかったのかとか、そういう振り返りっていうものをしていきたいなっていうのは思いますよね。

あとはそれこそ、大学では絶対あり得ないマンツーマンの授業とか。あとまた名前出しちゃってあれですけど、三宅さんの「休講」っていう授業があって、「先生が一人、、墨大生が来るのを岡山県で待ってる」っていう授業。あとは、「おしょくじ」っていう授業、また三宅さんの授業ですが、「先生が受講生を把握できてない」っていう授業があったんですね。そのあたりの、特にマンツーマンの授業や、学生が授業をするようなもの。なかじもやったよね？なかじも一個授業を持って。それがうまくいったという表現はできるのかな、どうなんだろう。でもちょっと聞いてみたい

加藤　マンツーマンの話で言うと、授業についての情報提供とか告知とか参加者を登録してもらうみたいな話っていうのはどうやったらいいのかよくちょっと分からず、模索しながらだったので、「最悪、誰も来ない場合もあるよね？」みたいな

話をちょっとしてたと思うんですよね。その場合に僕らばどうすればいいんだろう?」みたいな話、なにかの時に…岡部さん、その時いたかな、長岡さんと話をしていて。その時は「授業やるって言ったんだら、たとえ客というかですね、学生がいなくても黙って黒板に書き続けるというのが、それがやっぱり教員、教室というものだろう」っていうかたちで、僕は理解をしてたんですね。

3月5日に「補講の歩行」っていうのをやった時に、全然誰も来る気配がなかったので、半分ネタ的に「おれは一人だけで授業やったぜ!」っていう時間が訪れるかなと思ってたら、徳山くんが登録をしていて。会ったこともなくて、twitterのアイコンがちょっと謎で、ちょっと恐くて、「おれこういう人、ちょっとどうしよう…」っていうアイコンなんですよ。しかもそのフォローワー、フォローしている人のアイコンもみんな似たようなアイコンで、「うわー、おれどうしよう」っていう感じで来たら、ちゃんと5分前っていうか時間ぴったりに待ってて。

岡部　…教室が開いてないとこで待ってたの?

加藤　そう。開いていないところで待っていて、僕は、彼との90分ないしは120分の時間が始まるみたいな。それで面白かったのが、事前に彼はメッセージをくれていて、僕はその日まで気がつかなかったんですけど、要するに学生の方から「明日授業やりますか?」っていう連絡をもらったことなんて今まで一度もないわけですよ、本業のほうの大学では。確認なんて、しないわけじゃないですか? そんなことしないでみんな普通に休むわけじゃないですか?「僕、休みます!」っていうメールはもらったことあるし、メールなしに休むやつはいっぱいいるんだけど、「明日授業行こうと思ってるんですけど、先生来ますか?」っていうメールは初でした。だからそういうことが簡単に起きるのはやっぱり墨大というか、このやや遊びながらやっている大学の、すごいところで。そのたった一通のメッセージなんだけど、その面白さはありましたよね。

岡部　恐いですよね。

加藤　恐いですよ、恐い。

岡部　どうアプローチとったんですか?

加藤　いや、いや…。

一同　笑

加藤　それはまあね、逃げるわけにはいかないんで。

木村　平常心を装って?

加藤　平常心を、そうです。そんな感じでした。なので…どんな感じでした?ちょっと、徳山くんのほうって?

徳山　僕も不安でしたよね、やっぱり来るとき。

一同　笑

徳山　会ったことないし、時間になってもここシャッター開かないし。でもやっぱ講義やってみて、やっぱり、出会いって言うんですかね、初めて話したんですけど結構楽しく歩けた気もします。あまりうまいこと言えないんですけど…。

岡部　コミュニケーションの授業っぽいね。初対面ってどうする? みたいな。

加藤　でも、一対一は面白いですよ、やっぱり。普通の大学ではあり得ないっていうか、めったに

ないんだけど。

岡部　普通の大学だと内部評価に関わりますよね？人気がない授業みたいな。

加藤　まずそうなるし、一対一で授業することの心苦しさみたいなのはありますよね。それば「まちを歩く」っていう授業だったからやりやすかったっていうのもあるけど、一対一で、学生とまちを歩くのは墨大じゃなくても、やってても良さそうなことなんだけど、やってないな、みたいな。

つまり、自然科学系のフィールドワークなんかやってる人は、それこそ 2 人とか 3 人とか少人数で山の中歩いたり普通にしてるわけですよね。だけど、フィールドワークだと普段言っていながら、例えば学生と 2 人とか 3 人で「じゃあ、ちょっと歩いてみようぜ！」って言って歩くようなことは、考えてみたらやってなかったなっていうのに気付くみたいなところがあって。

でも、徳山くんだったからできたのかもしれないですよ。それはメンツによるっていうかね。「それは良かった！」って振り返って言えるけど、それは非常に苦しい 90 分だった可能性もあるわけですよね。だからその場合は途中で「もう今日は終りにしよっか！」みたいな、そういう展開ももちろんあり得ましたけど。それは、面白かったですけどね。

岡部　一対一の授業、学生としても僕受けたことないですね、今まで学部・大学院。

加藤　僕は「みんな休んで、おれ一人だけで気まずい授業に座ってた」っていう経験あるんですけどね。それはみんなにおいてかれた感じで、一人だけ、おれだけ授業に出てたみたいなのは一回だけありました。

…ちょっと、うっすんから聞いてみますか？

岡部　聞きたい。

加藤　あの、学生から提案型っていうのは 2 つかな？ なかじにやってもらったのと…

岡部　うっすんと、あとは、僕もいたんですけどうちの学生が…。

加藤　妖怪か！

岡部　妖怪もそうだ！だから、4 つだ！4 つです。

加藤　あとあれですよね、東工大の。…まあ、いくつかありましたよね。ちょっと、うっすんから聞いてみますか？

岡部　うっすんと、妖怪と、なかじか！

加藤　授業やってみる感じ…もちろん、「なんちゃって大学」だから、うっすんなんかは普段やってることとそんなに変わんないのかもしれないけど、授業っていうか、何か考える時間を提供するみたいなのは、変わんないのかもしれないんだけど、そもそもどういう…まあ提案があったわけじゃないですか？「授業やってもいいですか？」って。それのきっかけというか、それはどんな感じだったんですか？

岡部　言い出した？

加藤　言い出した！

岡部　「やれ！」じゃなくて、言い出したんですか？

加藤　「やってもいいよ！」ってことはどっかで言ってたかもしれないけど、別に「やれ！」っていうことはそんなに積極的に言った記憶はないんだよね。

臼井　「やってみてどうだったか?」っていうことですか?

加藤　と、なぜ、やるにいたったか。

臼井　やろうとした理由は、僕は、墨大は「大学」って言ってるけど、プラットフォームみたいなものだと思って。ユーザとしては、文さんの授業一回出たことあったんですけど、これで卒制っていうのも「結構大変そうだな」って思ったんですよ、正直。こういう感じのことだったら別に学生がやってもクオリティーの差はあれど、場は作れるし、それでいいんじゃないかなと思って、「やる!」って言い出したら誰かやらないかと思ったんですよ。だから、ユーザ側としては受け取るだけじゃなくて、自分から作り出せた方が帰ってリターンが大っきいんじゃないかなと思ったっていうのはあるんですね。だから、どううまく使うかみたいな話ですよ、墨東大学を。それで提案した方が面白いし、そういうこともできるんだと思って、回りのゼミの後輩とかが「やり始めるかな?」とか期待したりとか。別の使い方もあるんじゃないかと思って、ちょっと使い方考えてみたっていう感じですよね、きっかけとしては。

岡部　なるほど。

加藤　結果としては大人気授業だよね?

岡部　だってうちの学生も行ってるもん。

臼井　そうそう、2人。

加藤　一番集客力があったんじゃないかな?

臼井　3人で企画したっていうスタイルで、やったので。僕だけじゃなくて。

岡部　その2人を巻き込むためには、「ものとして、墨大は使えんじゃない?」っていうような解釈でもいいの?

臼井　「授業作る」ってことは、いろんな人ができるから「みんなやればいいのに」って思ったんですよ。僕がやって、みんなが受ける、っていうのだと、「臼井さんだからやった」とか、「元気だし」みたいな感じで思われて、終わるかなとか思ったんですよ。

一同　笑

岡部　すごい自己分析!

臼井　何人かでやったんだったら、「あの感じだったら入れるかな?」みたいな。

岡部　なるほど。それにフォローワーが来るんじゃないかなっていう?

臼井　レイヤーができるかなと思ったんですよ。3つの関係になるっていうか、「僕」と「誰か」で企画してて、そこに入ってくる。

岡部　最初は受講生でも、あの人たちがやったんなら僕らも…と。

臼井　「こんなもんだったらできるだろう」ぐらいに思ってくれれば、良かったんですよね。

…どうだったんですか?

飯田　はい?

臼井　「こんなもんだったらできるだろう」みたいなの思った?

飯田　いや、こんなもんだったらって思ってないですけど、「やっていいんだ!」っていうのはありました。その時一緒に来てた岡部研の大崎くんと一緒に、結局できなかったんですけど、話をし

て、意欲とか湧いたし、実現には至らなかったにせよ、そういう話は確かに出てきましたね。

加藤　「プラットフォーム」っていうことでいうと、どこが問題ですかね？プラットフォームとして見た時、良い所と悪い所をざっくり。つまり使いやすいプラットフォームと、そうでないものがあるじゃないですか？

臼井　やっぱ場所が遠いっていうのは。

一同　笑

加藤　それを言われちゃおしまいだよ。

臼井　さらに言うならば、墨東じゃなくてもできる授業でもOKじゃないですか？

加藤　まあ、そうね。そうなんですよ！

臼井　墨東オリジナルで授業考えるとなると、一回リサーチに来なくちゃいけない。何回か企画を立てなきゃできないから、即興でやっても良かったのかもしれないけれども、そのメリットはあんまり感じてなかった。

岡部　なるほど。

加藤　なるほど、なるほど。そこはね、確かに墨東じゃなきゃ…遠いという話は置いてといて、墨東じゃないと…っていう話は、僕らもちょっとブレつつ授業を構成したところがあって。例えば長岡先生にお願いしたようなのは、別に墨東じゃなくても、たとえば丸の内辺りでやってもいいわけですよ。

だけど、まち歩き系とか、編み物も伊藤さんが拾った物を編み込むみたいなのをやってくれた。だから、このあたりを歩いて拾ってきたビニールシートとかなんとかを、ここで編むみたいなことを言ってくださったので、そういうのは有りだよね。だから、やっぱりどこにせよ、このあと墨東以外の場所があるにせよ、ないにせよ、そのエリアで素材を調達するみたいな所をもっと最初に、ばしっと徹底しておいた方が良かったかも

しれないですよね。

岡部　難しい。墨東でなきゃっていうのは、すごい美しいフレーズのようには聞こえるんですよ。墨東でやれるものっていうのは、それを目指してたんですけど、でもさっき出てた「怪異」、妖怪系がひとつと、なかじが、自分の過去の恋愛のストーリーをビデオにするっていうためにここを使ったんですね。どっちも欲望系なんですよ。欲望をモノにするみたいなものなんですね。

「怪異」は、彼はマネジメントの方なんですけども、もう一人作り手の方は、妖怪が好きでたまらないっていう絵描きなんです。絵師なんです。妖怪描きたいんですね。妖怪のこと調べるのが好きで、気付いたら17体だっけ？描いちゃって、「これなんかなんないかな？」みたいな感じなんですね。そういう個人の欲望を開放させる場としては、このぐらいの緩さを持った空気感っていうのはすごく重要だった気がするんですね。

一応、かろうじてなかじは墨東に関わってたし、かろうじてこの辺は妖怪の言い伝えが多いっていうのはヒットしたので嬉しかったんですけど、欲望を開放できる場としての空気感を僕は達成されてたような気が、個人の欲望をこう開放する。ちょっと嬉しい。

加藤　はい、わかります。だからあれですよね、妖怪も墨東ものっていうのがあるわけですよね。だから、それでいいんじゃないですかね？

岡部　こじつけですよ。

加藤　だから、こじつけでも良くて、その地域で展開できればよくて。「ミニマムアーバニズム」だって、言葉の問題だけど、墨東じゃなきゃできないかって言ったら、別のまちでもできるわけですよね。だけど、アプローチとして、インタビューから体の採寸から始まって、材料を調達してっていうのを、そのエリアでやるっていう、そのやりかたがあればいいわけじゃないですか。

だから妖怪の話もなかじの話も、欲望系っていう言い方をしたけれども、これもたぶんトランスファー可能っていうか、言ってることが矛盾しちゃうんですよね。墨東ならではと言いながら、やり方そのものはどこでも使えるみたいな言い方なんですかね。

岡部　どう言えばいいんだろう…？

加藤　編み物もべつに、墨東のものを拾って作らなければいけないっていうことにそこまでこだわっていなくて、墨東なんだったら「じゃあ、墨東で拾って作りましょう！」っていうスタンスですよね、たぶんね。

だからこじつけで墨東もので妖怪が入ったっていうのと、もしかしたら似ているところがあって、編み物なんだけど、墨東で編むからには素材は墨東のものを一緒に編み込んでおきましょう、っていうぐらいの活動の設計になってると、結果として場所固有のものも編み込まれていくような感じがするんですよね。

岡部　刺激は墨東でいいのかな。刺激というかなんというか。本当はね、本所七不思議の方がはるかに魅力的だから本所でやった方がいいんだよね？

渡部　そうですね。

岡部　ちょっと錦糸町ぐらいの方が実はもっとうじゃうじゃいて、いんですけど。

加藤　なるほど。

渡部　錦糸町歩いてても別にそんなに面白くないんですよ。

岡部　おっ、いいこと言っちゃった。

加藤　ヤバい！錦糸町の人が聞いたら怒るよ、これは。

岡部　墨東にとっては、いいこと言っちゃった。

加藤　はい。

渡部　そうですね。普通にまちを歩く時に、錦糸町は栄えていて、栄えている所に「普段こういう言い伝えがありましたよ！」とかっていうのがあっても面白いと思うんですけど…基本的にビル街だったりとか、飲み屋があったりとか風景的に別にさして面白くないものだなっていうのは、錦糸町も一回フィールドワークで見に行ってて、実際にメッカであるところって、逆に「こういう言い伝えがありました」みたいな表札が立ってたりするんですよね。

こっちに来ると、結構マイナーだから普通の路地とかにそういう言い伝えがあったっていう本は出てたりするんですけど、もちろん住宅街のど真ん中だったりするんで、それを紹介するものとか残ってなかったりするので。いいあんばいのものがあるっていうのもそうだし、ただ単に下町っていうこともあって、歩いててぶつかる妖怪以外のものが見ていて面白かったりするっていうのがあったりとか。それはすごい良かったかなと。

そもそものコンセプトとして、妖怪ばっか見てるんじゃなくて、他の所も色々見ながらのまち歩きにスパイスを加えるようなものであってほしいってことを考えてたんで、すごく墨東でやって良かったなっていう所はありました。

木村　そういうことですよね。きっかけとして、下町の風景の面白さみたいなのとか、まちの人の気さくさみたいなものがあって、そういう環境があるだけで、僕らもやっぱり心は開きやすかったり、ひょっとしたら目も良くなるかもしれないし、鼻も良くなるかもしれない…。こう感覚みたいなものが、いつもと変わるんじゃないかなみたいな期待はありますよね。それで多分、妖怪のプロジェクトとかもうまくいったんじゃないかと思ってるし、そういった固有の場所性みたいなのって、なんとなく空気中に散りばめられていて、なんとなくかもしれないけど、自分の身体の中にどんどん吸入していって、それで自分の感覚が開けるみたいな経験ができたのはすごい良かったですよね。それは墨大の授業とかでもそういう風になってたらいいなと思って。

結局、伊藤さんの授業も、さっき加藤さんがおっしゃってたのは、ここじゃなくてもできるかもしれないけども、やっぱりここでシャッター開けて編んでるってことが、まちにアクセスするっていうか、向こうからアクセスされる場合もありますし、解け合えるっていうか、そういうきっかけを作れたのかと。そこで例えば、おばあちゃんが「下手ね」って言って指導してくれるっていうのは、もうここにしかいないおばあちゃんが、培った技術を教えてくれるわけなんで、そこで場所性みたいなものが凝縮されて、受け取ってるんじゃないかな、受け取れてるんじゃないかなっていう想いはありますね。

岡部　それに地味に関連する話なんですけど、

シャッター問題っていうのがありまして、寒いじゃないですか。

木村　寒い。

岡部　12月の授業で僕あまりに寒すぎて、シャッター途中で閉めちゃったんですけど、それを他の協力してもらっている先生、長岡先生にバレちゃって。先生はもう愚直なまでに寒くてもずっと開けててくれた。この接点を保っててくれた先生だったんです。バレてすごい怒られて、「企画者は自由ですね」みたいなことを言われて、「ずるい」とか言われて(笑)。その接点を保つのって、命がけなんですよ。寒すぎて、これはもうしょうがないってことなんですかね?

木村　なんか考えたいですよね。ウインドウつけるとか…。

岡部　接点は保ちたいけど、どこまで…。3月なら暖かいだろうと思ったけど、今日も冷えてきましたし、まちとの戯れ方ってここまで難しいのかっていうのを、物理的にも心理的にもすごい感じたプロジェクトでした。

加藤　でも別の言い方をすると、これだけ開放していても、人をたくさん呼び入れるっていうことには、必ずしも成功してないっていうか、やっぱり見えない壁があるわけじゃないですか。これだけ見えていても。だから、そこはすごい面白いですよね。どうやって一歩踏み入れてもらうかみたいな所は…。

岡部　なかじがシャッター開けてて、何時間中何人くらい来るもの?

中島　授業をこの中でしているよりは、来ます。

岡部　授業してるより来るの? そこは良い皮肉ですね。

中島　意外とこういう企画とかにグチとかを言ってる人でも、結構何回も足を運んでくれて、色々

社会についてとか…。

一同　笑

岡部　社会に開いた墨東大学（笑）。社会って面白いね。政治への不満とか？

中島　政治への不満とか、小沢はダメだとか…。

岡部　それ、どう反応する？

中島　そうですね。「自民党の方がいいですよね！」みたいな感じで…。

一同　笑

岡部　反応のしようもないよね。

中島　難しいです。

岡部　難しいですよね。

中島　一応そのペースに合わせてというか、その人が喜びそうな答えを探して…。

木村　いい子だ。親切だ。

木村　いちばん最初に３人でミーティングした時に、加藤さんが「ちょっと面白いの考えちゃったんだよね」って言って、墨大のアイディアを話してくれたんですよ。その時、僕、なんだかときめいて。「墨東大学」を作ろうって、大学ってある種キャンパスがあって、校舎があって、すごい物理的なイメージ、物理的な実際のものに付随してる感じじゃないですか。そういうものだと思うんですけれども、墨大って、墨東の中だったらどこで授業やってもいいし、どんな授業やってもいいし、校舎も今ちっちゃいのありますけど、当初は校舎もなくって、本当空気みたいな、「空気大学なんだ」と思ってときめいたんですよね。空気ってことは多分、何か「がーん」って大っきいもの作っちゃうよりも、やっぱり細い路地とかにも入っていきやすいものだと思うし、人の心の中とかにも、「すうっと」入っていきやすいものになるのかなって思ってすごいときめいたっていうのがあったんです。

これからの反省っていうか課題っていう風になっちゃうとは思うんですけど、空気の大学だからこそできることっていうのをもっともっと考えてやってけば、本当に墨大になっていくんじゃないのかなっていう気はすごいしています。きっと、なかじがここにいて、おじさんが来て社会問題の話をするっていうのも、きっと空気っぽいからしちゃんうじゃないかなっていう気もしてたりもして。

授業と直接は関係ないんですけども、僕もここで「ぼうっと」居たことって何回かあるんですけど、準備したりとか掃除したりとかすると、おじさんが通りかかって、「この商店街もね、人が減っちゃって」とか悲しい話をしてくれたりだとか、直接「あんたたち何やってんの？」っていうんじゃなくて、世間話をしてくれたりだとかするんですよね。向こうからしても、まちの人からしても、ひょっとしたらある側面から見れば入りやすい場所なのかな、とそういう時は思うわけですよね…。多分その辺の入りやすさっていうのを伊藤さんの授業なんかは自然に授業の中でやれていたっていうことだったと思うんですよ。考えて試行錯誤して、ぴったり来る方法っていうのはなかなか何回もやらないと出てこないかもしれないですけど、今年も色々やってみたいなって想いは、ありますよね。

岡部　墨大は空気のような大学なんですよ。な

んですけど、と言いつつも僕やっぱ、職員証とかボールペンとか、加藤先生が作ってくれたアイテムもらった時、かなりテンション上がったし、学生証が墨東大学とプリントがされた封筒でうちのリアル大学に届いて学生に配布する時って、一番うれしい感じなんですよね。もらった学生もちょっと嬉しそうだし、ああいうアイテムって、小物系、テンション上がるのであれをもっとまちの人が持ってるみたいな。

加藤　そうなんですよ。だから小物系はちょっとね、不完全燃焼ですね、今回はね。

岡部　でも今日、あれですよね?

加藤　いや、もう卒業証書みたらみんなぶっ飛ぶと思うんですよ。

一同　笑

加藤　ヤバい、言っちゃった。いや、ぶっ飛ばなくてもいいですけど、作りましたよ、ちゃんと。小物系は、愛情も育む…。

岡部　持ち運べるじゃないですか。あれうちの大学で人気で。あの職員証、リアル職員証の反対側にずっと入れてたんですよ。そうすると会議とかで「何それ?」って見て、説明する感じがちょっと嬉しくて、あれがまち中で起きるかわからないけども、あのアイテムによって引き起こされるこの帰属感っていうか、アイデンティティみたいなものはうれしいですね。

加藤　ありますよね。

木村　あと、アイテムってことで言えば、アイテムからちょっと発展するものなんですけど、これからやりたいってことでもあるんですけれども、当初のビジョンとして部活みたいなものってあったじゃないですか?

加藤　あった、あった。合コンとかも。

木村　サッカー部作って、他の墨田区のチームと試合したり、それに墨大のチアリーダーみたいなのが応援しに行ったりとか、時間かかるでしょうけどやってみたいことではありますよね。

加藤　うん。

岡部　都立墨田川高校がボートかなんか強いんですよね、確かね。それを勝手に応援しにいくっていう企画はありましたよね。

加藤　木村さんのさっきのが、まとめっぽかったので、どうしましょうか。寒くなってきたし。

岡部　僕も実はまとめの意図も 2 割ぐらいあって、それは、もっと小物見たいよね。で、卒業証書も早くみたいっていう感じでした。

木村　だから、つなげてるわけですね。

加藤　なるほど。最後に付け加えるとすると、拠点を設けたんだけど、これは一体いつまで維持しようかみたいな問題っていうのかな。それをもうちょっと考えたいなって思ってるんですよね、今後のことっていう意味で言うと。

　やっぱりコミュニティの中にこういう場所を作って、っていう動きっていうのは、それこそ若者、大学生なんかもすごく好きで、やってる人はいっぱいいるんだけど、一回持っちゃうとね、今度は維持するのが大変なんですよね。これは、ここを使わせていただけるようになってからすぐに実感できたことなんだけど、これなかじがいなかったら、要するに生活感のない空間のまま多

分ずっと動いてただろうし。もちろんお金の問題もあるし、だから期限付きみたいなイメージなんですよね。それが半年なのか、1年なのかっていうのはよくわからないんだけど、「空気」と「もの」があれば…。別の言い方をすると、「空気」っていう話と、僕たちをつなぐはたらきをする「小物」があれば、うっすんがさっき「プラットフォーム」って呼んでくれたものは、もしかしたら実現できて、かならずしもこういう場所がいるかどうか…。

…これはね、壁を塗っちゃったから愛着がまた湧いちゃって、黒板壁みたいなのが「いいよな！」って思っちゃうんですけど、たぶん「空気」と「小物」でどこまでいけるか、みたいな話を追求するといいと思うんですよね。場所を背負うのはやっぱり大変だというのは、本音の部分もあるけど、その一方で僕たちのチャレンジがあるとすれば、「空気」と「もの」で、どうやってこの「仕組み」っていうのかな、活動を継続するかという話はテーマになると思いますよね。

木村　ここを借りて、便利で色々作業するにもちょうどいい場所なんですけど、やっぱりアトリエだったり、教室だったり、そういった物理的な空間になっちゃっているっていうのが、コンセプトを考えると矛盾点ではあって…。

加藤　そこはちょっとね、考えたいですよね。

木村　だんだんこういうのも必要ない感じで、やっていければいいよねっていうことですよね。

加藤　そこにいきたいですよね。…では、とりあえずこんな感じでやってきましたっていう話を、ちょっとさせていただきました。ありがとうございました。

岡部・木村　ありがとうございました。

一同　拍手

加藤　さっきから話題の…伊藤さんが来てくれました。

伊藤　そうなんですか？

加藤　大絶賛です。

木村　墨大の申し子。

岡部　でしたよね！

加藤　…それでは、卒業式をやりますか。

（了）

墨東大学を
ふりかえって

少し長めの謝辞

2010 年 10 月に「墨東大学」が開校してからは、あっという間の半年でした。紙幅が許すかぎり、今回のプロジェクトでお世話になった皆さんへの感謝の気持ちを、綴っておきます。あの大きな地震のあと、数日間は、本当に何もやる気が起きず、ぼんやり過ごしていました。それでも、楽しかった卒業式の余韻を感じつつ、冊子の編集をすすめました。

まずは bockt のメンバーである岡部大介さん、木村健世さんに感謝します。言い出しっぺであるとはいえ、もちろんぼくがすべてを背負うわけにはいかず、いろいろと調整しながらではありましたが、本当に楽しい半年でした。ありがとうございました。

昨年の 11 月 23 日、「本務校」のイベント（じつは、ぼくは実行委員会のメンバー）を中座してまで、墨東のイベント（ネットワークパーティ）に出かけた自分に、自分で驚きました。ふだんなら、予定が重なっていれば、欠席のメールを送っていたはずです。驚くと同時に、自分のなかで「墨東大学」の存在が少しずつ大きくなっていることを実感しました。たぶん、できたばかりの墨大ボールペンを、あの場で配りたかったのです。そして、皆さんが喜ぶのを見て、ニヤリとしたかったのだと思います。

それで思い出しましたが、京島校舎で使ってきたのは、まさにぼくが中座したイベント用につくられた「TATAmate」という家具ユニットで、池田靖史研究室からお借りしているものです。「お引っ越し！」のときに運び込んでから、チラシやポストカードを載せたり、毛糸の玉が並んだり、あるいは食事用のテーブルになったりと、大活躍中です。

「墨東まち見世 2010」との接点があって、「墨東大学」というプロジェクトが実現したので、関係者の皆さんには、心より感謝しています。実際には、ご一緒できる機会をじゅうぶんにつくることができませんでしたが、このご縁は、引き続き大切にしたいと思います。

さて、最近の岡部さんは、「卒業生たちを送り出す先生」っぽいツイートが目立ち、その感傷的になっているっぽい雰囲気がグッときます。岡部研の皆さんとは、2010 年 3 月の「向島キャンプ」以来、ときどき会う機会がありましたが、みんな前向きで、ときどき頼もしい感じが素敵です。とりわけ、ナカジこと中島くんには、お世話になりました。ナカジがシャッターを開け閉めしてくれたおかげで、墨大の存在を（わずかではあるかもしれないけど）アピールできたと思います。ありがとうございます。

木村さんは、初めて会った日に二人で大いに酔っぱらってから、いろいろな機会におつき合いいただいています。今回も、大変お世話になり、ありがとうございました。あいにく、少し離れた場所にいますが、木村さんと出会わせてくれたオオニシさんにも感謝しなければならないでしょう。さらに言えば、

オオニシさんを紹介してくれたのは同僚の脇田さんです。予期せぬかたちで想い浮かびましたが、ありがとうございます。

もちろん、加藤研のメンバーにもあらためて感謝です。墨大新入生ゼロ…という最悪の事態を回避するために、ほぼ「自動的に」みんなには墨大生になってもらいました。さらには卒業を目指せと言い、湘南台から曳舟までの遠距離通学をさせて、ムリヤリ「実験」につき合わせたことは否定できません。でも、この「実験」をつうじて、〈大学とは何か〉についてあらためて考える機会になりました。このプロジェクトにかぎらず、みんなの参加があってこそ実現することがたくさんあります。これからも、よろしくお願いします！

長岡健さんには、じゅうぶんな説明をしないまま講師をお願いし、寒空の下、シャッターを開けたままで講義をしていただきました。すみませんでした、そしてありがとうございました。

伊藤さちさんは、「お引っ越し！」のときから。3回にわたって、編み物のワークショップを開いていただき、ありがとうございました。また何か企画したいと思いますので、よろしくお願いします。

栗林賢さんの講座は、予定が合わず、参加できませんでしたが、雰囲気のある実習であったことが、講義録から伝わってきました。ありがとうございました。

記念すべき「卒業式」では、木村亜維子さんに、大変お世話になりました。鮮やかな色の「Bクッキー」やお赤飯、みんな、卒業を喜んだはずです。細やかな気遣い、夜なべ仕事の賜物です。ありがとうございました。

香川文さんには、日ごろいろいろ助けてもらっていますが、とくに、この冊子をまとめる作業のために、惜しむヒマもないほどのエネルギーを分けていただきました。もう少し余裕を持ってスタートさせていれば、単調な作業ばかりでなく、持ち前の編集能力をさらに発揮してもらえたのではないかと、少し後悔しています。とはいえ、しめ切りに向けての10日ほど、何度もファイルをやりとりしながらこの冊子をつくったプロセスは、とても楽しいものでした（じつは、過去形にするには、まだ早いけど…）。文字どおり「後がない」状況であったからこそ、パワーが湧いたのかもしれません。少しずつ、それでも着実に冊子が形になっていった、あの感じは、悪くないなと思います。また、つくりましょう。

本当に、多くの方がたとのご縁があってこその墨東大学だと思います。もう書ききれません。皆さん、ありがとうございました。

ビバ！墨東大学！

（加藤文俊）

謝辞

墨東大学という実験を行っていく上で、これまでも繰り返し登場した「なかぢ」（中島和成さん）の存在が大きいのは言うまでもありません。日々京島校舎のシャッターを開けてくれたなかぢ。また、2009 年から墨東地域に何度も足を運んでくれた、なかぢを含む東京都市大学環境情報学部岡部研究室のゼミ生の皆様に感謝します。そんな彼らの「学び」が展開できたのも、「墨東まち見世 2009・2010」の事務局メンバーやアーティストの方々、墨東エリアに住まう方々がいてのことです。東京都市大学のあるニュータウンとは少し異なり、いい具合におせっかいで、視線が重なるまち。なかぢが毎日京島校舎のシャッターを開けようとするのも、自分で墨大の授業を実施したりする学生がでてくるのも、墨東地域に魅力を感じて足しげく通う学生がいるのも、このまちの方々からの日々の教育があってのことだと思います。僕らは無意識のうちに、「何をしたら良いのか」、「どうしたら楽しくなるのか」といった事柄について、様々な人から受けた教育に基づいて判断し、行動していることに気づかされました。

墨東大学は、メタファとしての大学です。それは学習者の学び、そして教育について再考するための場です。墨東大学に参加する中で、私自身、そして学生がいかに教育に晒されているかを具に見ることができました。同時に、人がなぜこれほどまでに教育に熱心になるのかを考える契機となりました。大げさに言えば、家族、小中学校の担任の先生、高等教育における恩師 ... 僕らに教育を施してくれた無数の方々の存在なくして、僕らの日常は成立しないと思います。そして、僕らが教育をする意味は、将来僕らが生きる世界を「あるべき方向」にデザインするためだと理解しました。墨東大学という教育機関に参与することを通して、これまで、そして今まさに僕ら自身に教育してくれる方々への敬意と感謝の念を抱きました。大きな話になってしまいましたが、これまで、そして今関わっている人々からの／との学び、この蓄積の元に墨東大学という場が存立し得たのだと思います。みなさま、ありがとうございました。

（岡部大介）

謝辞

およそ半年間に渡って墨東のまちで行われた試み「墨東大学」は３月９日の卒業式をもって、一つの区切りを迎えることが出来ました。自分自身の中では、この「墨東大学」という物理的実体を持たない空気のような大学が、どれだけまちの中に溶け込んでいけるか、どれだけまちと共鳴しあえるか、という事が大きなテーマの一つだったように思っています。

「大学」という少し重たいモノが、より細かい粒子になってまちの空気に紛れ込み、まちに住む人々、それからまち自体と共鳴しあえる、そんな漠然とした風景を思い描いていました。

実際に半年の間、いくつかの講座や京島校舎の開校など、墨東大学にまつわる活動を行っていく中でそのような風景を垣間見ることが出来た（と思えるような）瞬間が何度かあり、充実した気分になったりテンションが上がったりもしました。講座の過程でまちの人達と沢山の言葉を交わせたこと、講座のクライアントになって欲しいとの突然のこちら側の申し出に快く応じていただけたこと、京島校舎の外から声をかけてくださった沢山の通りすがりの方々との世間話。そのどれもが自分にとっては有り難く、かけがえのない記憶となっていることは確かです。

しかしこれらの瞬間瞬間において、墨東大学に自分が求めた「空気のような大学」というコンセプトと、墨東のまちの人々が持つ許容量の大きさや優しさが、ちょうど良いバランスで溶け合えていたのかどうか、自分の中でうまく掴みきれていないという、いささかぼんやりした状態が今のところ続いています。ひょっとしたら「溶け合う」というよりも一方的にまちの人達、あるいはまちそのものに受容してもらっただけなのかもしれない。そんな思いを墨東大学の第一期が終了した今、抱いています。

東京の「西側」で暮らす自分にとっては、墨東に住む人々は暖かく包容力に満ちた素敵な人達が多く、墨東大学についても、暖かく迎え入れてもらえたという印象を持っています。このほぼ無条件に包み込まれた状態の中で、自分がどれだけのことを成せて、どれだけまちに貢献できたのか、回想しつつ考え続けていかなければなりません。そもそも「まちに溶け込む」ということ、それから「まちに貢献する」ということは容易に達成できるものではないし、また容易にその結果を計れるものではないのかもしれません。

しかし自分達の存在を受容してもらえた以上、その中で自分達の持つ可能性について考え、試行錯誤し続けることが、墨東大学がまちの空気に溶け込むということに徐々に繋がっていくのかもしれないと考えています。

墨東のまちで考え続けること、そして活動しつづけること。このきっかけを与えてくださった沢山のまちの方々、墨東大学に関わってくださった全ての人達に感謝の意を表したいと思います。

ありがとうございます。

幸いなことに、墨東大学は第二期、すなわち 2011 年度も運営していくことが決まりました。大きなものに受け入れられた状態の中で様々なことにトライし続けるということは、親に見守られながらもがく子供と同じようなものだと思います。墨東大学もそのような境遇にあるのかもしれません。できればすくすくと育っていって、いずれ少しだけでも親孝行できれば、と思い描いています。

また沢山お世話になってしまうかもしれません。あまり甘え過ぎないように気を付けます。どうか墨東大学をまたよろしくお願い致します。　　（木村健世）

おわりに

大学をつくってみた

墨東大学は、「本物の大学」ではないという意味ではバーチャルですが、確実に存在する、リアルな大学です。墨東大学をつくるとき、まずは学生、教員やスタッフという役割を担う参加者を確保する必要がありました。そして、（さほどしっかりしたものは提供できませんでしたが）時間割、カリキュラム、単位認定のルールなどを整えました。さらに、「京島校舎」という場所を使わせていただくことになって、壁にペンキを塗ったり、ガチャポン、畳の家具ユニット、冷蔵庫など、さまざまなモノが集められたりしました。これらがうまく結びつくことによって、墨東大学が生まれたのです。

メタファーとして〈大学〉を考えるとはいえ、実態をともなう存在として「実験」をおこなうためには、これらを「全体として」デザインすることが求められました。じつに多くの要素が、複雑に繊細に関連しながら、墨東大学を成り立たせています。このような「実験」は、さほどめずらしいものではないかもしれませんが、ぼくたちの関心は、人びとのコミュニケーションをつうじて「グッドプレイス（good place）」をつくることです。

もう何年も前になりますが、コミュニティというのは植物のようなもので、大事に丁寧に見守り、世話をするものだというような話を聞いたことがあります。バーチャルであってもリアルであっても、結局のところ、きめ細かいコミュニケーションへの配慮があってこそ、ぼくたちのつながりができる。このプロジェクトでは、ぼくたちのコミュニケーションを促進するさまざまな「しかけ」のあり方について考えてきました。

墨東大学のように、（本物の大学とくらべるまでもなく）とてもシンプルで簡略化された「しかけ」をつくることによって、〈大学〉という場所の本質に接近できるのではないかと考えたのです。この半年間で、グッドプレイスをつくるためには、人と人（たとえば、学生と教員、学生どうし、教員どうし）の距離（あるいは距離感）の調整こそが、大切であることを実感しました。

資源から資産へ

さて、今回のプロジェクトは、調査研究という側面から見ると、「地域力の可視化」を試みるというテーマへの取り組みでした。木村さんの謝辞の文章とも関連しますが、ぼくたちは、「地域に〈何を〉提供したか」を問う前に、そもそも「地域に〈何かを〉

提供しえたのか」を問うことが重要だと思います。

ぼくたちは、地域との関わりをもつようなプロジェクトについて語る際、よく「地域資源」や「人的資源」ということばを使います。資源（resource）ということばを使うと、エネルギー資源のように、有限で、やがては枯渇するもののように思えてしまいます。さらに、地域の資源・人的な資源は、上手に使わないと、消えゆくものだから、効率的な利用と配分を考えよう…という発想になりがちです。

ぼくは、最近は、意識的に「地域資産」ということばを使うようにしています。資産（asset）ということばだと、少しちがったニュアンスで語ることができるように思えるからです。それは、継続的に、地域にとって豊かな価値を生み出す有形・無形の「強み」を性格づける意味で使いたいことばです。ちょっとしたことばだけの問題かもしれませんが、資産ということばで発想すると、まちとの関わりかたが少し変わってきます。まちや地域がかかえる「問題」を明らかにして、解決方法を模索する志向は、資源の配分という課題と結びつくように思えます。いっぽう、まちや地域がもつ「強さ」を発見して、可能性を創造する志向は、資産の活用という発想です。

墨東大学は、問題解決というよりは、「関係変革」とも呼ぶべきスタンスで構想しました。取り組むべき問題が、あらかじめはっきりしていれば、活動をふり返って、「地域に〈何を〉提供したか」を問いかけ、成果を評価することができます。まちや地域にはどのような「資産」があるのかを知ろうという活動は、「地域に〈何かを〉提供しえたのか」をくり返し問うことになるのでしょう。その問いに向き合うとき、ぼくたちは、つぶさな観察や詳細な記述の大切さを、あらためて実感するのです。さまざまな「資産」を発見するためには、ぼくたちのまなざしを、きちんと鍛えなければならないからです。

いま、さまざまなプロジェクトがまちを舞台に展開しています。大学生（大学の研究室）がまちに出かけて、地域コミュニティと関わりをもつことは、たしかに重要です。ぼくたちは、墨東大学というアプローチをつうじて、あたりまえに見える日常のなかに、キラリと光るモノや出来事を、まちの「資産」として見留めるという態度を、ようやく身につけはじめたところです。

誇りを生み出す「しかけ」

すでに紹介しましたが、このプロジェクトでは、参加者の帰属意識を高めたり、一

体感を醸成したりするために、ロゴ入りグッズをつくりました。シンプルな赤い「B」のロゴですが、墨東大学に関わっている証として、知らないうちに大切なロゴになりました。

あの瞬間、ぼくは京島の「ペロケ」でラーメンを食べていました。慌てて店の外に出ると、コンクリートの電信柱が左右に大きく揺れていて、何かにつかまっていないと立っていられないほどでした。すぐ近くにある、墨東大学の京島校舎はだいじょうぶだろうか。「店番」に来ていた岡部研の学生たちはもちろんのこと、「卒業制作展」のために展示されている作品のことが気になりました。幸い、みんなは無事でした。不思議なもので、「大学ごっこ」のような活動でありながら、あの場所に愛おしさを抱いていたことにあらためて気づきました。京島校舎を守りたいという想いがこみ上げて、黒板に描かれた「B」の字を見て、安心感を覚えました。

ここで考えておきたいのは、場所への愛おしさという問題です。もちろん、自分たちでペンキを塗ったので、黒板そのものには愛着があります。でも、よく考えてみると、ぼくが守りたいと感じたのは「B」という墨大ロゴだったのかもしれません。あの「B」は、ひとつの記号として、確実に意味を持ちはじめていたのだと思います。この点は、3月9日の鼎談（bockt が墨大について語る）でのやりとりにも見え隠れしています。

「よそ者」であるぼくたちが、まちや地域との関わりを求めるとき、京島校舎のような拠点を持つことは重要です。まず、ぼくたちの姿がまちの人びとの目に触れる機会が増えるので、いろいろな面で、活動しやすくなっていくことは間違いないでしょう。ナカジのおかげで、少しずつ、墨大はまちの人びとに、知られていったはずです。それはまた、ぼくたちが「本気」であることを示すやり方だったと言えます。たんなる訪問者で終わることなく、しばし逗留するという覚悟の表明です。その意味で、京島校舎という物理的な空間は、さまざまな人やモノで構成される、墨東大学という「しかけ」を束ねる重要な役割を果たしました。

いっぽう、いつまで京島校舎を維持するのか（できるのか）、という現実的な問題もあります。金銭面はもちろんのこと、ぼくたちは墨東エリアに移り住まないかぎり、逗留者にしかなれないのか。いろいろなことを考えます。もちろん、墨東エリアには「寛容」という地域「資産」があるように思えます。でも、物理的な拠点をもつことが望ましいと感じていながら、どこか

にその限界を意識している。（理屈ではわかっていたものの）そのあたりのバランス感覚の難しさに、あらためて向き合う機会になりました。

木村さんが言った「空気」ということばに、ヒントがあるのかもしれません。じっくり腰を据えることはできない。でも、不思議な存在感を放つ…。おそらく、墨東大学は、そういう「しかけ」として引き続き考えていくことになるでしょう。最初は、拠点をもったとしても、やがては閉じることになる。でも、その時までには、ぼくたちの身体に「墨大プライド」ともいうべき気分をしみ込ませるような、「グッドプレイス」つくる必要があります。

それは、シャッターを閉じた後でも、ぼくたちが「B」という記号に意味を持ち続けることができるような、「しかけ」のデザインです。

墨東大学の挑戦は続く

キラキラ橘商店街を中心に半年間活動して、墨東に輝くいくつもの「資産」に触れることができました。いまは、シャッターを閉めたままの京島校舎のことが、気になります。墨東大学の卒業式を終えた直後に、まさかこのような事態になるとは、想像できませんでした。

ひとまず３月末で墨東大学の第一期は終了ですが、引き続き、秋ぐらいまでは活動したいと考えています。まだ具体的なことは決めていませんが、この半年間で学んだことをふまえて、第二期を構想したいと思います。まずは、人と人との関係について、人の強さや優しさについて、あらためて考えることからはじめます。どうしようもない無力感につつまれていますが、ぼくたちは無力ではありません。

加藤文俊

墨東大学の挑戦　メタファーとしての大学

「大学まち」のデザインをつうじた地域力の可視化に関する研究：「墨東大学」の実践と評価 事業記録集

発行日　平成 23 年（2011）3 月　【カラー PDF 改訂版】

編・著　bockt

加藤文俊（慶應義塾大学）

岡部大介（東京都市大学）

木村健世（アーティスト）

制作協力　墨東大学出版会

香川文

中島和成

発　行　東京文化発信プロジェクト室

公益財団法人東京都歴史文化財団　東京文化発信プロジェクト室

〒 130-0026 東京都墨田区両国 3-19-5 シュタム両国 5 階

TEL 03-5638-8800　FAX 03-5638-8811

E-mail　info-ap@bh-project.jp　Website　http://www.bh-project.jp/

印　刷　シュービ印刷

＊「学生とアーティストによるアート交流プログラム」参加企画

＊ NPO 法人向島学会 × 東京アートポイント計画（墨東まち見世 2010）参加企画

「学生とアーティストによるアート交流プログラム」とは、学生が地域や社会の中でアーティストと交流・協働しながら、実験的・先進的なアートプロジェクトを実施する機会を提供することを目的として、東京都と東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）が、大学等と連携して実施する事業です。東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指す「東京アートポイント計画」の一環として実施されています。

墨東大学（仮設事務局）

〒 252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322 慶應義塾大学 環境情報学部 加藤文俊研究室内

E-mail　info@bokudai.net　Website　http://bokudai.net/

ⓒ 2011 bockt & BUP　Printed in Japan.